

セレクトッド

メッセージ

1

エレン・G・ホワイト

エレン・G・ホワイトの著作からの
『セレクトッド・メッセージ』
1巻1章～4章

定期刊行物の記事や原稿、長く絶版になっていた貴重なパンフレットやトラクトから集められた重要で時宜を得た勧告。

セ
レ
ク
テ
ッド・メ
ッ
セ
ー
ジ
ー
目
次

読者への言葉

(5)

第一部

私たちの道の光

1

第一章

預言者たちの靈感

3

第二章

エレン・G・ホワイトとその著作

15

第三章

証に対する態度

39

第四章

教会への証を書き、送ること

52

第五章

初期の言葉の説明

65

第二部

クリスチャンの経験

93

第六章

愛に満ちたイエスの守り

95

第七章

キリストの支配

101

第八章

喜んで力を尽くし、用いられる

106

第九章

自己を吟味する

111

目次

第一〇章	悪天使よりも強力な善天使	118
第十一章	人間の価値	124
第十二章	天使たちの驚き	136
第十三章	聖霊を受けることの大切さ	141
第十四章	あらゆる場所で	146
第十五章	教会が目覚めます時	151
第三部	リバイバルと改革	155
第十六章	リバイバルへの召し	157
第十七章	新しい経験を大事にする	169
第十八章	公衆伝道における特別な訴え	190
第四部	み言葉を宣べ伝えよ	203
第十九章	説教すべきことと、そうでないこと	205

第二〇章	教理上の問題に対する態度	218
第二一章	空想的な教え	225
第二二章	極端な見解の危険	235
第二三章	時を定めることを警戒せよ	248
第二四章	アルファとオメガ	259
第二五章	私たちの信仰の土台	271
訳者のことば		281

読者への言葉

エレン・G・ホワイトの名前を扉に書いてある本でも、著者の死後数十年もたって出版されるものについては、説明の言葉が必要です。『セレクトッド・メッセージ』や他の預言のみ霊の著作で、一九一五年の著者の死後出版されたものは、彼女の遺言によるはつきりした規定に基づいて出版されています。

主の使命者はその死に際し、教会に不朽の宝として一〇万ページ以上の資料を残しました。それは、現在出版されている書籍と、教団の定期刊行物に載せられた四五〇〇の記事、多数のトラクト、パンフレット、絶版になった書籍、そして彼女の原稿、日記、手紙などです。

生涯の最後の数年間、ホワイト夫人にとって最大の関心事は、自分にゆだねられた預言のメッセージの今後の用いられ方、およびますます広がっていく出版の問題でした。一九一二年二月九日の遺言の中で、彼女はその著書を継続して管理するための明確な規定を定めました。

その著作を管理する責任を持つ管理委員会の終身メンバーを五名、彼女は選びました。この重要な

任務のために彼女が選んだのは、教会行政の重要な責任を負っている指導的な人物たち——当時の世界総会総理アーサー・G・ダニエルズ、同じく当時の『レビュー・アンド・ヘラルド』編集長フランシス・M・ウィルコックス、長年パシフィック・プレス社の社長であつたチャールズ・H・ジョーンズ、彼女の秘書の一人で世界総会から彼女のもとにきて働き、彼女の死後は支部総会の秘書として極東に送られたクラレンス・C・クライスラー、彼女の息子で夫ジェームズ・ホワイต์が亡くなって（一八八一年）からは母親につき添い、旅行や書物の出版、その他の助けをしたウィリアム・C・ホワイット——でした。

この委員会に対するホワイット夫人の指示によつて彼女の本を継続出版する許可が与えられ、また他の国の国語でもどんどん本を配布することができるようになり、さらに「原稿から編集して出版すること」もできるようになりました。

教会が成長するにつれて起きてくる新たな必要や難局に際して、自分の原稿やパンフレット、定期刊行物に出ている各方面の教えを編集し、出版することが求められるであろう、とホワイット夫人は預期していたのです。

彼女の死後、その著作が何冊も出版されましたが、年代順に並べると次のようになります。

『キリスト教教育の基礎』（一九二三年）

『健康への勧告』（一九二三年）

- 『牧師と福音宣伝者への証』（一九二三年）
『クリスチャンの奉仕』（一九二五年）
『青年への使命』（一九三〇年）
『医事伝道』（一九三三年）
『食事と食物に関する勧告』（一九三八年）
『安息日学校への勧告』（一九三八年）
『スチュワードシップへの勧告』（一九四〇年）
『伝道』（一九四六年）
『著者、編集者への勧告』（一九四六年）
『生き残る人々』（一九四七年）
『節制』（一九四九年）
『福祉伝道』（一九五二年）
『アドベンチスト・ホーム』（一九五二年）
『今日の生活』（一九五二年）
『文書伝道』（一九五三年）
『チャイルド・ガイダンス』（一九五四年）
『神の息子、娘たち』（一九五五年）

これらの書籍に加えて、エレン・G・ホワイトの資料の補遺が、七巻よりなる『セブンスデー・アドベンチスト聖書注解』の各巻に集められています。

本書『セレクトッド・メッセージ』は、ユニークな形で編集されています。それは、定期刊行物の価値ある記事や原稿だけでなく、貴重な古いパンフレットやトラクトで今は絶版になっているものも集めて、いつまでも用いることができるようにしたという点です。勧告の中には、一八八〇年代のころと終わりがらに書かれた靈感についての記述や、一九世紀から二〇世紀に移るころに書かれた「二つの律法」についての彼女の考え、『クリスチャンは秘密結社のメンバーとなるべきか』という一八九三年に出版されたパンフレット、苦しみや死に直面している人への慰めのメッセージ、および重要な教理問題について詳しく扱ったかなり多くの雑誌記事などが含まれています。これらの資料のあるものは、私たちの雑誌やリーフレットに再録されることによって、またある場合には、預言のみ霊を取り扱った他の著者の本の中での引用文を通して、教会の注意を引くようになりましたが、そうした他の著作は『エレン・G・ホワイト著作集の索引』には含まれていません。

『セレクトッド・メッセージ』一巻、二巻は、（もとは『エルムスヘブン・リーフレット』といっていた）『ノートブック・リーフレット』として出版されたものを含んでいます。多くの主題を取り扱っているこれらのいろいろなリーフレットは、高く評価されてきました。しかし、これらが取られたも

この文書の多くは、その後『医事伝道』『伝道』『アドベンチスト・ホーム』などに収録されました。また、収録されていない勧告や教えの部分は、『セレクトッド・メッセージ』に収録されています。従って、『ノートブック・リーフレット』は、もはや出版し続ける必要がなくなりました。『セレクトッド・メッセージ』の刊行によって、また、これまで出版されていなかった非常に貴重な若干の資料も提供することができるようになりました。

この本の各部は、それぞれ独立しています。各部の初めに序文があり、取り扱われていることの背景が述べられています。また、本文のあちこちに説明の注が入れてあります。これは、与えられた勧告を解釈するためではなく、取り扱われている点に関係があると思われる状況や特別な事情に注目を促すためです。

この『セレクトッド・メッセージ』は、エレン・G・ホワイト出版部で、エレン・G・ホワイト著書管理委員会の指導のもとに編集されました。各序文の注は、管理委員会によって承認され、「編者」と署名されています。

『セレクトッド・メッセージ』は、『エレン・G・ホワイト著作索引』に含まれています。ホワイト夫人の死後多くの年月を経て、永久に保存される形で出版されたこの本が、神によって任命された働きを教会が成し遂げるために役立つことを、出版者およびエレン・G・ホワイト著書管理委員会は心より祈るものです。

第一部

私たちの道の光

序 文

主の使命者としてのエレン・G・ホワイトの働きと、神が人間にそのみ旨をお伝えになる方法とについての彼女の言葉は、いつも助けとなり、興味深いものです。『セレクトッド・メッセージ』の第一部にあるのは、そうした言葉です。

靈感の問題は、彼女の七〇年にわたる働きの中で折々に取り上げられていますが、特に目立っているのは、一八八八年五月に書かれた『各時代の大争闘』の序文です（ここには出ていません）。それより前の一八八六年に書かれた『聖書に対する反論』と、一八八八年の秋に書かれた『神の言葉の靈感』はここに収録されています。この問題について書かれた主要な文章の第四番目は、一八八九年に出版された『聖書の神秘は、その靈感の証拠である』というもので、『教会への証』五巻の六九ページに出ています。

エレン・G・ホワイトの働きに関するいろいろな説明、一九一三年に書かれた『教会への証』を書き、送ることに『というトラクト』、および彼女の初期の著作に対する質問や非難に対する彼女の答えなどが、この第一部に収録されています。

エレン・G・ホワイト著書管理委員会

第一章 預言者たちの靈感

神の言葉の靈感

今日ほど「人の子が来るとき、地上に信仰が見られるであろうか」(ルカ一八ノ八)という質問をするのに適当な時代はありません。

靈的な暗黒が地を覆い、民ははなはだしい暗闇の中にいます。多くの教会は、聖書の解釈について懷疑的で、信仰がありません。多くの人が、実に多くの人が、聖書の真実性を疑っています。人間の推理や想像が、神の言葉の靈感を損ない、信じて受け入れるべきことが、神秘主義の雲に囲まれています。岩のような固い土台の上にはつきりと確立しているものがありません。これは終末時代の著しいしるしの一つです。

聖書は、サタンの攻撃に耐えてきました。サタンは悪人と結託して、神より出たすべてのことを、雲と闇の中に包みこもうとしたのです。しかし主は、ご自分の奇跡的な力によって、聖書を現在の形に保ってくださいました。こうして、聖書は人類に天国への道を示す地図となり、案内書となつてきたのです。

しかし、神の言葉があまりにもはっきりと無視されてきたため、聖書について神より与えられた知識を持っている者は、この世界にほとんどいません。聖書を他人に証明することを職業としている人の中にもいないのです。大学教育を受けて、学問をした人々はいますが、これらの牧者は神の羊を養っていません。彼らは、聖書が卓越した本で、宝石を掘るように努力しなければその隠れた宝を発見することができないことを知らないのです。

自分で独特な考えを持ちたいと思い、聖書より自分が賢いと思っている人たちがいますが、彼らの知恵は神の前には愚かです。啓示を越えて、すばらしいことを発見したと思つていますが、実はその考えは、神のみ旨やご計画がまったくわかっていないことをあらわしています。彼らは、有限な人間には代々隠されてきた神秘を明らかにし、説明しようとしませんが、それはちょうど自分泥の中でもがいていて抜け出すことができないのに、その泥沼から出る方法を他の人に教えているようなものです。これが、聖書の誤りを正そうとする人々の姿です。神はこういう意味で言われたのだとか、こう言われるべきであつたとか彼らは言うのですが、人間が聖書を変えることはできません。

ある人々は真面目に、「写本を書いた人や、翻訳をした人に、何か誤りがあったかもしれないとは考えられませんか」と、言います。その可能性はありません。そして、心が狭くそのことにつまずく人は、靈感を受けた言葉の中にある神秘的な点についてもつまずきます。なぜなら、彼らの弱い心では、神の目的を見通すことができないからです。彼らは、普通の人ならば神を認め、受け入れるような明瞭な事実にもつまずいてしまいます。しかし、神の言葉は明らかで美しく、魂を十分に養います。写本や翻訳のどんな問題も、あらわされた最も明らかな真理を理解するのに困難を引き起こすようなことはなく、人をつまずかせる原因とはなりません。

神は、靈感を受けた言葉を書き記すことを、有限な人間におゆだねになりました。この言葉は、旧約および新約聖書となり、墮落した世界に住む人間にとっての案内書となったのです。伝えられた教えを学び、これに従えばだれ一人として天国への道に迷うことはありません。

聖書のわかりにくいと思われるような点について、自分の限られた基準で、靈感を受けている部分とそうでない部分とに分けて考えようとする人々は、エリヤが静かな細い声を聞いた時のようにその顔を覆うべきです。なぜなら、彼らは神と聖天使の前にいるからです。天使たちは、幾世紀にわたって人々に光と知識を伝え、行くべき道を告げ、心躍るような興味ある場面を示し、象徴やしるしや実例を用いて、道しるべを一つ一つ明らかにしてきたのです。

神は、終末時代に集中して起こる危険をお示しになるにあたって、隠れた奥義をあらわすことを有

限な人間にはお任せにならず、また、どこが靈感を受け、どこが靈感を受けていないかの判断をするよう、特定の人間に靈感をお与えになってなどいません。人がその限られた判断力で聖書の靈感を判断しようとするのは、イエスの前に出て、その導きよりもっと良い方法を彼に示そうとしているようなものです。

私は、靈感を受けた言葉として聖書をそのまま受け取り、聖書全体の言葉を信じています。人々の中には、神の言葉の中に批判すべきことがあると考え、他の人々の前で卓越した知性の証拠としてそのことを明かす人たちがいます。こうした人々の多くは、利口で学識もあり、雄弁で才能もあります。彼らは、聖書の靈感について人の心をまどわすことを一生の仕事としてしまいます。その感化によって多くの人々が、彼らと同様な考えを持つようになります。このようなことがサタンの思惑通り、次々に広がっていき、「人の子が来るとき、地上に信仰が見られるであろうか」(ルカ一八ノ八)というキリストの言葉が成就するようになるのです。

兄弟方、聖書を批判してはなりません。それはサタンが喜ぶことであって、主が示しておられることではありません。

人間は、神ご自身の本については神にお任せすべきです。これは神の生きた言葉で、長年にわたって神が守ってられました。人々は、聖書のどこかの部分に疑問を持ち、文章の間の矛盾と見える欠点を探します。創世記から始めて、疑問があると思うところは切り捨て、自分の考えを優先していき

ます。それは、サタンが彼らの批判的な精神をできるだけ導いて、聖書全体について疑いを抱くようにさせるからです。彼らの批判する力は使うにつれて鋭くなり、何に関しても確信を持つことができません。こういう人たちと議論しても何の得るところもありません。彼らは、聖書そのものをあざけり、軽んじるようになっていきますが、自分ではそのことに気づかないのです。

兄弟方よ、聖書に堅く立ちなさい。聖書の正しさを批判することをやめて、み言葉に従いなさい。そうすれば、だれ一人として失われることはありません。過去幾世紀にわたり、人間の限られた思索力によって神の言葉を批判することに才能が用いられてきました。生きたみ言葉の著者である神がカーテンを上げ、その知恵と栄光をあらわされるならば、彼らは自分の価値のなさを感じ、イザヤのように、「わたしは汚れたくちびるの者で、汚れたくちびるの民の中に住む者である」(イザヤ六ノ五)と叫ぶでしょう。

単純でわかりやすい言葉は、大人や知的にすぐれた人にとってと同様に、学問のない人にも子どもにも理解されます。また、特別に豊かな知力の持ち主であっても、神のみ言葉の中に美しく価値ある真理の宝を見いだして納得することができます。一生涯研究しても極めつくすことのできない無限に深い神秘と不思議を見いだして、心が最高に満たされるのです。

あまり学問がなく、聖書を十分に知る能力や機会を持てなかった人々も、生きたみ言葉の中に慰めや導き、勧告や救いの計画を太陽の光のようにはつきりと見いだすことができます。自分で故意に目

を閉ざさない限り、知識の不足ゆえに減びることはありません。

神が、学問のある人のためにも貧しい人のためにも聖書をお与えくださったことは感謝です。聖書は、どの時代、どの階層の人々にもふさわしいものです。

原稿一六、一八八八年秋（ミネソタ州ミネアポリスにて）

聖書に対する反対

人間の心は、同じではありません。教育や思想が異なると、同じ言葉からでも違った印象を受けます。自分でははっきりしている考えでも、気質や教育、考え方の違った人に、言葉で正確に伝えるということは困難です。ただし、相手が正直で正しい考え方をする人ならば、実際の目的のために自分の考えを伝えることは十分できるものです。しかし、相手が正直でなく、真実を理解することを望まないならば、どんな言葉でも自分の都合のいいように曲げてしまおうでしょう。言葉を違った意味に取り、自分の想像を交え、意味を歪曲し、不信に陥り、その意見は全部間違っていると言います。

これが、私が書いたものをそのまま受け取りたくないと思った人々が取ったやり方です。彼らは神よりの真理を偽りしました。彼らは、出版された私の文書についても同じように取り扱いました。それは、懐疑論者や無神論者が聖書を取り扱うのと同じやり方です。彼らは自分の願望に従って文章

を歪め、違った意味に取り、故意に曲解しました。彼らは、聖書はどんなことでも証明することができる、どの教派でも自分たちの教義を正当化できる、どんなに違った教義でも聖書から証明できる、と言うのです。

聖書の記者たちは、自分たちの考えを人間の言葉で表現しなければなりませんでした。聖書は人間によって書き記されましたが、彼らは聖霊の靈感を受けていました。しかし、言葉の理解力の不完全さや人間の心の偏り、真理を巧みに避けることなどによって、多くの人が自分の気に入るように聖書を読み、理解しています。これは、問題が聖書の中にあるからではありません。それは、敵対している政治家が、法令集の中の法律の要点を論議し、その法律や適用について反対の見解を取るようなものです。

聖書は、連続した記述としてではなく、その時と場所に応じて人の心に印象づけるために、神が各時代を通して少しずつお与えになりました。人々は、聖霊に動かされて書きました。「初めに芽、つぎに花、そして実」「初めに芽、つぎに穂、つぎに穂の中に豊かな実ができる」。聖書の言葉は、私たちにとってこの聖句のようなものです。

聖書には必ずしも完全な順序とか、表面的な統一とかはありません。キリストの奇跡は、正確に順序を追って書かれてはいません。神としてのキリストの力があらわされる必要があった時に、与えられているのです。聖書の真理は、隠された真珠のようなものです。それを探し、骨の折れる努力をして掘り出さなければなりません。聖書の表面だけを見ている人は、深い知識を持っていると自分では

思っても、実際は浅薄な知識しかなく、それでもって聖書の矛盾を語り、聖書の權威を疑います。しかし、その心が真理と義務に調和している人は、神よりの印象を受ける準備ができた心をもって、聖書を探ります。光を受けた心は、全体をつないでいる黄金の系のような靈的統一を見るのです。しかし、その黄金の系をたどるためには、忍耐と思慮深さと祈りが必要です。聖書についての鋭い議論は、詳しい研究へと導き、真理の尊い宝石を明らかにしてきました。多くの涙が流され、祈りが捧げられた結果、神はみ言葉の理解をお与えになってきたのです。

聖書は、崇高で超人間的な言葉で与えられたものではありません。イエスは、人間のいる場所で人間に近づくために、人性をお取りになりました。聖書も人間の言葉で与えられなければならなかったのです。人間に関するあらゆるものは不完全です。同じ言葉でもいろいろな意味があらわされますし、また一つ一つの考えに対していくつもの表現があります。しかし、聖書は実際的な目的のために与えられたのです。

人間のタイプもそれぞれ違います。すべての人が、言葉の表現や文章を同じように理解するわけはありません。ある人たちは、聖書の言葉を自分の心や状態に合ったように理解します。先入観や偏見、感情は、正しい理解を妨げる強い影響力があります。それは聖書を読む時でも、心を混乱させるのです。

エマオへの途上にあつた弟子たちは、聖書の解釈について正される必要がありました。姿を変えて

イエスは彼らとともに歩き、人間として彼らと語られました。モーセと預言者から始めて、ご自分についてのすべてのこと、その生涯、使命、苦難と死について、神の言葉が前もって告げていた通りであつたことをお語りになったのです。イエスは、彼らが聖書を理解できるように、その心を開きになりました。もつれを解いて、聖書には統一があり、神の真理があることをお示しになったのです。今日も多くの人々は、理解する心を開いていただく必要がどんなにかあることでしょう。

聖書は靈感を受けた人々によって書かれましたが、神の思考や表現の形式で書かれたものではありません。それは人間の言葉で書かれており、神は著者として（直接的には 訳者）あらわされています。人々はよく、こんな表現は神らしくないと言います。しかし神は、聖書が神の言葉であることを示すために、ご自身をその言葉や論理や表現に入れてはおられません。聖書の記者たちは、神の代わりに書いたのですが、神のペンではなかったのです。このことは、いろいろな聖書記者を見ればわかります。

靈感を受けたのは聖書の言葉ではなく、人でした。靈感は言葉や表現に働いたのではなく、その人自身に働いたのです。彼らは聖霊の影響を受けて、思想を与えられました。しかし聖書の言葉は、個々の聖書記者の影響を受けています。神のみ心はその言葉の中にゆきわたっています。神のみ心と意志が人間の心と意志に結びついて、人間の言葉となったのです。

多様性の中的一致

一本の木には、いろいろな変化があります。まったく同じ葉はありません。そしてこの変化が、全体としての木を完全なものにしています。

聖書においても、福音書になぜマタイ、マルコ、ルカ、ヨハネが必要なのでしょう。使徒行伝はなぜ必要なのでしょう。使徒たちの手紙も、同じことについていろいろな記者が書く必要があったのでしょうか。

神は、必要な言葉をみ心のままに与えられました。同じ歴史についても、神はそれぞれの個性を持つたさまざまな人を通してみ言葉を与えたのです。そして、彼らの証は聖書という一つの本にまとめられました。それは、集会の時の人々の証を集めたようなものです。彼らは同じスタイルで書いてはいません。おのおの違った経験を持ち、その多様性がさまざまな人の必要に応じるべく、知識を広く深いものになっています。その考えも変化に富み、鑄型にはめられたような画一的なものではないので、味わい深く、心を引くような美しさがあるのです。……

すべての考えの源であられる神は、いろいろな人に同じような思想を与えられるかもしれませんが、各自はそれを違った方法で表現するかもしれませんが、そこに矛盾はないのです。このような相違が

存在することで困惑したり、悩んだりする必要はありません。二人の人が同じ事実を見て、まったく同じ方法で表現することはほとんどありません。自分の性質や受けた教育に合った、心にとまることを書くのです。同じ日光に照らされても、物体はおのおの違った色をあらわすのと同じです。

神はみ霊の靈感によつて、使徒たちに真理をお与えになりました。その真理は聖霊による彼らの心の成長に従つて表現されるものでした。しかし、心は、型に入れられたように固定しているものではないのです。

手紙五三、一九〇〇年

神は不完全な人間の言葉を用いて語られる

神は地上に住む人間の墮落した感覚、鈍い理解力でも神の言葉がわかるように、不完全な（人間の）言葉で語られます。神はこのように身をかがめてくださるのです。墮落した人間がいる所で、会つてくださるのです。聖書は、単純さにおいては完全ですが、神の偉大な考えをあらわすには不十分です。なぜなら、神の無限の考えは、思想の伝達手段である人間の有限な言葉では完全にあらわすことができないからです。聖書の表現は誇張されていると考える人がたくさんいますが、聖書記者が天よりの真理を伝えるためにもっとも強力な表現を選んでも、その思想があまりに壮大なので役に立たなくなってしまうのです。罪を持った者は、天の栄光の輝きの影しか見ることができません。

手紙二二一、一九〇一年

だれも神の言葉を批判することはできない

(バトルクリーク)教会でも、大学でも、靈感の問題が教えられ、有限な人間が、聖書のある箇所は靈感を受けているし、ある箇所は受けていないと断言しています。『レビュー・アンド・ヘラルド』誌に出た靈感についての文章は主の靈感を受けていませんし、大学では青年たちの前でこれが支持されていますが、主はそれを認めておられないことが私に示されました。神の言葉をあえて批判する時、人は聖なる地に踏み込んでいます。むしろ、恐れおののいて自分の知恵の愚かさを認め、それを隠す方がよいのです。神は、神の言葉を批判して、ある事柄は靈感を受けており、他の事柄は靈感を受けていないと判断する人をお立てになつたことはありません。証の書も同じように取り扱われましたが、それは神のみ旨ではありません。

手紙二二、一八八九年

*これは、靈感には「いろいろな程度」があると主張する一連の記事を指している。『レビュー・アンド・ヘラルド』

一八八四年一月一五号参照。

編者

第二章 エレン・G・ホワイトとその著作

ドクター・パウルソンへの手紙

一九〇六年六月一日、カリフォルニア州セント・ヘレナにて

愛する兄弟

私が南カリフォルニアにいる時、あなたの手紙が来ました。数週間、その病院事業の発展に関係したことを考えたり、地震とその教訓についての見解を書くことで、私の時間も力も取られていました。

しかし、今はあなたや他の人たちからの手紙に返事を書かなければならない時です。あなたは手紙

の中で、若い時から証の言葉に対する絶対の信仰を持つように訓練されたことを述べ、「あなたが公にまたは個人的に語られたすべての言葉や、あなたがいかなる状況のもとで書かれたものでもすべての手紙は、十戒と同じように靈感を受けたものである」という結論に導かれ、固くそう信じている」と言いました。

兄弟、私の書いたものをよく調べられたら、私がこのようなことを言ったことはなく、み事業の開拓者たちもこのような主張をしたことのないことがわかりになるでしょう。

『各時代の大争闘』の序文の中で、十戒と聖書についての私の言葉を読まれたことと思います。それは、この問題を正しく理解する助けとなります。そこには次のように書いてあります。

「聖書は、神をその著者として指し示す。しかし、それは人間の手で書かれた。そしてその種々の書の異なった文体は、それぞれの訳者の特徴を表わしている。そこにあらわされている真理は、みな『神の靈感を受けて書かれたもの』であるが、それは人間のことで表現されている（テモテ第二・三ノ一六）。限りなきおかたである神は、聖霊によって、ご自分のしもべたちの心と頭に光をお与えになった。神は、夢とまぼろしと象徴をお与えになった。そして、このようにして真理を啓示された人々は、その思想を人間のことであらわしたのである。

十戒は、神ご自身によって語られ、神ご自身の手によって書かれた。それは神がおつくりになったものであって、人間のつくったものではない。しかし、神から与えられた真理が人間のことで表現

されている聖書には、神的なものと人間的なものとの結合がみられる。このような結合は、神の子であると同時に人の子であったキリストの性質のなかにもあった。このように、『言は肉体となり、わたしたちのうちに宿った』ということは、キリストご自身についてと同様に、聖書についても言えるのである（ヨハネ一ノ一四）。

聖書は、時代が異なり、身分や職業、また知的靈的な才能も広く異なった人々によって書かれたので、その中の諸書は、そこに示されている主題の性質が異なっていると同時に、その文体にもいちじろしい対照がみられる。それぞれ異なった記者によって、それぞれ異なった表現形式が用いられている。同じ真理を、ある記者は他の記者よりも特にめだって強調していることがよくある。幾人かの記者が、異なった角度と関連から一つの主題を示しているのに、浅薄に、不注意に、あるいは偏見をもって、これを読む者には、相違や矛盾があるように思われるかも知れないが、思慮深い、敬虔な者が、はつきりした眼でこれを読めば、その根底には調和があることに気づくのである。

真理は、いろいろな人によってあらわされているので、いろいろな角度から示されている。ある記者は問題のある一面に特に強い感動を受けている。彼は、自分の経験や自分の知覚力、認識力に合う点を把握している。またある者は、これとは異なった一面を把握している。そしておのおのは、聖霊のみちびきのもとに、自分の心に最も力強く訴えるものを示しているのである。すなわち、それぞれに真理の異なった一面をもっているが、しかしそこには、全体を通じて完全な調和がみられるのであ

る。このようにしてあらわされた真理は、結合して完全な全体を構成し、人生のあらゆる境遇と経験の中にある人々の要求にこたえるのに適したものとなっているのである。

神は、ご自分の真理を、人間を通して世にお伝えになった。そしてご自分の聖霊によって、人々に、この働きをなす資格と能力をお与えになった。神は人を導いて、語るべきことと書くべきことをえらばせられた。宝は土の器である人間に託されたが、しかしその宝が天来のものであることにはかわりがない。あかしは、人間のことばという不完全な表現を通して伝えられたが、しかしそれは神のあかしである。神を信ずる従順な子らは、その中に、恵みと誠とに満ちた、神の力の栄光を見るのである。 日本語訳『各時代の大争闘』上巻・序文(一)～(三)ページ。

証の書の純粋性

以上の言葉と完全に調和しているのは、一八八二年六月二〇日に書いた、「証がかえりみられなかった」という文の中の私の言葉です。これは『教会への証』五巻(証三一)六二～八四ページに納められ、出版されました。これからいくつかの文章を引用しますので、考えてみてください。

「過去長年にわたって真理を擁護してきたことで自己満足している人がたくさんいます。彼らは、過去の試練や服従に対して報いを与られてもよいと思っています。しかし過去において、神のことに ついての純粋な経験を持っていたのに、その純粋さを保って完全に向かつて前進しなかったのは、よ

り一層の責任があり、罪なのです。過去において忠実であったことは、現在の不忠実の代わりにはなりません。きのう真実であったことはきょうの虚偽の代わりにはならないのです。

『ホワイ特姉妹はご主人の影響を受けており、証の書は彼の精神と判断によって書かれている』と言って、証の書を無視する言い訳にする人が多くいました。自分の行動を正当化したり、自分のために役に立てたりできると思われることを、私から得ようとする人たちもいました。神の改変力が教会に見られるまでは、書くことをやめようと決心したのはその時です。しかし主は、私の心に重荷をお与えになりました。私は、あなた方のため熱心に労しました。これが主人と私にとってどんなに大きな犠牲であったかは、天国に行つてわかるでしょう。主が教会の状態を長年にわたつてたびたびお示しになったので、私が教会の状態を知らないはずはありません。警告が繰り返し与えられてきたのに、決定的な変化は起きていないのです。……

今でも、警告や譴責の証を送ると、あなた方の多くは、それはホワイ特姉妹の意見にすぎないと言います。しかし、それは神のみ霊を侮辱することになるのです。預言のみ霊を通して、主がご自身をあらわされたことをあなた方は知っています。過去、現在、未来のことが示されました。私が初め幻で示された時知らなかった人で、何年もあとで実際に会った時初めて知った人もありました。

前もつてはつきり示されていたことを、真夜中に目をさまして手紙に書いたのが、大陸を横断し、神のみ事業が危機に直面しているときに届いて、大きな禍いを救ったこともありました。これが長年

の間、私がしてきた仕事です。一つの力が私を動かして、私が考えもしなかった悪を責めるように導いてきました。過去三六年間のこの働きは、上からのものでしょうか、あるいは下からのものでしょうか。……

私がコロラドへ行った時、あなた方がことが心配になって、体が弱っている中でキャンプミーティングの時に読んでもらうように何ページも書きました。力もなく、震えながら、午前三時に起きて書いたのです。神は土の器を通して語られました。これはただの手紙にすぎない、とあなた方は言われるかもしれませんが。確かに手紙ですが、神のみ霊に動かされて、私に示されたことをあなた方の心に訴えたのです。私の書く手紙や証の中で、私は主が示されたことを伝えていきます。単に私だけの考えを書いたものは一つもありません。みな神が幻のうちに示されたことであり、神のみ座からの尊い光なのです。……

どんな声を神の声と認めますか。あなた方の誤りを正し、あなた方の歩みの本当の姿を示すために、主はどんな力を持っておいでになるのでしょうか。教会の中にどんな力が働くべきでしょうか。すべての不確実のかげがなくなり、すべての疑いの可能性が除かれるまで信じることを拒むならば、決して信じることはできないでしょう。完全にわかるまでは疑いを持つというなら、信仰に至ることはできません。信仰は論理的な証明によるのではなく、信じるに足る証拠を土台としています。義務に反する道を行くようにいろいろな声が聞こえてくる時、主は義務を果たす道を選ぶように求められます。

それには、神の声を聞き分けるために熱心に注意していることが必要です。自分の好みや傾向をおさえ、交渉や妥協を排して、良心の声に従わなければなりません。そうでないと、良心の声は鈍り、自分の意志や衝動に支配されるようになってしまいます。

主のみ言葉は、神のみ霊に聞き従い、反抗しないならば、すべての人に与えられます。そのみ声は、警告し、勧告し、あるいは叱責します。それは、神の民への主より来る光のメッセージです。もし、もっと大きな声やもっとよい機会を待つならば、その光は取り去られ、私たちは暗闇の中に残されるかもしれません。……

兄弟方、こう言うのは心が痛むのですが、あなた方は光の中に歩むことを怠る罪のため、暗黒に閉ざされているのです。正直に言えば、光を認めず、これに従わず、疑いを抱き、神のみ旨を無視したので、あなた方の感覚は狂って闇を光と思い、光は闇となったのです。神は完全に向かって進むよう、お命じになりました。キリスト教は、前進する宗教です。神よりの光は十分に与えられていて、私たちが求めるのを待っているのです。主のお与えになる祝福は、限りがありません。私たちは、無尽蔵の倉から引き出すことができるのです。懷疑主義は福音の聖なる要求を嘲笑したり、拒否したりするかもしれません。この世的な精神は多くの人に広がり、ある人々を支配します。神のみ事業は、非常な努力と不断の犠牲を払って守っていかねばならないかもしれませんが、ついには勝利するのです。

神よりのみ言葉は、『前進せよ、各自の義務を果たせ。そして、結果は神に任せよ』です。イエスの導きに従って前進すれば、神の勝利を見ることができ、神の喜びにあずかるのです。勝利の冠を得るためには、戦いにもあずからねばなりません。イエスのように、私たちも苦しみを通して完全にされるのです。キリストのご生涯が安易なものであったなら、私たちも怠惰に安んじていられるかもしれませんが。しかし、イエスのご生涯の特徴は、絶えざる克己、苦しみ、自己犠牲でしたから、私たちも、イエスにあずかる者ならば、苦しみにあっても何の不平もないはずです。私たちを導く世の光であるキリストを持っているなら、最も暗い道でも安全に歩くことができます。……

主がこの前、あなた方のことを私に示してください、あなた方が与えられた光をかえりみなかったことを知らされた時、主はみ名によってあなた方にはつきりと語るよう、私にお命じになりました。神の怒りが、あなた方に対して燃え上がったからです。次の言葉が私に語られました。「あなたの仕事は神よりの任命です。多くの人があなたの言葉に従わないでしょう。彼らは偉大なる教師である神に聞くことを拒んでいるからです。彼らの道は、自分たちには正しいと見えるので、それを直そうとはしません。しかし、彼らが聞かなくても、私が送った譴責と警告を与えなさい。」……

これらの引用文に関連して、『教会への証』五巻六五四〜六九一ページの「証の性質とその影響」を学んでください。

あなた方が引用した証三一（『教会への証』五巻六七ページ）の言葉は間違っていない。「私の記

したこれらの手紙に、主が私に示されたことを書きました。私自身の考えを述べたところは一つもありません。これらは神が幻の中に私に示されたことで、神のみ座から輝き出た尊い光です」。このことは、印刷物の中の記事や、私の多くの書物についても同じです。私はみ言葉に従って、神の律法の教訓の中から教えを受けました。また、キリストの教訓から選ぶように導かれたのです。私の書いたものの中で取られている立場は、イエス・キリストの教えと調和していませんか。

人を迷わすような表現の危険

あなたの質問のいくつかについて、私は「はい」とか「いいえ」とかいう答えはできません。誤解を招くような言葉を述べることはできないのです。神が私に与えられたメッセージについての、人を迷わすような言葉を聞いて、時としてその魂を危険に陥れた人々のことを私は示され、また実際に見ています。私の言葉を歪め、間違った推論をして、自分の個人的な不信を正当化しようとする人たちがいます。はっきりした証拠もないのに疑い、懷疑主義となり、間違った推理をして霧の中を歩いているような兄弟たちを気の毒に思います。彼らのある人々は、その霊的な視力をくもらせている障害が取り除かれ、正しく見ることであれば勧告を与えるメッセージによつて祝福を受けることができず、神のみ霊が、彼らの抱いている神秘主義を追い払えば、昔同様、私が与えるように導かれたそ

のメッセージの中に、全き慰めと信仰と希望を見いだすことができるのですが。

真理は確実に勝利します。人間をサタンの惑わしからあがない出すために命を与えてくださった方は、眠ることなく見張っていてくださいます。そのお方の羊たちは、見知らぬ他の人たちの声に従うのをやめる時、自分たちが喜んで従いたいと思った方の声を聞いて、本当にうれしく思うのです。

キリストの生涯を学ぶことによつて、尊い教訓を得ることができます。嫉妬深いパリサイ人たちは、もし正しく受け取れば彼らの霊的理解に益となったはずのキリストの行為と言葉を曲解してしまいました。キリストの哀れみ深さをほめる代わりに、不信心にも弟子たちの前で非難しました。「なぜ、あなたがたの先生は、取税人や罪人などと食事を共にするのか」(マタイ九ノ一一)。救い主ご自身に質問すれば自分たちの悪意がすぐわかるので、彼らは弟子たちと話し、彼らを責め、悪のパン種として大きな害を及ぼしました。もし、キリストが誠実なお方でなかったなら、彼を信じて従っていた人々の信頼を失っていたはずです。しかし、キリストに対する信頼感があったので、弟子たちは悪意をもつて非難する人々のあてつけにも耳を貸しませんでした。

弟子たちを非難しようとして、彼らはたびたび、あなたの弟子たちはどうして律法にかなわないことをするのですか、という質問をキリストにしました。そして、キリストが律法を犯したと考えたときは、キリストには言わないで、弟子たちに語りかけ、その心に不信の種をまこうとしたのです。

こうして、彼らは疑いと不和をもたらそうとしました。あらゆる手段を用いて、小さい群れの心に

疑いを起こさせ、イエス・キリストの福音の持つ恵みの業を妨げるようなものに心を向けさせようと思いました。

これと同じ性質のことが、今日、真の信仰を持っている人々の上にも起こります。主イエスは、人の心をお読みになります。ご自身やキリストを信じる弟子たちについての、すべての人の考えの動機や関心をご存知です。そして、過ちを見つけようとしている人々の思いに、こうお答えになります。「丈夫な人には医者はいらない。いるのは病人である」(マタイ九ノ一二)。傲慢なパリサイ人たちは、自分の信仰深さや清さを誇り、他人の生活に対してはすぐに非難の目を向けていたのです。

手紙二〇六、一九〇六年

主の使命者

昨晚幻の中で、私は神の民の集会で現代の真理と現代の義務について、明確な証を語っていました。話のあとで、多くの人が私のまわりに集まってきて質問しました。彼らはいろいろな点について多くの説明を求めました。私は、「一つ一つ順々にしてください。そうでないと私は混乱してしまいます」と言いました。

それから私は、「何年もの間、みなさんは主が私になすべき仕事を与えられた多くの証拠を見てこら

れました」と言いました。「これらの証拠は、これ以上のものはないほど著しいものでした。あなた方は、これに対する人々の不信を聞いて、これらの証拠をくもの巣を取り払うように取り去ってしまいませんか。私の心が痛むのは、今困惑し、動揺している人々は、よく考え、祈り、理解できる多くの証拠と機会があったのに、神が終末時代の惑わしから救うために与えられた警告を拒ませる詭弁の本質を、見きわめることができないということです。」

ある人々は、私が預言者であると主張しなかったこと^{*}につまずきました。そして、「これはどういうわけですか」と尋ねました。

私はそのような主張をしていません。私は、**自分が主の使命者であると告げられた**、と言っているだけです。主は私の若い時に、主の使命者として召されました。主の言葉を受け、主イエスの名によって明確なメッセージを伝えるためにです。

若い時から、あなたは預言者ですか、とたびたび尋ねられました。私はいつも、私は主の使命者です、と答えてきました。多くの人が私を預言者と呼んだことを、私は知っています。しかし、私は自分で預言者という名称を主張したことはありません。私の救い主は、私を主の使命者と言われました。

*この言葉は、一九〇四年一〇月二日にバトルクリークでなされた話に関連している。その中で 彼女は、「私は、自分が預言者であるとは主張いたしません」と語った。 編者

救い主は、「あなたの仕事は、私の言葉を述べることです。人々の知らなかったことが起こるでしょう。間違っている人に教えを与え、信仰を持たない人々にみ言葉を伝え、正しくない行動に対してペンと言葉で譴責を与えるために、あなたの若い時にあなたを選んだのです」と言われました。また、「み言葉から熱心に勧めなさい。私の言葉をあなたに開いてあげましょう。それはわからない言葉ではありません。私が与える使命が、単純な本当の雄弁さを持って声とペンで、学校教育を受けたことのないあなたから伝えられるでしょう。私の霊と力があなたに伴います。

人を恐れてはなりません。私の盾があなたを守るからです。語るのはあなたではありません。警告と譴責のメッセージを与えるのは主です。いかなる状態にあっても真理から離れてはなりません。私があるに与える光を伝えなさい。この終末時代に対するメッセージを書物に書き、永久的なものとし、ひとたびは光を喜んだものの悪の誘惑の力に負けて光を捨ててしまった人たちに対する証としなさい」と言われました。

なぜ私は預言者であると主張してこなかったのでしょうか。現代は、大胆にも自ら預言者と主張する多くの人々が、キリストのみ業に対する非難の原因となっていていますし、また私の働きは「預言者」という言葉よりもっと広い多くのことを含んでいるからです。

初め、この働きが与えられた時、私はこの重荷をだれかほかの人に与えてください、と主に願いました。この働きは大きく、広く、深いので、私にできるようには思えなかったのです。しかし、聖霊

によって主は、主のお与えになった働きを私ができるようにしてくださいました。

多くの特徴を持った働き

神は、特別の働きを進めるために私をお用いになるいろいろな方法を明らかにしてくださいました。幻が与えられて、「もしあなたが忠実に使命を宣べ伝え、最後まで忍耐するならば、命の木の実を食べ、命の川の水を飲むでしょう」という約束が与えられました。

主は、健康改革について大きな光を与えてくださいました。夫とともに、私も医療伝道の働き人とならねばなりませんでした。病人を家に連れてきて世話をし、教会の模範とならねばなりませんでした。私はこれを実行し、婦人や子どもたちに効果的な治療を致しました。また、主に任命された使命者として、クリスチャンの節制の問題について教えなければなりませんでした。私は心を込めてこの働きに従事し、最も広い、また本当の意味の節制について、多くの会衆に語りました。

私は、真理を信じると告白する人々に、真理を実行しなければならぬことを強く勧めるよう、教えられました。これが聖化です。聖化は、すべての能力を主に奉仕するために訓練し、伸ばしていくことを意味します。

私は傷つけられた人々を見過ごさないように命じられました。特に、公の権威を持っている人々の、福音の使者に対する独断的な横柄な行為に抗議するよう、命じられました。愉快な仕事ではありません

んでしたが、圧迫する人々を譴責し、正義が行われるように訴えなければなりませんでした。

責任ある地位にいる人々が、高齢の牧師たちを大事にしていらないのを見た時は、私はこの問題を、その任にある人々に知らせなくてはなりません。仕事を忠実にした牧師たちが、健康を害して弱くなった時、忘れられ、かえりみられないようなことがあってはなりません。年会は、仕事の重荷を負ってきた人々の必要を心にとめなければなりません。ヨハネがパトモスに流されたのは、主に仕えて老齢になってからのことでした。そして、あの寂しい島で彼は、その時までを受けたよりもっと多く、天からの情報を受けたのです。

私は結婚してから、父母のない子どもたちに対して特別の関心を持ち、しばらくの間ある子どもたちを家に引き取って世話をし、それから家を探してやるように、と指示を受けました。このようにして、私は人々ができることの模範を示したのです。

たびたび旅行しなければならず、書かねばならないことも多かったのですが、私は三歳と五歳の子どもを引き受け、教育し、訓練して、責任ある地位につけました。時々、一〇歳から一六歳までの少年を家に引き取り、母親として世話をし、奉仕のための訓練を与えました。私は、各教会の人々が責任を感じなければならぬ仕事を示すことが、自分の義務と感じたのです。

オーストラリアでこれと同じような仕事をしました。誘惑にさらされ、その魂を失う危険にさらされている親のない孤児を、家に引き取ったのです。

オーストラリアでも、私たちはクリスチャンの医事伝道者として働きしました。時々クーランボンの私の家を病人や苦しんでいる人々の保護施設にしました。バトル・クリーク・サニタリウムで訓練を受けていた私の秘書は、私と一緒に宣教看護婦の仕事をしました。彼女の働きに対して料金は取りませんでした。私たちが病人や苦しんでいる人に示した関心を見て、人々は私たちを信頼しました。しばらくして、クーランボンに健康回復のための保養所が建てられました。そして、私たちの重荷も取り除かれたのです。

高慢な主張はしない

私が預言者であると主張したことは、一度もありません。だれかが私をそう呼んだ時は、別に争いはありませんでした。しかし、私の仕事は多方面にわたっているので、使命者、すなわち神の民に神よりと与えられた使命を伝え、神の指示に従っていかなる方面の働きでも取り上げるために遣わされた者、と言うよりほかはなかったのです。

この前、バトル・クリークに行った時、多くの会衆の前で私は自分が預言者であるとは言いません、と話しました。二回このことに触れ、そのたびに「私は預言者であるとは言いません」と言ったので

*これはホワイト夫人の共労者を意味する。ジェームズ・ホワイトは一八八一年に死亡した。

す。もし私がもつと別の言い方をしたとすれば、私が言おうとしたことは、私は預言者とか女預言者とかの肩書きを主張していない、ということでした。みなさんにこのことをわかっていただきたいです。

ある人々は、ホワイト夫人は何年も前に病院の木立の中や教会やバトル・クリーク郊外で開かれたキャンプミーティングなどで語った時と、今も同じ考えかどうかを知りたがっています。彼女がきょう話すメッセージは、六〇年にわたる伝道生涯の中で語ってきたことと同じです。少女時代に主が与えられたのと同じ奉仕をしています。同じ教師である神から教えを受けています。彼女に与えられた指示は、「私が示したことを人々に告げなさい。私が与えたメッセージを人々が読めるように書きなさい」ということです。これが、彼女がしようと努めてきたことなのです。

私は多くの本を書きましたが、それらは広く読まれてきました。私自身では、これらの本の中にあるような真理を書くことはできませんが、主がみ霊の助けを与えてくださいました。これらの本は、過去六〇年にわたって主がお与えになった教えを示していて、天よりの光を持ち、研究のテストに耐えるものです。

七八歳になって、私はなお働いています。私たちはみな主のみ手の中にいるのです。私は神に頼ります。神は頼る者を離れたり、見捨てたりはなさいません。私は神の守りに自分自身をお任せしています。

「わたしは、自分を強くして下さったわたしたちの主キリスト・イエスに感謝する。主はわたしを忠実な者と見て、この務に任じて下さったのである」(テモテ第一・一ノ一二)。

『レビュー・アンド・ヘラルド』一九〇六年七月二六日

預言者より広い働き

お話の中で、私は自分が預言者であると主張したことはない、と言いました。ある人々はこの言葉を聞いて驚きました。そして、これについていろいろなことが言われましたから、私が説明しましょう。他の人たちが私を預言者と呼んだことはありますが、私は一度もそう言ったことはありません。私は、私自身をそう言わなければならない、と感じたこともありません。今日、大胆にも自分は預言者であると言っている人々が、しばしばキリストのみ業に対して非難を招いています。

私の働きは、この名前よりはるかに広い範囲にわたっています。私は自分を、主がその民のための使命をゆだねられた使命者だと思っています。

手紙五五、一九〇五年

私の働きの性質についていろいろ推測する人々によって妨げられてはならない、と私は教えられました。彼らは、いわゆる預言者の仕事と思われることに関連した多くの複雑な問題を一生懸命考えています。私の任務は預言者の仕事を含んでいますが、それだけではありません。疑惑の種をまいてい

る人が考えているよりはるかに広い範囲にわたっているのです。

手紙二四四、一九〇六年（バトル・クリーク教会の長老たちに宛てたもの）

光を受けて与える

私が幻の中にいる時とそれから出てきた時の状態について、多くの質問がありました。主が幻を与えようと思われるとき、私はイエスと天使の前に連れて行かれ、地上のことは全くわからなくなります。私は、天使が指し示すその先を見ることはできません。私の注意は、しばしば地上のできごとに導かれます。

時には遠く未来に連れて行かれ、何が起こるかを示されます。また、過去に起こった事柄も示されます。私が幻から出てきた時、幻の中で見たすべてのことをその場で記憶してはいません。そして、私が書く時までにはあまりはつきりしていません。書き始めるとその場面が幻で示されたようにはつきりあらわれて、自由に書くことができます。時には、私が見たことが、幻から出ると隠され、その幻の当てはまる人々の前に行くまでは、それを思い出すことができません。その人々の前に来ると、私の見たことが強く心によみがえってきます。私は、幻を見る時と同じように、それを話したり書いたりするときも、主のみ霊に頼っています。主が幻を語らせ、書かせられる時がきて、私が幻

の中で見たことを主が私の前に示してくださらなければ、思い出すことができません。

『霊の賜物』（一八六〇年版）二巻二九二、二九三ページ

私は、幻を受ける時と同じように幻を書く時も主のみ霊に頼っていますが、私が見たことを書きあらわす時の言葉は、天使が語った言葉以外は私自身のものです。天使の言葉の場合は、いつも引用符で囲んでいます。

『レビユー・アンド・ヘラルド』一〇月八日一八六七年

ホワイト姉妹は、自分がその権威であるかのように非常に断定的に語ることがするのはなぜですか、という質問があります。それは私が、はつきりしないために困惑している時に、ちょうど荒れ狂う嵐の中で暗黒の雲から輝き出る稲妻のように私の心にひらめくものがあるからです。何年も前に示されたある場面は、記憶していませんが、与えられた教えが必要になった時、またある場合は、その人々の前に私が立った時、突然記憶がはつきりよみがえってくるのです。稲妻の閃光のように、その特別な指示が明確に心によみがえってきます。このような時は、新しい幻を見たのではなく、何年も前に示された幻が強く思い出されて、心にひらめいたことを言わずにしていることができなくなるのです。

『教会への証を書き、送ること』二四ページ

間違いがないというのではない

私たちは多くのことを学び、またさらに多くのことを学び直さなければなりません。間違いがないのは神だけです。自分の抱いている考えを決して変える必要はないと思い、その意見を変えない人々は、失望するでしょう。自分自身の考えに固執し、決してそれから離れられないならば、キリストの祈られた一致に至ることはできません。

『レビュー・アンド・ヘラルド』 一八九二年七月二六日

無謬ということについて、私は一度もこれを主張したことはありません。神だけが無謬です。神の言葉は真実であり、神には変化も回転の影もないのです。

手紙一〇、一八九五年

聖なるものと一般のもの

一九〇九年三月五日、カリフォルニアのサニタリウムにて

数年間、南カリフォルニアにおいて働き人であったA兄弟のことを心配しています。彼は、ちよっ

と理解のできないことを言いました。彼にとって矛盾と見えることがあるので、証全体が信じられない、と言っているのを見て、心が痛みます。それは、私が言ったパラダイス・バレー・サニタリウムの部屋の数についてのことです。A兄弟は、南カリフォルニアのある兄弟に宛てた私の手紙の中に、そのサニタリウムには四〇の部屋があると述べられていたが、本当は三八しかなかった、と言うのです。A兄弟はこのことから証を信じられなくなった、と言いました。……

パラダイス・バレー・サニタリウムの部屋の数は、主からの啓示ではなく、人間の考えだったので。私たちのどの病院についても、はっきりその数が示されたことはありません。それについての私の知識は、それを知っていると思われる人から聞いたものです。このような一般のことについて語る時、私の言葉には、私が幻の中で示されたことを語っている時のような主からの幻と信じさせるものは何もないのです。……

聖霊が、過去において私を通してお示しになったように、神のみ事業にかかわっている病院について何かをお示しになる時、または人の心に対する神の働きについて聖霊がお示しになる時、与えられたメッセーじは、それを必要としている人のために与えられた光と考えなければなりません。しかし、聖なることと一般のことを混同するのは、大きな間違いです。このような傾向の中に、魂を滅ぼす敵の働きを見ることができます。

神がお造りになったすべての魂に、神は、神に仕える可能性をお与えになりました。しかし、サタ

ンは絶えず魂を誘惑して、奉仕の働きを困難にします。サタンは靈的知覚を鈍くさせ、人々が一般のものと聖なるものの区別ができないようにさせます。私は生涯主に仕えて、この区別を知ることができるようにさせていただきました。……

私に來たメッセージは、「人間にゆだねられた最高の働きに献身しなさい。私はあなたに氣高い抱負と力とキリストの働きの眞の自覺を与えます。あなたは神の子の命と死によって代価を払って買われたので、あなたのもものではありません。また、神は聖靈の清めによってあなたの純粋な心と奉仕とを求めておいでになります」というものでした。

私は、私のすべてを神に捧げ、すべてにおいて神の召しに従いました。その時以來、私の生涯は書くことと、大勢の会衆に語るることによつてメッセージを伝えることに用いられてきました。このような時に、私の言葉と行動を支配するのは私ではないのです。

しかし、一般のことを言い、一般のことを考え、一般の手紙を書き、情報を働き人の一人ひとりに伝えなければならないこともあります。このような言葉や情報は、神のみ靈の靈感によるものではありません。時には宗教的に関係のない質問を受けることもあり、これにも答えなければなりません。私たちは、家や土地のこと、取引のこと、施設の位置やその利点、欠点などについて話し合います。

私は多くの変わった問題について手紙を受け取り、私に与えられた光に従つて勧告を与えます。人々は、私が神より示された勧告にたびたび反対しました。それは、彼らが与えられた光を受けることを

好まないからです。そして、このような経験を通して、私は主を最も熱心に求めるようになったのです。

原稿一〇七、一九〇九年

第三章 証に対する態度

初期の声明

現代の真理に立っていても幻を無視している人たちの状態を私は見ました。幻はある場合、聖書の真理から離れている人々を教えるために神が選ばれた方法です。幻に反対することは、神が語られる弱い虫のような器である私に反対しているのではなく、聖霊に反対しているのです。その器に反対するのは小さいことですが、神の言葉を軽く見るのは危険です。間違いを示すために幻を選ばれた神の教えを無視すれば、自分の誤った道を歩くことになり、気がついたときはもう遅いのです。そして悩みの時に、苦しみながら神に助けを求めるのです。「なぜ私たちの誤りを正して、この時のために準備できるようにしてくださいさらなかったのですか」と、彼らが叫ぶのを聞きました。すると一人の

天使が彼らを指さし、「天の父は教えられたが、あなた方はそれを受け入れなかった。神は幻を通して語られたのに、あなた方は神の声を無視したのです。それで神はあきらめ、あなた方のなすままに放置されました」と言いました。

片面刷りの印刷物『生ける神の印を受けている人々へ』一八四九年一月三一日

終末時代の安全な導き

過去半世紀にわたって、ゆたかな道徳的感化が与えられました。預言のみ霊に対する信徒の信仰を固くするため、聖霊を通して神の声が警告と教訓を与えてきました。「私の民がその立場に対する信仰を固くするために、私が与えたことを書きなさい」という言葉が繰り返し語られました。時がたち、いろいろな試みが来ても、与えられた教訓は無効にならず、苦しみと自己犠牲の年月を通して、証の真理が確立されてきました。初期に与えられたメッセージの教訓は、この終末の時代にも安全な導きなのです。この光と教訓に無頓着な人々は、明らかに告げられているわなを逃れることができず、つまり、倒れ、わなにかかって取り去られてしまうでしょう。「ヘブル人への手紙」二章を注意深く学ぶならば、与えられた真理の一つ一つの原則を固く守ることがどんなに大切かを知ることができます。

『レビュー・アンド・ヘラルド』一九〇七年七月一八日

いろいろな態度

間もなく、神のみ霊の真理を割り引きし、曲げようとするあらゆる努力がなされるでしょう。私たちは一八四六年以来、神の民に与えられてきた明瞭で率直なメッセージを喜んで受け取らなければなりません。

一度は私たちと同じ信仰を持っていた人で、新しい変わった教理に関心を持ち、世間を騒がせるようなことに心を向ける人が出てきます。彼らはあらゆる誤謬を持ち出し、人々を惑わすために、それがホワイト夫人から来たものである、と言うでしょう。……

主から与えられた光を一般のものと同じように取り扱う人は、与えられた教訓から益を得ることはできません。

神が与えられたメッセージを、自分が霊的に目が見えない状態であるために誤って解釈する人がいます。

自分の信仰を捨ててメッセージの真理を否定し、誤謬である、と言う人もいます。

ある人は真理をあざけり、何年もの間神が与えてくださった光に逆らい、信仰の弱い人はこれを見て迷わされるのです。

しかし他の人々は、このメッセージによって大いに助けを受けます。直接自分に宛てられたものでなくても、彼らは誤りを正し、指摘された悪を捨てるようになります。……主のみ霊がその教えの中にあり、多くの人の心にあつた疑いが取り去られます。聖書が聖書によって説明されるように、証自身が、与えられたメッセージを説明する鍵になります。救われるために何をすべきかを学ぼうとして、誤りを責めるメッセージを熱心に読む人々が多くいます。……一八四六年以来神がその民にお与えになったメッセージの中に、聖書の真理がはつきり単純な形で示される時、光が与えられてそれを理解する心が開かれ、聖霊は心に深い印象を与えます、これらのメッセージは心に入り、そして変化が起るのです。

手紙七三、一九〇三年

靈感を受けたメッセージを分析することの危険

ある人々は、自分たちの心に感動を与えないからこれこれの言葉は靈感を受けていない、と言って聖書を裁きます。彼らは聖句を「偽りの」(テモテ第一・六ノ二〇) 哲学や科学の考えと調和させることができません。ほかの人々は、いろいろな理由から神の言葉のある部分に疑問を持ちます。このようにして多くの人が、敵の備えた道を手探りの状態で歩むのです。しかし、聖書を裁き、神の言葉のいかなる部分でも批判したりすることは、どんな人にも許されてはいません。もしこれを始めると、

サタンはその人の靈的成長を妨げる雰囲気を作り出します。自分は賢くて、神の言葉を分析できると思っても、その人の知恵は神の知恵に比べれば愚かなものです。もう少しいろいろなことがわかってくると、自分はまだ何もわかっていないのだと感ずることでしょう。学ぶべき第一の教訓は、教えを受ける謙虚さです。偉大なる教師イエスは、「わたしは柔和で心のへりくだった者であるから、わたしのくびきを負うて、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたの魂に休みが与えられるであろう」(マタイ一ノ二九)と言われました。

批評と非難の精神を自ら養い、また他人にも養わせている者は、サタンの模範に習っているのだということを覚えてください。自分の目的にかなっている時は、証の言葉を信じているかのように取り扱い、自分が主張したい言葉を強めるために、証の言葉を引用します。しかし、自分の誤りを正す光が与えられた時はどうでしょうか。その光を受け入れますか。証が自分の考えに反する時は、それを軽んじてしまうのです。

どんな人でも、あちこちで疑いの言葉を語るのは好ましくないことです。それは聞く人の心に毒のように働きます。そして、この働き of 土台を作り、今日に至るまで譴責、警告、矯正、奨励を与えてきた神よりのメッセージに対する確信を動揺させてしまうのです。証の言葉を妨げるすべての人々に、私は言いたいのです。神はその民にメッセージを与えておられます。あなた方が聞いても聞かなくても、神の声は聞こえてくるのです。あなたの反対は私を傷つけませんが、神の民を正しい道に導くた

めに警告や教訓を与えられた天の神に対して、あなたは責任を取らねばなりません。自分自身の無理解に対して、また罪人の道につまずきの石となったことに対して、神から責任を問われるのです。「おしえとあかしに尋ねなければならない。このことばに従って語らなければ、その人には夜明けがない」(新改訳聖書・イザヤハノニ)。聖霊が心に働くときも、神の言葉によってテストしなければならない。聖書に靈感を与えたみ霊は、常に聖書へと導かれるのです。

『世界総会デイリー・プレティン』一八九一年四月一三日

間違つて適用された靈感の言葉

B という人が、ホワイト姉妹に特別なメッセージを持つてはるばるミシガン州からやってきました。彼は、ホワイト姉妹はモーセの地位を占めるよう神が任命され、自分はヨシユアの地位に任命された、と言いました。こうしてみ事業が前進すべきであるということです。ホワイト姉妹の働きと彼の働きが一つになって、真理を力強く宣べ伝えるべきであるということです。

多くの人がしてきたように、この人は勝手に聖書と自分のメッセージを混同し、聖書の言葉を引用してセブンスデー・アドベンチストにあてはめました。私がみ事業に携わっている間、このような人がたびたびあらわれました。彼らは、聖句を選んでこれを並べ、神の民に当てはめました。B氏は自

分が選んだ聖句を大きな声で読み、それが民として私たちにあてはまる、と言いました。彼が読んでいるのは聖書だから、正しい、と私が認めるように言いました。

私は、「ええ、あなたは聖句を選び、それを並べて、これまでに出てきた多くの人のように自分で解釈をしています、それは正しい解釈ではありません。その聖句はそんな意味ではないのです。

あなたでも、ほかの惑わされた人でも、力強い聖句を並べることができず、実際に並べて自分の考えによってそれを解釈します。だれでも神の言葉を間違つて解釈し、誤つてあてはめることができます。そして、人々や物事を非難し、自分の考えを受け入れない人は、神の使命を拒み、その運命を永遠に定めてしまったのです」と言いました。

私の所に来るいろいろな手紙を見ると、神から遣わされた、と主張するB氏のような人は、教会員から多少孤立している人々の所へ行き、そしてそういう人々は、天から来たといわれるものには何でもすぐに飛びついてしまうということがわかります。多くの人は主のお与えになった証を読み、それが適用されると自分で考える場所にあてはめるのですが、実は適当な前後関係を無視して、文章をあちらこちらから取り上げ、自分の考えに合うようにあてはめています。与えられた言葉を順序正しく読めば、その本当の意味がわかり、混乱することは無いのに、このような読み方をするために気の毒な魂は混乱してしまいます。ホワイト姉妹からのメッセージといわれる多くのものが、ホワイト姉妹を誤解させる働きをして、彼女の精神にも判断にも合わないことを肯定させる結果となり、彼女

の働きは困難になっています。その真意が伝えられず、ホワイト姉妹の言葉として次々に語りつがれていきます。そして、話が繰り返されるたびに、おひれがついていきます。ホワイト姉妹が何か言うべきことがあれば、彼女が言うままにさせておいてください。ホワイト姉妹の代弁をする必要はないのです。 ホワイト姉妹が自分に与えられたメッセージを述べるようにさせてください。彼女の言葉、報告する人から聞くより直接聞く方が、より適切なものとなるでしょう。

原稿二一、一九〇一年

証を疑うこと^{*}

証に疑問を抱き、欠点を指摘し、人々をその影響から引き離そうとする人々を通して神がお働きになることは、決してありません。それは神の霊ではありません。注意深く歩いていない人々は、疑惑を持つものです。彼らは、自分たちの生活が神の言葉または神の言葉に導く聖霊の証を通して語る神のみ霊のテストから離れていくことを意識して苦しみます。しかし彼らは、自分の心を反省して福音の純粋な原則に調和しようとするのではなく、神の民が主の日に立つことができる備えのために神が選

^{*} 一八八三年の世界総会の時の説教からの抜粋で、『ノートブック・リーフレット（教会）』第六に掲載されたもの。

ばれた方法のあら探をし、非難をします。

聖書に従って自分の生活を整えることを好まないで、人の歡心を買おうとする信仰のない人々は、神のお働きと調和せず、速やかに脱落していきます。悔い改めて真理に堅く根ざした人々は、このよ
うな人々の感化や教えを喜ばず、有益であるとも感じません。しかし、品性に欠陥があり、行動も純
潔でなく、心も清くなく、だらしない生活習慣を持ち、家庭では不親切で、取り引きも信頼できない
ような人々は、発表される新しい意見をきくと喜ぶでしょう。だれでも人は、どんな人たちがその人
につき従っているかを見れば、その人はどの程度の人かがわかり、その人の教えの性質もわかるもの
です。

証の言葉に一番反対する人は、大体証を読んでいない人です。ちょうど聖書を信じないと言う人が、
聖書の教えをほとんど知らないのと同じです。彼らは聖書が自分を責めることを知っており、聖書を
拒否することによって罪の道を歩む不安感を除こうとしているのです。

誤謬の惑わす力

誤謬や疑惑は人の心を惑わし、引きつけます。正しい道から踏み出す弁解として疑問や不信を持つ
ことは、真理を信じて魂を清め、真理に服従するよりはるかにやさしいことです。しかし、よい感化
を受けて、もとの道に引き返したいと思っても、サタンの網に捕らえられた人は、くもの巣にかかっ

た八工のようにそれから抜け出すことは絶望的に思われ、悪賢い敵の仕掛けたわなから逃れることはほとんどできません。

神のみ霊の証に疑いを持ち、不信を抱くことを許すと、他人の前で公言した意見に固執するよう、強く誘惑されます。自分たちの理論や考えが暗い雲のように心を捕らえ、真理を証拠立てるすべての光をさえぎってしまうのです。無知、誇り、罪の行為を愛する心を通して植えつけられた疑惑は、魂の足かせに固く張りつき、それを壊すことはほとんどできません。キリストだけがそれを壊す力を与えてくださいます。

神のみ霊の証は、人がおろそかにしている神の言葉に心を向けさせるために与えられました。与えられたそのメッセージがかえりみられないならば、聖霊は魂から閉め出されてしまいます。そうなれば、誤っている人を正し、その人の本当の状態を示す方法はなくなるのです。

証の書に対しての信仰を弱めるような影響を持ち続ける教会は、弱く、倒れかけています。ある牧師たちは、人々を自分自身に引きつけようとしています。こんな牧師たちの誤りを正そうとすると、彼らは独立して立ち上がり、「私の教会は私の働きを受け入れている」と言います。

イエスは、「悪を行っている者はみな光を憎む。そして、その行いが明るみに出されるのを恐れて、光に来ようとはしない」と言われました。今日も多くの人が同様の道を歩いています。証の書には、彼らが犯している罪を指摘してあるので、彼らは読もうともしません。ある人々は若い時から証を通

して警告や叱責を受けてきました。しかし、その光に従って歩き、生活を改めていったでしょうか。いいえ、全然そうしてはいません。彼らは今なお同じ罪に陥っています。そして、同じ品性の欠陥を持っているのです。これらの悪が神のみ事業を傷つけています。彼らの特徴が、教会にもあらわれています。主のみ業が教会を正しい状態に置こうとしても、教会員一人ひとり、そして特に群れの指導者が誤りを正されることを拒むので、それができないのです。

多くの人が証の書を受け入れる、と言いますが、その生活に何の変化もありません。その欠点を改めないのです。ますますひどくなり、譴責されてもそれに心を向けないので自制の力を失い、悪を続けるうちに心が固くなってしまいます。働きすぎて体が弱くなってくると、打ち勝っていた品性の弱点をおさえる道徳的な力も弱り、欠点が性格に出てきてそれに圧倒されてしまいます。そこで彼に、「神はあなたの品性のこの点について数年前に証の言葉によって譴責なされたではありませんか」と聞いてみます。彼は、「はい。これらの点で私が間違っているという証の言葉を受け取りました」と答えます。「それではなぜその時、その悪い習慣を改めなかったのですか」と聞くと、「私は譴責している人が誤っているに違いないと思いました。それで、私が同感できる所だけを受け入れました。腑に落ちない所は、メッセージを与えた人の心から出たものであると思います、その譴責の言葉を受け入れませんでした」と言うのです。

ある場合には、改めるよう神が求めておいでになる品性の欠陥を見ることを拒み、そのために命を

犠牲にした人もいます。彼らは、光の通路として生きていけたはずでした。神は、彼らが生きていることを望み、彼らのために義の教訓を送り、彼らが体力と知力を保ち、神に受け入れられる奉仕をすることを望みになりました。もし彼らが神の勧告を受け入れ、神の希望なさるようになら、真理を前進させる有能な働き人となり、人々の愛情と信頼の頂点に立っていたはずでした。しかし、自分で自分のことを知っているよりはるかに神はよく知っておいでになることに気づかなかったため、すでに墓に眠っている者もあるのです。神のお考えは彼らと異なり、神の道は彼らの道とは違っていました。このような一面的な考えの人は、どこで働いても働きを一面的なものにしました。彼らの管理下で教会はひどく弱体化したのです。

神は人を愛しておられるので、譴責されます。神は、彼らが神の力によって強くなり、バランスのとれた心と偏りのない性格を持つことをお望みになります。そうなれば、彼らは神の群れの模範となり、教えと模範とによって人々を天国に導いていきます。そうすれば彼らは、神のために清い宮を造ることができるのです。

原稿一、一八八三年

証の中から口実を探す

光を受けることを希望せず、自分の道に歩みたいと思う人は、証の言葉を調べて、自分の疑いや不従順の精神を是認するような所を見いだそうとします。こうして、不和の精神が入ってきます。とい

うのは、証の書を批判するような精神は、兄弟たちを責めるようになるからです。

原稿七三、一九〇八年

サタンの最後の惑わし

サタンは常に偽物を押しつけ、真理から離れさせようとしています。サタンの最後の惑わしは、神の霊の証を影響のないものにする事です。「預言（英訳・幻）がなければ、民はわがままにふるまう（英訳・民は滅ぶ）」。サタンは巧みにいろいろな方法で、種々の働きを通して神の残りの民の、真の証に対する確信を揺るがそうとして働くでしょう。

手紙一二、一八九〇年

証に対するサタンの憎しみが燃え上がるでしょう。サタンは証に対する教会の信仰を揺るがすように働くでしょう。それは、もし神のみ霊の警告や譴責、勧告に心が向けられるなら、サタンは魂を惑わすことができなくなるからです。

手紙四〇、一八九〇年

第四章 教会への証を書き、送ること

働きの回顧

一九〇六年七月八日、カリフォルニアのサニタリウムにて

愛する兄弟

ある人々は、主が私にお与えになった働きの性質を吟味し、その重要性を評価することができると考えています。彼らは、自分の考えや判断を、証を評価する基準としています。

*この章の材料は一九一三年のリーフレットに出ている。

私を導いてくださる神は、これらの人に、証の書を評価したり、分類したり、その性質を定めたりする仕事をおゆだねになってはいません。これをする人は、かならず誤った結論を出します。主は、彼らが与えられた仕事に専念するように、望まれます。彼らが主の道を守るならば、神が私に命じられた働きは人間の考えによるものではないことをはっきり認めることができるはずです。

初めのころから与えられてきた証を注意深く読んだ人は、その起源について困惑する必要はありません。神のみ霊の助けによって書かれた多くの本は、証の性質についての生きた証拠となっています。このメッセージの初期の経験ですが、私たち数人が集まった時、神のみ霊はしばしば私たちに臨み、私は幻の中に取り去られました。主は素晴らしい光と証、慰めと希望、そして喜びをお与えになったので、私たちは主を賛美したのです。

文書に関する助け

主人が生きていた時、主人は私に与えられたメッセージを送り出す助け手であり、相談役でした。私たちは広く旅行しました。光が夜与えられたこともありました。また、大会衆の前で昼間に与えられたこともありました。幻の中で与えられた指示を、私は時間と力のある限り忠実に書き記しました。そのあとで、私たちはそれを調べ、夫は文法の誤りを直し、不必要な繰り返しを除きました。そして、宛てられた人々のためや、印刷業者のために、注意深く写しを取りました。

働きが進展するにつれ、出版の準備のために他の人たちも私を助けてくれました。夫が死んでからは、忠実な助け手たちが加わり、たゆみなく働いて証を書き写し、出版のために記事を用意しました。しかし、私の助け手たちが私の書いたことに書き加えたり、メッセージの意味を変えたりすることを許された、というのは真実ではありません。

私たちがオーストラリアにいた時、主は、W・C・ホワイトは今の仕事を離れて主が私に与えられた働きを助けるようにしなさい、と私に指示されました。そして、「私がわが霊を彼に注ぎ、彼に知恵を与える」と言われたのです。

私がアメリカに帰ってから、数回にわたって主は、主がW・C・ホワイトを私の助け手として与えられたのであって、この働きのために彼にみ霊を与える、と言われました。

発展する適当な時と方法

神より与えられた教えを提示する適当な時期と方法を知るためには、神のみ霊に導かれた知恵と健全な判断力が必要です。譴責された人たちの心が強い惑わしのもとにある時、彼らが証に反対するのは当然です。そして、反抗の態度を取ってしまうために、あとになって自分たちが間違っていたことを認めるのは、むずかしいものです。

み事業の初期においては、主よりのメッセージが与えられた時に指導の立場にある兄弟たちのだれ

かがそこにいれば、神の示しを人々の前に提示する最もよい方法について相談するのが常でした。時には、ある部分は会衆の前で読まない方がいいと決めたこともありました。またある時は、自分たちの過ちを責められた人々が、指摘された悪や危険を人々の益になるよう、人々の前で読んでほしいと希望したこともありました。

譴責の証が読まれたあとで、しばしば心からの告白がなされました。そしてともに祈り、主は罪を告白した人々に赦しの恵みをあらわしてくださいました。証を受け入れると、神の豊かな祝福が一同に与えられました。

折りにふれて勧告を与えてくださる神が示されたことを、私は忠実に書き記すように努力します。私が書くある部分は、み事業のさし迫った必要に応じるために、直ちに送り出されます。他の部分は、事態の発展を見てそれを用いる時が来たことがはっきりするまで、発表を控えます。時には、責任ある立場にいる牧師や医師の間で証を捨てるような傾向が広がったこともあり、彼らの手に証を渡さないように指示されました。それは彼らが、アダムやエバを誘惑して墮落させたのと同じ精神に陥り、敵に心を捕らえられてしまったからです。彼らは間違った道を歩み、人を惑わすような想像をして、証の言葉にそれを読み込むのです。自分の考えで証を読み、自分たちも欺かれ、またほかの人たちをも欺くのです。

時には、非常にはつきりした断固たる譴責を書いたあと、私が個人的手紙によってその人々の心が

変えられるよう努力するまで、その譴責を私の所にとどめておくこともあります。このような努力が成功しない時には、彼らがメッセーヂを受け入れようが拒もうが、とにかくその譴責や叱責をそのまま送ります。

誤りを指摘された人々が、自分の間違った行いを告白するならば、敵の誘惑に打ち勝つことができます。悔い改めて罪を離れば、神は忠実で正しい方ですから、彼らの罪を赦し、すべての不義より清めてくださいます。罪を赦す救い主キリストは、彼らの汚れた衣服を除き、衣を取り替え、頭に美しい冠をかぶせてくださいます。しかし、罪から離れることを拒んでいる限り、審判の大いなる日に立つことができる品性を発達させることはできません。

しばしば個々人の生活における隠された悪が私に示され、譴責と警告のメッセーヂを送るように命じられます。

多くの人が敵の偽りの科学に心を引かれ、私の働きをにせ預言者の働きとして非難し、神の真理を偽りとするような解釈を証についてするであろう、と私は示されました。サタンはいつも油断なく働いています。過去に神の働きに用いられた人々でも、欺かれるに任せていると、与えられたメッセーヂを不適当に用いるようにそそのかされます。彼らは譴責の言葉を聞きたくないのです、勧告に従わず、行動を改めません。そして、自分で決めたことをするので、教会に対するメッセーヂを曲解し、多くの人々の心を混乱させるのです。

それでも私は、与えられたメッセージを、主のみ旨のままに伝えなければなりません。主は、疑いを持つ人々の抱くすべての誤解を解く仕事を、私にお与えになってはいけません。誘惑者の暗示を受けるために心の扉を開いている限り、困難は増すでしょう。光に來ない人々の心は、疑いにさらされています。私の時間と力がこのような問題に費やされてしまうと、サタンの目的を助けることになります。主は、「証をしなさい。困難を解決するのはあなたの仕事ではありません。あなたの仕事は、譴責を与え、キリストの義を示すことです」と言われました。

一つのできごと

この使命の初期のある時、バトラー師とハート長老が、証について心を乱したことがありました。彼らは悩んで、呻き、涙を流しましたが、しばらくの間その困惑の理由については何も言いませんでした。しかし、証についての信仰を失った言葉や様子の理由を説明するように迫られて、ハート長老は、ホワイト姉妹の幻として出版された小さなパンフレットに触れ、自分の知る限りではある幻がその中に含まれていない、と言いました。多くの聴衆の前でこの兄弟たちは、自分たちはこの働きに確信を失ってきている、と強く語りました。

私の夫は、小さなパンフレットをハート長老に渡し、『エレン・G・ホワイト夫人のクリスチャン経験と幻』という本の中の扉に印刷されている所を読むように頼みました。彼は読みました。

しばらくの沈黙がありました。それから夫は、私たちは資金が非常に不足していて、初めは小さなパンフレットしか印刷できなかったことを説明し、十分な資金が集まったら幻はもつと十分に、本の形で出版されるはずであると約束しました。

バトラー師は深く心を動かされ、その説明のあとで「神の前に頭を垂れて祈りましょう」と言いました。そして、めったに聞かれないような祈り、涙、告白が続きました。

バトラー師は、「ホワイ特長老、赦してください。私はあなた方が、私たちに与えられるべき光のあるものを隠しているかと思ったのです。ホワイ特姉妹、私を赦してください」と言いました。そのとき、神の力が驚くべき方法で集会に臨んだのでした。『教会への証を書き、送ること』三〇九ページ

働きとその助力者

一九〇七年一〇月二三日、カリフォルニアのサニタリウムにて

愛するF・M・ウイルコックス兄弟

あなたのお手紙を読みました。ある姉妹が私の立場に自分が選ばれたと考えていることについて、彼女は正直であるかもしれませんが、欺かれています。

夫の死後約一年間、私は弱く、もうわずかしき生きられないと思いました。ヒルズバークのキャンピングの時、教会員の大会衆の集まっているテントに連れて行かれました。そして、私は寝ていた長椅子から起き上がるように言われ、別れの言葉を述べるために人々に助けられて講壇の所へ行きました。私が話し始めると神の力が臨み、全身を動かししました。会衆の多くの人に、私は弱く、顔も手も血の気がないように見えました。しかし、私が話し始めると、血色が唇にも顔にも戻ってきたのがわかり、私のために奇跡の起こったことがわかりました。私は人々の前でいやされ、自由に語ったのです。

この経験のあと、主は多くの国で主の証をするために私を立て、その働きのために恵みと力を与えてくださるという光が与えられました。また、私の息子W・C・ホワイトが私の助手兼相談相手となり、主は彼の上に知恵と正しい判断の霊を与えてくださることが示されました。主は、彼を導き、彼は聖霊のお導きを認めるので、道を誤ることはないと言われました。

「あなたは、主があなたを選ばれた仕事をするのに一人ではありません。神は、いかにして真理を人々の前に単純に述べるかを教えてくださいます。真理の神はあなたを支え、神があなたを守り導いておられるという確信の持てる証拠を与えてくださいます。神は聖霊を与え、その恵みと知恵と支える力が伴うでしょう……」という確証が与えられました。

また、「主はあなたを教えてくださいます。あなたは偽りに導く影響に出会うでしょう。彼らはいろ

いろな形でできます。汎神論など不信仰のいろいろな形を取ります。しかし、私の導きに従えば安全です。私は、私の霊をあなたの息子に注ぎます。それで、彼は働きをする力を与えられるでしょう。彼は謙遜の徳を持っています。主は、そのみ事業の重要な役割を果たすために彼を選ばれました。このために彼は生まれたのです」と言われました。

この言葉は一八八二年に与えられ、その時以来知恵の霊が彼に与えられたことを、私は確信しています。その後、私が困難に陥ったとき主は、「私は、あなたに私の僕 W・C・ホワイトを与えた。私は、彼に判断力を与えてあなたの助手とする。そして、彼に賢く管理する技術と理解とを与える」と言われました。

また主は、私の働きに他の忠実な助手たちを与えてくださいました。私の説教の多くは報告され、印刷されて人々に渡されました。私の長い経験のほとんど全体にわたって、夜の幻の中で示されたことを書くために、毎日力を尽くしました。勧告や譴責、奨励の多くのメッセーじが個々人に送られ、また教会のために与えられた教えは、雑誌や書籍として出版され、多くの場所に配布されました。……働きは常に前進しています。私の書いたものを人々の前に置くために熱心な努力がされています。数冊の新しい本が間もなく印刷にまわると思います。私が働けなくなれば、忠実な働き人たちが働きを前進させてくれるでしょう。

私の書いたものは常に語る

この最終の時代に、私たちの民のために豊かな光が与えられました。私の命があってもなくても、私の書いたものは常に語り、時のある限り、働きは前進するでしょう。私の書いたものは、事務所に整理保存され、私がいなくなっても、主が私にお与えになった言葉は生きて、人々に語るのです。しかし、私の力がまだ与えられているので、もっと多くの有用な仕事を続けたいと願っています。私は主の再臨まで生きているかもしれません。しかし生きていなくても、『今から後、主にあつて死ぬ人はさいわいである』。み霊も言う。『しかし、彼らはその労苦を解かれて休み、そのわざは彼らについていく』（黙示録一四ノ一三）と、私について言われることを信じています。……

私は、神の愛の確証が与えられていること、そして毎日神のお導きと指導があることを神に感謝しています。私は書くことで大変忙しくしています。朝早くから夜遅くまで、主が示してくださることを書いています。私の働きの重荷は、主の日に立つために民を備えさせることです。キリストの約束は確かです。時は長くはありません。私たちは主キリストのために働き、目を覚まして待ち望まなければなりません。堅く立って動かされず、主の業に励むように勧められています。私たちのすべての望みは、キリストに土台を置いているのです。

私たち神の民は、世の前に繰り広げられている過去、現在、未来を見ているでしょうか。今日、私たちの生活が清められ、神のかたちを反映することが、私たちの最大の関心事になっているでしょう

か。これが小羊の血で洗い、白くされた人々に加わるすべての人の経験でなければなりません。彼らはキリストの義をまとわねばならないのです。神のみ名がその額に書かれていなければなりません。神の栄光にあずかる希望を持って喜んでいなくてはなりません。キリストは、その民の名前をたなごころに刻んでくださいました。頼っていく魂を決してお見捨てにはならないのです。

神に全的献身をする必要を教会員に告げてください。犠牲によつて神と契約を結ばなければなりません。私たちは、毎日毎時間福音の祝福が必要です。主の力と臨在と愛の証拠を確認し、心より感謝しなければなりません。神に対する正しい行動によつて、幸福が得られます。この尊いご配慮を感謝します。あらわされた感謝と実行された行為によつて、神に栄光を帰してください。……最近私が書いた証ほど人々の前にはつきり示された証はありませんでした。神は、私たちの民の注意が証の書の重要性に向けられるよう、強く勧めなさいとお命じになるのです。今すぐこれを始めましょう。そうすれば、イエスの来られるまで私が働くことを許されても、それまでに休むために取り去られても、これらのメッセージは残るのです。

兄弟方、キリストに心を引きつける言葉をお語りなさい。よい業の実を結んでください。「御子を信じる者は、永遠の命をもつ」（ヨハネ三ノ三六）。できれば選民をも惑わそうとして、あらゆることから起ころう。しかし主は、そのみ業を確実に守ってくださいなのです。

『教会への証を書き、送ること』一〇〇一六ページ

証の書の用い方

時と場所を考えること

証については、どの部分も無視してはいけませんし、捨ててもいけません。しかし、時と場所を考えなければなりません。どんなことでも時になつてしなければなりません。ある人々は、与えられた光を不適當に用いますから、ある事柄はおさえておく必要があります。一つ一つの小さい点まで重要ですが、それは適當な時に用いなければならないのです。過去において、証は出版される前に注意深く準備されました。また、すべての事柄は、書かれたあと注意深く吟味されているのです。

人々が神の子の肉を食べ、血を飲むように言うてください。神の言葉を彼らに示してください。彼らの中には誤って解釈し、誤って述べる人がいるでしょう。彼の目は見えなくなり、サタンが作りだした表象や解釈を持ち出し、ホワイト姉妹が語った言葉に全く違った意味をつけます。彼らはサタンの誤った学校で教育されています。彼らの姿は、ゼカリヤ書三章に描かれています。神の教会ほどの世で神に愛されているものはありません。サタンは人間の心に働き、不正な方法で神の信頼を裏切り続けるでしょう。

編纂された文書の出版

本を書く資格があると自分で考える人が、自分の想像に任せて書き、これを出版して私たちの出版所に推薦を強要すれば、多くの毒麦がまかれ、この世界に広がっていくことは目に見えています。私たちのうちの多くの人が、ある事柄を強調するために私の書いたものを使わせてほしい、と手紙で熱心に頼んできます。彼らはそれを人々に示して、心に深い印象を与えたいのです。

これらのうちのある事柄は、人々に示されなければならない理由があります。しかし、私はこんな方法で証を用いることを許可できませんし、それ自体はよくても、彼らが考えている方法でそれを提示することを承認することはできません。

このような提案をする人々は、多分彼らの著作の企てを、賢い方法でやることができるかもしれませんが、彼らが申し出たような方法で私の書いたものを用いる許可はできません。このような企画をするためには、多くのことを考慮する必要があります。たとえば、証を用いてその著者が心に感じたことを強調する時に、その抜粋は、原文を読んだ時に与える印象とは異なった印象を与えるかもしれないのです。

『教会への証を書き、送ること』二五、二六ページ

第五章 初期の言葉の説明

ある挑戦に対する答え

「エレン・G・ホワイトの最初の三つの本、『エレン・G・ホワイトのクリスチャン経験と幻』、『続・経験と幻』、『預言の賜物』一巻が一八八二年に再版された直後（この三冊は今日『初代文集』に収録されている）、ある記事は不完全ではないかと、ここに出ている文章や、それより前に出版されたものの中のいくつかの文章の意義について、質問がありました。ホワイト夫人が一八八三年にこうした質問に対して答えたのが以下の文章です。「閉ざされた扉」についての教えにも言及されていますが、これの意味については日本語訳『各時代の大争闘』下巻一四六―一五六ページ（英文四二九―四三二ページ）も参照してください。 編者」

最近私は、アイオワ州マリオンのC氏が出版した一六ページのパンフレットに注意を引かれました。それは、『ホワイト夫人の初代文集とその後の出版物との比較』と題するものでした。その著者は、私の初めの幻の一部が最近印刷された『エレン・G・ホワイト夫人の初代文集』と題する本では削除されていて、その理由はその部分が教えている教理を今日私たちが民として受け入れていないからであろう、と憶測しているのです。

彼はまた、『初代文集』は私の一番初めのころの幻をただ言葉を変えただけで全部完全に再出版したと言っているが、これは故意に偽っているのだ、と攻撃しています。

削除されたと言われている文章について考慮する前に、いくつかの事実を述べておくことが適當であると思います。私の最初の幻が初めて出版されたのは、パンフレットの形^{*}でした。発行部数も少なく、すぐ売れ切れました。これに続いて一八五一年に、『エレン・G・ホワイトの経験と幻』という本が出版されましたが、これにはもっと多くのことがつけ加えられています。

私たちの出版事業の初期においては、場所がしばしば変更されました。ですから、私はメイン州からテキサス州へ、またミシガン州からカリフォルニア州へと、ほとんど絶え間ない旅行をして、

*これは、『小さき群れへの言葉』というジェームズ・ホワイトが一八四七年に出版した二四ページのパンフレットで、

エレン・G・ホワイトの三つの文章を含んでいる。

私はアメリカ中部の平原を一七回以上横断しました。最初に出版されたもののすべてを失ってしまいました。それで、昨年の秋オークランドで、『初代文集』を出版することになったとき、ミシガンのほうに頼んで『エレン・G・ホワイトの経験と幻』を一冊借りなければなりませんでした。そして私たちは、最初に出版された一番初期のものの正確な写しを得たと思いました。それを再販したことは、『初代文集』の前書きに書いてある通りで、原本と比べると、ただ若干の語句が変更されているだけで、意味は変わっていません。

中略

私が出版したものを、どの部分であれ公表することを差し控える気持ちは全くないどころか、印刷された私の書物の全部を一般に知らせることは、私の大きな喜びなのです。

証を勝手に変更したエリ・カーティス

ここで述べておくべきもう一つの事実があります。私は、私の著作として印刷されたすべてについて責任を取ることはできません。というのは、私の初期の幻が出版されたころ、私が書いたものではないいくつかの記事が、私の名前で出版されているのです。主が私に示されたと書いてありますが、それは私が信じてもない教理でした。その本の名前ははっきりしませんが、カーティス氏が編集した

出版物でした。それから心配や労苦の月日が流れて、細かい点は忘れてしまいましたが、主要な点ははっきり覚えています。

この人は、私の書いた記事を前後関係を無視して寄せ集め、形を変えてそれに自分の考えを加え、最後に私の名前を書き、あたかも直接私が書いたかのようにしたのです。

この記事を見て、私たちはすぐ彼に手紙を書き、私たちの驚きと不思議を表明し、私の証をそのように誤って用いることを禁じました。彼は、自分は好きなように出版する権利があると言い、私が主の与えられた通りに書いたのだたらこのように言われたはずだ、と言いました。そして、もし幻が教会の益のために与えられたのであれば、自分は自分の好きなように用いる権利があるはずだ、と彼は主張したのです。

これらの印刷物のいくつかはまだ残っていて、私が書いたものだと言われるかもしれませんが。しかし、私はそれに対して何も責任を持つことができません。『初代文集』の記事は、私が目を通しています。『エレン・G・ホワイトの経験と幻』の一八五一年版は、私たちが持っていた最初のものでした。私たちは、もっと早い日付の雑誌やパンフレット類のことは何も知らないのです、ある部分が省略されていると言われても責任を持つことはできません。

最初の省略

C氏が述べている最初の引用文というのは、一八四七年に出版された『小さい群れへの言葉』という二四ページのパンフレットです。『エレン・G・ホワイトの経験と幻』で省略されているのは次の文章です。

「彼ら（一八四四年の運動で信仰を捨てた人々）は、神が見捨てられた悪の世界のすべての人と同様に、再び天国への道に帰って都に行くことはできません。彼らは、天国への道から一人ひとり落ちていきました。」

その前後の文章を挙げれば、ここの表現の意味がはっきりわかるでしょう。

「わたしが、家庭礼拝で祈っていたときに、聖霊がわたしにくだった。そして、わたしは、暗い世界から、高く高く上にのぼっていくように感じた。わたしはふり向いて、地上にいる再臨信徒たちを捜したが、見つからなかった。すると、『もう一度見なさい。もう少し上を見なさい』という声が聞こえた。それでわたしが目をあげてみると、地上のはるか上の方に、まっすぐな狭い道がかかっていた。この道の上を、再臨信徒たちは、都に向かって旅していた。都は、その道の向こうの端にあった。道のはじめに、明るい光があつて、彼らを後ろから照らしていた。あれは夜半の叫びですと、天使が私に言った。この光が、道をずっと照らし、彼らがつまづかないように、足もとを明るくしていた。もし彼らが、彼らのすぐ前にいて彼らを都に導いておられるイエスに目をとめていれば、彼らは安全で

あつた。しかし、やがて、ある者たちは疲れてきて、都はまだ遠い、もつと早く都に入れると思つていた、と言つた。するとイエスは、その輝く右手をあげて、彼らを励まされた。彼のみ手から光が流れ出て、再臨信徒の一団の上に照りわたり、彼らは、『ハレルヤ!』と叫んだ。他の者たちは、無分別にも彼らの後ろの光を拒んで、自分たちをここまで導いてきたのは神ではない、と言つた。彼らの後ろの光は消えて、彼らの足もととはまっ暗になった。そして彼らは、つまり、目標とイエスとを見失つて、道から暗い邪惡な地上へと落ちていった。』（日本語訳『初代文集』六二、六三ページ）

このあとに、もとの出版されたものにはあるが『エレン・G・ホワイトの経験と幻』や『初代文集』にはないという次の文章がきています。

「彼ら（一八四四年の運動で信仰を捨てた人）は、神が見捨てられた悪の世界のすべての人と同様に、再び天国への道に帰って、都に行くことはできません。彼らは、天国への道から一人ひとり落ちていきましました。」

「閉ざされた扉」の意味

これらの言葉は閉ざされた扉の教理を証明するものと言われ、そのためにあとの版でこれが除かれた、と言われました。しかし実際は、私が今説明するように、私たちが民として信じてきて、今なお信じていることを教えているにすぎません。

一八四四年の大失望のあと、私は全体の再臨信徒と同様、あわれみの扉はその時永遠に閉ざされたと信じました。これは、私に最初の幻が与えられる前に取られていた立場です。この誤りを正したのは、神より私に与えられた光でした。そして、私たちは本当の意味を知ることができたのです。

私はなお、閉ざされた扉の教理を信じています。しかしそれは、初めに私たちがその言葉を使った意味ではなく、また私たちに反対している人々の使っている意味でもありません。

ノアの時代にも閉ざされた扉がありました。その時は神のみ霊が取り去られ、罪深い人間は洪水で滅びたのです。神ご自身ノアに閉ざされた扉のメッセージをお与えになりました。

「そこで主は言われた、『わたしの霊はながく人の中にとどまらない。彼は肉にすぎないのだ。しかし、彼の年は百二十年であろう』」（創世記六ノ三）。

アブラハムの時代にも閉ざされた扉がありました。神のあわれみはソドムの人々に訴えることを止めました。そして、ロトとその妻と二人の娘のほかは天よりの火で滅ぼされたのです。

キリストの時代にも閉ざされた扉がありました。神の子はその時代の不信仰なユダヤ人に、「おまえたちの家は見捨てられてしまう」（マタイ二三ノ三八）と言われました。

終末に至る時の流れを見通して、同じ無限の力は、ヨハネを通し次のように宣告しました。

「聖なる者、まことなる者、ダビデのかぎを持つ者、開けばだれにも閉じられることがなく、閉じればだれにも開かれることのない者が、次のように言われる」（黙示録三ノ七）。

一八四四年にも閉ざされた扉があつたことを私は幻で示され、今も信じています。第一、第二天使の光を見て、それを拒んだ人はみな、暗黒の中に残されました。それを受け、天よりのメッセーじの宣布に伴った聖霊を受けた人で、あとになってその信仰を捨て、その経験は偽りであつたと言つて神のみ霊を拒んだ人には、聖霊はもはや働かなくなりました。

光を見なかつた人には、それを拒む罪はありません。神のみ霊が近づけなくなるのは、天よりの光をあなどつた人々だけです。前にも述べたように、この中には、メッセーじが来た時にそれを受け入れることを拒んだ人々と、それを一度受け入れてあとからその信仰を捨てた人々がいます。彼らは、外見は信仰的でキリストに従う、と口では言っているかもしれませんが、神との生きたつながりがなく、サタンの惑わしの虜になつてしまつています。幻の中で示されているのは、これら二種類の人々です。光を受けたことを公言しながら惑わしに従つた人々と、光を拒み、神に捨てられた世の悪しき人々たちとです。光を見ることのなかった人については、何も言われていませんから、彼らには光を拒んだ罪はありません。

私が閉ざされた扉の教理を信じ、教えたということを証明するために、C氏は『レビュー・アンド・ヘラルド』一八六一年六月一日号からの、私たちの著名な九名の人の署名のある記事を引用しています。それは次のような文です。

「私たちの前にある働きについての考えは、その当時、きわめて漠然として不確実なものでした。あ

る者はウィリアム・ミラーを先頭に、一八四四年の再臨を信じた人々の持っていた考えを依然として持ち続けました。それは、この世に対する働きは終わった、メッセージは今まで再臨信仰を持っていた人々に限られることになった、というのです。これが堅く信じられたために、グループの一人はほとんどメッセージを拒まれそうになりました。彼は『一八四四年の運動』に参加していなかったので、救われる可能性に疑いが持たれたというわけです。」

これに対して次のことを言えば十分でしょう。メッセージはこの兄弟には与えられないと主張されたこの集会で、幻を通して私に証が与えられました。それは、神にあって希望を持つように彼を励まし、彼が心を完全にイエスに捧げるよう、勧めるものでした。そして彼はその時、その場で、心をイエスに捧げたのです。

不合理な憶測

『小さい群れへの言葉』という本の中で、新しい地球の様子を述べ、私はそこで、昔の清い人たちが、「アブラハム、イサク、ヤコブ、ノア、ダニエルそのほか彼らのような多くの人々を見た」と書いています。これらの人々を見たと言ったので、私たちに敵対する人々は、私が靈魂不滅を信じていたと言い、あとでこの点についての考えを変えたのでその文章を削除する必要があると感じたのだ、と憶測しています。この憶測も他の憶測と同じように全く真実ではありません。

一八四四年に私は、悪霊は不滅ではないという、今日私たちが受け入れている考えを受け入れました。このことは『ライフ・スケッチズ』一七〇、一七一ページに出ています（一八八〇年版。一九一五年版四九ページ、『教会への証』一巻三九、四〇ページを参照）。私は、ほかの考えを話したことも書いたことも決してありません。もし、この言葉を靈魂不滅を教えることになるから削除したとすれば、これ以外の言葉も削除する必要があったはずです。

『初代文集』一三ページ（一八八二年版。現在の版では一七ページ。日本語訳では六七ページ）で私の最初の幻を書いた時、その直前にイエスにあって眠った人々を見たことを語り、また一四ページ（現在の版では一八、一九ページ。日本語訳では六九ページ）では、信仰のために殉教した多くの人々について述べています。

靈魂不滅ということは、この二つの引用した文章でも、「削除された」文章でも、教えられてはいないのです。

事実、これらの幻で私は、復活した聖徒たちが神の国に集められる時を見せられたのです。同じように、審判、キリストの再臨、新しい地球に聖徒たちが住むことなどが示されました。これらの情景はすでに起きたことだ、と思う人がいるでしょうか。私に反対する人々は、単なる「憶測」を証拠にして、私が偽っていると責め、それによって自分たちがどんな精神でやっているかをあらわしているのです。

間違った引用

この本の引用文には、次の言葉も見いだされます。「私は銀の針金のついた二本の長い金の棒を見ました。その針金の上には、ブドウの実が輝いていました。」

私に反対する人々は、「金の棒につながっている銀の針金とか、その上になっている輝いたブドウの実とかいう迫力のない、幼稚な表現」と言って、嘲りました。

どんな動機でこの人は私の言葉を誤って述べたのでしょうか。私はブドウが銀の針金になっていたとは言っていない。私が見たことを、私に見えたように描写しただけです。ブドウの実が銀の針金や金の棒につながっていると考えるべきではなくて、ただそのように見えたというだけです。同じような表現は、日常の会話で誰でも用いています。金の果物という時、その果物が高価な金属でできているという意味ではなく、ただそれが金のように見えたというにすぎません。同じことを私の言葉に当てはめれば、誤解の言い訳は全部なくなってしまうはずです。

神の印

もう一つ「削除された」という文章は、「兄弟姉妹方、主をたたえましょう。それは生きた神の印を持つ人々の特別の集いです」というものです。

これには、私たちが今信じていないことなど何もありません。出版された本を見れば、私たちが、

生きている義人は恵みの時が終わる前に神の印を受け、彼らは天国において特別な栄誉を与えられる、と信じていることがわかります。

安息日を拒むこと

次の言葉が『初代文集』の二五―二八ページ（現在の版では二二―二五ページ、日本語訳では九〇―九六ページ）に出ている幻から削除されていると言われます。

「もし安息日を信じて、これを守り、その祝福をうけた後、それを捨てて、聖なる戒めを破ったならば、聖なる都への門を確実に閉ざしてしまいます。」

第四条の戒めをはっきり理解し、その真理を十分に受け入れ、服従に伴う祝福を受けたあと、信仰を捨て、神の律法を犯し、不従順の道を離れないならば、神の都の門は彼らに対して閉じられることになります。

「時はほとんど終わった」

一八五一年に出版された『経験と幻』の中に出ていて、『初代文集』四九ページ（現在の版では五八ページ、日本語訳では一三〇ページ）にある言葉が、私の証は偽りであることを証明するものとして引用されます。それは、「イエスが至聖所におられるときは、ほとんど終了し、時は、あとわずかしか

続き得ないことを私は見た」という言葉です。

このテーマが私に示された時、キリストのお働きの期間はほとんど終わったように見えました。私の証より時間が長く続いたので、私は偽りを言ったと責められなければならないのでしょうか。キリストや弟子たちの証はどうだったのでしょうか。彼らも騙されたというのでしょうか。

パウロはコリントの人々へ、「兄弟たちよ。わたしの言うことを聞いてほしい。時は縮まっている。今からは妻のある者はないもののように、泣く者は泣かないもののように、喜ぶ者は喜ばないもののように」（コリント第一・七ノ二九、三〇）すべきであると書きました。

また、ローマ人への手紙には、「夜はふけ、日が近づいている。それだから、わたしたちは、やみのわざを捨てて、光の武具を着けようではないか」（ローマ一三ノ一二）と書いています。

また、パトモスからキリストは、愛する弟子ヨハネを通して語られました。「この預言の言葉を朗読する者と、これを聞いて、その中に書かれていることを守る者たちとは、さいわいである。時が近づいているからである」（黙示録一ノ三）。「彼はまた、わたしに言った、『これらの言葉は信ずべきであり、まことである。預言者たちのたましいの神なる主は、すぐにも起るべきことをその僕たちに示そうとして、御使をつかわされたのである。見よ、わたしは、すぐに来る。この書の預言の言葉を守る者は、さいわいである』」（黙示録二二ノ六、七）。

神のみ使いたちは、人々へのメッセージにおいて、時は非常に短いと言っています。私にもそのよ

うに示されたのです。時は、この使命の初期に期待したより長く伸びました。救い主は、私たちが希望したほど速やかには来られませんでした。しかし、主の言葉は間違っていたのでしょうか。決してそうではありません。神の約束も裁きも、条件つきなのです。

神は、その民に地上において完成すべき働きをおゆだねになりました。第三天使のメッセージが伝えられ、信徒の心が、神の民のためにキリストがあがないをなさっている天の聖所に向けられ、また安息日の改革が前進しなければなりません。神の律法の破れが繕われなければならないのです。このメッセージは、地に住むすべての人が警告を受けるために、大声で宣べ伝えられねばなりません。神の民は、真理に従うことによつて、魂を清め、キリスト来臨の時に罪なくその前に立つ準備をしなければならぬのです。

もし再臨信徒たちが、一八四四年の大失望のあと、信仰を堅く持ち、神の摂理に従って一致して前進し、第三天使のメッセージを受け入れて聖霊の力によつてそれを全世界に宣べ伝えていたなら、主は彼らとともに力強く働かれ、み事業は完結し、キリストはご自分の民を迎えて報いを与えるために今より前に来られたはずでした。

しかし、大失望のあと半信半疑になつて、再臨信徒の多くは信仰を捨てました。平和と分離が入ってきました。神の摂理に従つて安息日の改革を受け入れ、第三天使のメッセージを宣べ伝える少数の人々に、大部分の人は言葉やペンで反対しました。彼らは、その時間とタレントを、警告のメッセージ

ジを伝えるというただ一つの目的に捧げなければならなかったのに、安息日の真理に反対することに没頭しました。従って、それを擁護する人々は、これらの反対者に答え、真理を守るために労することになってしまいました。このようにして働きは妨げられ、世界は暗黒の中にとどまりました。再臨信徒全体が、神の戒めとイエスの信仰に一致していたならば、私たちの歴史はどんなにか変わっていたことでしょう。

キリストの再臨がこのように遅れることは、神のみ旨ではありませんでした。神は、神の民イスラエルが四〇年間荒野を放浪するように計画されたではありません。カナンの地に直接導き、清く健康で幸福な国民としてくださることを約束なさっていたのです。しかし、このことを最初に告げられた人々は、その「不信仰のゆえ」（ヘブル三ノ一九）にそこへ入ることができませんでした。彼らの心は、つぶやき、反逆、憎しみに満ち、神は彼らにその契約を実現してくださることができなかったのです。

不信、つぶやき、反逆が、古代イスラエルをカナンの地から四〇年間閉め出したのです。同じ罪が、現代のイスラエルが天のカナンに入ることを遅らせています。どちらの場合も神の約束に誤りはないのです。私たちをこの罪の悲しみの世にこんなに長くとどめているのは、主の民と言っている人々の不信、世俗性、清まっていけない状態や争いのためです。

このほかに、私の最初の本に出ていて、あとの本にない文が二つあるとされています。これらにつ

いては、それが書いてある本を手に入れ、引用文が正しいかどうかを調べ、私自身で前後関係を調べた上でお話しすることができると思っています。

終末時代の嘲る者たち

私は働きの最初から、憎しみ、非難、偽りに追われていました。卑劣な非難や中傷的な報告が積み重ねられ、反抗心を持つ人や形式主義の人、狂信的な人々によって広く伝えられました。いわゆる正統派の教会の牧師たちが、各地を旅行してセブンスデー・アドベンチストに戦いを挑み、ホワイト夫人を話題にしました。終末時代の嘲る者たちは、神の見張り人と自称しているこれらの牧師たちに導かれています。

信じようとしないう世界、墮落した諸教会の牧師たち、日曜安息日を遵守する再臨信徒たちが合同して、ホワイト夫人を攻撃しました。この戦いは、四〇年近く続いています。しかし私は、彼らの悪意ある話、非難、あてこすりを、心に留めることすらしてはいけな、と感じてきました。そして今でも、勝ち誇って私を欺く者と決めつける真理の敵たちによって正直な魂が迷わされたりしない限り、そうしています。

真理の光を見た上でそれに心を向けることを拒む人々や、全く偏見に捕らわれ、不信に陥っている人々の心に触れることは、期待できません。

天の王であるイエスは、神と等しいお方でありながら、三三年の間地上に生活なさいましたが、イエスに神のご性質を認めた者はごくわずかでした。それを思うと、私のような弱く、価値のない、壊れそうな人間が、この世の救い主以上の成功を期待することがどうしてできましょう。

私が最初この働きに献身し、神のご命令に従って、神が人々のためにお与えになった言葉を語る時、人々の反対や非難、迫害を受けることはわかっていました。しかし私は失望しませんでした。人間の賞賛をあてにしていたら、とつくの昔に勇気を失っていたでしょう。しかし私はイエスを見ました。なんの欠点もない方でありながら、中傷的な言葉で攻撃されたのです。信仰を持っているように巧みにみせかけた人々が、スパイとして救い主のあとをつけました。そして、あらゆる努力をして彼の道をふさごうとしたのです。しかしイエスは、全能の力を持っておいでになりましたが、敵対者たちをその罪にふさわしく取り扱うことをなさいませんでした。報復の矢を放たれてもよいと思われる状態でしたが、そうなさいませんでした。彼らの偽善や腐敗に対して痛烈な叱責をなさり、そのメッセーヂが拒否されて、ご自分の命が脅かされた時は、静かにそこを去って他の場所に行き、命の言葉を語られました。私は弱い者ですが、救い主の模範にならおうと努めてきました。

真理の擁護者たちに対する敵意

パリサイ人たちは、キリストが偽り者であることをいかに熱心に証明しようとしたことでしょう。

彼の言葉の一つ一つに注目し、その話を間違って伝え、正しくない解釈をしました。誇りと偏見、怒りが、神の子の証に対して魂のすべての道を閉ざしました。キリストが彼らの罪をはっきり叱責され、彼らの業は、彼らがサタンの子であることを証していると言われた時、彼らは怒って、「あなたはサマリヤ人で、悪霊にとりつかれている」と言い、この叱責に反論したのです。

キリストに反対するすべての議論は、偽りを土台にしていました。ステパノやパウロの場合もそうでした。しかし、間違った側からの最も弱い、最も信頼できない言葉でも、影響があるのです。それは、心が清められていないで、こんな言葉が本当であればいいと願っている多くの人がいるからです。このような人々は、自分が喜ばない真理を語る人たちの誤謬や誤りと思われることについていつも熱心にこだわり続けているのです。

偽りを好む傾向のある人々が、悪意ある推測を疑いのない事実としてどん欲なまでに信じても、驚いてはいけません。キリストの反対者たちは、たびたびキリストの言葉によって当惑し、沈黙させられました。それでもなおあらゆる噂話に熱心に耳を傾け、口実を見つけては彼を妨害するような質問を繰り返したのです。彼らは決して自分たちの考えを捨てようとはしませんでした。キリストがその働きを続けられれば、多くの人が彼を信じ、学者やパリサイ人は人々に対する力を失うことを、彼らはよく知っていました。ですから、彼に対して悪意ある意図を達成するためには、どんな卑劣な、軽蔑すべき手段でも取りました。彼らはヘロデ党の人々を憎んでいましたが、キリストを地上から消

し去る計画を立てるためには、この宿敵とも手を握ったのです。

神の子キリストは、救うために来られたその相手から、このような仕打ちを受けられたのです。神を信じ、神のメッセージを世の人々に伝えようとする人々は、キリストが受けられたよりもっと好意をもって受け入れられるだろう、と期待することができでしょうか。

神の民を譴責・警告し、励ますために与えられたメッセージを、影響力のないものにするように働いている人々に対して、私は悪意を持つてはいません。しかし、キリストの大使として、私は真理擁護するために立たねばなりません。私に対して熱狂的に反対してくる人々は、一体どんな人たちなのでしょう。純潔な清い信仰を持った人たちでしょうか。彼らは新生を経験しているのでしょうか。

神のご性質にあずかっているのでしょうか。イエスを愛し、柔和と謙遜の精神をあらわしているのでしょうか。「あなたがたはその実によって彼らを見わけるのである」(マタイ七ノ二〇)。彼らは初代の弟子たちのようでしょうか。または、いつもキリストの言葉じりを捕らえて彼を陥れようとしていた、狡猾な学者やパリサイ人のようでしょうか。昔、真理に反抗した人々の激しい行動を見てごらん下さい。法律家、祭司、学者、司たちは、一緒になって、世の光であるイエスを攻撃する材料を探したのです。

どうして彼らはキリストを非難することに没頭したのでしょうか。彼らはキリストが教えられた教えや教訓を喜ばず、人々の注目が今までの指導者たちから離れて、イエスに向けられるのを嫌ったからでした。

人間の性質は今なお変わりません。私の進む道を妨げ、私の言葉の影響力を損ない、自分たちは神に奉仕しているのだ、と思つて自らを欺いている人々をそのままにさせてはなりません。彼らは他の主に仕えています。そして、その業に従つて報いを受けることになるのです。

サタンがいる限り、反逆は続きます。彼の精神に動かされて行動する人々は、神のみ霊を認めることも、そのみ声を聞くこともしません。そして最後に、「不義な者はさらに不義を行い、汚れた者はさらに汚れたことを行い、義なる者はさらに義を行い、聖なる者はさらに聖なることを行うまにさせよ」(黙示録二二ノ一一)との宣告が下るのです。私は、神がみ旨によつて私にお与えになつた光を軽蔑する人々の悪意に出会うことを覚悟しています。

心の正直な人にとっては十分な証拠

正直に真理を知りたいと願う人々に確信を与えるために、その働きの聖なる性質について十分な証拠をお与えになることが、神のご計画です。しかし神は、疑う機会を全く取り去ることはなさいません。疑おうと思えば疑うことができ、つまらない異議を唱える機会はあるのです。

私は、疑惑と不信の道に足を踏み入れる人々を気の毒に思います。もし可能なら喜んで助けますが、過去の経緯から見ると、彼らが光に来る望みはほとんどありません。彼らが誇りを捨て、肉の性質をおさえ、キリストの学校に学ぶ者とならない限り、どれだけ証拠を並べても真理を納得させることは

できません。

頑固さと誇りのために、多くの人が天よりの光を拒んでいます。彼らは自分の気に入った考えや気まぐれな聖書の解釈、危険な異端にしがみつぎ、自分の誤りを正す証がもたらされると、キリストの時代の多くの人々のように、感情を害して、離れて行きます。

人々に神の言葉を語る人たちの品性や生活が非の打ち所のないものであっても、そこには目が向けられません。彼らは真理を語るから悪く言われるのです。私の場合もそれが問題なのです。正しくない噂が流され、それに尾ひれがついて、キリストの大使である私の品性に汚名が投げかけられると、人々はばかばかしいほど軽々しくそれを信じます。多くの人がその中傷を拡大し、ばらまくのです。そのことは彼らの本当の性質を示しています。「神からきた者は神の言葉に聞き従うが、あなたがたが聞き従わないのは、神からきた者でないからである」(ヨハネ八ノ四七)。

中傷と非難は、イエスのように、真理のために立つ人々の報酬です。「キリスト・イエスにあつて信心深く生きようとする者は、みな、迫害を受ける」(テモテ第二・三ノ一二)。罪に対してはつきりした証をする者は、み名によつてこのことをするようにお命じになった主と同じく、必ず憎まれるのです。キリストのように彼らは、教会と宗教の敵であると言われます。神の栄えのために熱心になり、真実な努力をすればするほど、不信と偽善の敵は、ますます激しく当たってくるでしょう。しかし、このように取り扱われても、決して失望してはなりません。

私は働きとともに前進する

私たちは「弱くて愚か」であると言われ、熱狂的で、気が変になっているとさえ言われるかもしれませんが。キリストと同じように私たちも、「彼は悪霊にとりつかれて……いる」(ヨハネ一〇ノ二〇)と言われるかもしれません。しかし、主がお与えになった働きは、今なお私たちの働きです。心をイエスに向け、人の賞賛や誉れを求めるのではなく、正しく裁いてくださる神に自らをゆだねなければなりません。イエスは、彼に従う道を歩き、程度は限られています。彼が忍ばれた非難を受けて苦しんでいる人々を、助ける方法を知っておいになります。彼はすべての点で、私たちと同じように試みられました。それでイエスは、誘惑される人をいかにして助けることができるかを知っておいになるのです。

自分で正しいと言いながら本当には神を知らない人が、私の証に間違った解釈を施したとしても、私は謙遜に自分の働きを続けます。私は、神がお与えになる奨励、譴責、警告の言葉を語ります。地上での私の生涯は、あとわずかしきありません。父なる神がお与えになった働きを、神の恵みによって忠実に行います。私のすべての行為は、神の吟味を通らなければならぬことを知っていますから。

閉ざされた扉の問題についてのエレン・G・ホワイトの経験について*

一八七四年八月二四日、ミシガン州バトルクリークにて

親愛なるラフバロー兄弟

私は神の前に恐れをもって、マイルス・グラント、バーディック夫人、そしてそのほかの人々が『ク
ライシス』誌の中で非難したことは真実でない、と証言いたします。一八四四年における私の行動に
ついての言葉は偽りです。

一八四四年の時が過ぎたあと、私は兄弟姉妹方と一緒に、もはや罪人が悔い改めることはない、と
信じました。しかし、もはや悔い改める罪人はないということを幻で示されたことは一度もありませ
んでした。この点について彼らの非難を正当化する言葉を、私は話したことも書いたこともない、と
はっきり断言できます。

* 日本語訳『各時代の斗争闘』下巻一四二～一五〇ページ（英文四二六～四三二ページ）に、「閉ざされた扉」につい
てもっと詳細に書かれている。

天の至聖所についての貴重な光が与えられ、開いた扉と閉じた扉が示された幻のことを私が語ったのは、東部へ最初の旅行をした時でした。私たちは主が間もなく天の雲に乗って来られることを信じました。私は、この世界でまだ光を受けていない人々や、その光を拒んでいない人々のために、大いなる働きがなされなければならないことを示されました。しかし、兄弟たちは、キリストが直ちにおいでになることを信じていたので、このことがよくわかりませんでした。私が、主は来臨を遅らせておられる、と言ったことを責める人たちもいました。狂信的な人々が特にそうでした。私は、一八四四年に神が扉を開かれ、それは誰も閉じることができないこと、また一つの扉が閉ざされ、誰もそれを開くことはできないことを見ました。第二天使の使命によつてこの世界にもたらされた光を拒んだ人々は、暗黒に陥りました。それは全くの暗黒でした。

私は、この世界が滅びに定められ、呪われていると言ったことも書いたことも決してありません。私はどんな場合でも、またどんな罪深い人にも、この言葉を述べたことはありません。このような、人を傷つける言葉を用いる人に対する譴責のメッセージを、いつも受けているのです。

キリスト再臨の日時に関する言葉

愛する姉妹

あなたは、「前に書いたものを後で削除するのは不正直だ」と言いました。そういう人はその言葉の証明をしていただいたいと思います。こんなことはたびたび言われてきましたが、一度も証明されたことはありません。また、「彼らが持っている最初の証の第一巻に、あなたはキリスト再臨の日時を示されたとはつきり書いています。この言葉は聖書から見ると正しくありません。キリストご自身が、その日その時を知る者はなく、天の使いも知らないと言っておられます」と言っています。

一八四四年の時が過ぎてから、キリスト再臨の日時について書いたものは一つだけで、私の最初の本にあります。すなわち、『初代文集』の一、二七、一四五、一四六ページ（現在の版の一五、三四、二八五ページ。日本語訳の六四、九四、四六一ページ）だけです。これらはみな、再臨直前になされる予告について書いた所です。

一四五ページ（現在の版の二八五ページ。日本語訳四六一ページ）を開いてその章の初めから読め

ば、その言葉は、悩みの時に神の声によって聖徒が救い出される時のことだということがわかります。この本をお持ちにならなければ、ぜひ一冊手に入れて読んでください。それは最初に出版されたものと全く同じ内容です。「空は開いたり閉じたりして動揺していた。山々は風にそよぐ葦のように揺れ、あたり一面にごつごつした岩石を投げだした。海はるつぽのように煮えたぎり、石を陸上に投げだした。そして神がイエスの再臨の日と時間を告げ、ご自分の民への永遠の契約を宣言されたとき、神は一区切りずつ語って、間を置かれた。み言葉はその間に全地に鳴り響いた。」

これはその文章の一部です。一ページと二七ページ（現在の版の一五、三四ページ。日本語訳六四、九四ページ）は同じ時に関連しています。これらが、主の来臨の明確な時について私に示されたことのすべてです。神の声によって告げられた時については、私は全然わかりません。時が告げられているのは聞きましたが、幻から覚めた時、その時刻は全く覚えていませんでした。いかなる言葉でも描写できない、心を刺すような厳粛な光景が、私の前を通り過ぎました。そのすべては私にとって生きた現実でした。というのは、この光景に続いて、人の子の乗られた大きな白い雲があらわれたからです。

手紙三八、一八八八年

初めのころ見た光の流れ

私の少女時代に、主は私に天の栄光を見せてくださいました。幻の中で私は天に取り去られ、天使

が、「あれをご覧なさい」と言いました。私がこの世界を見ると、濃い暗黒に閉ざされていました。この暗黒を見た時、言いようのない苦痛に襲われました。

「ご覧なさい」という声をまた聞きました。そして私がこの世界をよく見ると、星のような光の輝きが、この暗黒の中全体を通して散らばっていました。それを見てみると、一つ、また一つと光が増し加えられ、この道徳的暗黒を通して、星のような光が増加してきました。天の使いは、「この光は主イエス・キリストを信じ、キリストの言葉に従う人々です。彼らは世の光です。これらの光がなかったら、神の審判は神の戒めを犯している人々に直ちにのぞみます」と言いました。そして見ていると、これらの小さい光はだんだん輝きを増し、東西南北から輝いて、全世界を照らししました。

時々、これらの光の一つが、少し暗くなり始め、消えるものもありました。そのたびに天では悲しみと嘆きが起きました。ある光は次第に輝きを増し、その輝きは遠くまで届き、さらに多くの光がそれに加わりました。そうすると天に喜びが起きました。私はイエスから直接に來た光が、この世の尊い光の流れを形づくっているのを見ました。

『福音宣伝者』（一八九二年版）三七八、三七九ページ

第二部 クリスチャンの経験

序 文

ホワイ特夫人の死後約一五年たってから、当時カリフォルニア州エルムスヘブンの事務所に保管されていた未出版の原稿のファイルに、新たな索引がつけられました。そして、彼女の手紙や原稿の中から精選された資料が、リーフレットの形で出版されました。これらは、特にセブンスデー・アドベンチストの働き人にとって関心のある『クリスチャンの経験』とか『働きの方法』『教育』『教会』などのいろいろな主題を含んでいました。それらは初め『エルムスヘブン・リーフレット』として出版されましたが、後に『ノートブック・リーフレット』という題で発行されました。このシリーズが計四二の異なった項目となり、そして一つのものにまとめられました。

『ノートブック・リーフレット』が出版されてから、エレン・G・ホワイットの『医事伝道』『伝道』『チャイルド・ガイダンス』『福祉の奉仕』『アドベンチスト・ホーム』などが、リーフレットに初め選ばれた原稿から多くの資料を取り、その多くの資料やそれに対応する資料を恒久的な書籍の形で提供しました。そのために、『ノートブック・リーフレット』の役割も必要も非常に減少しました。

しかし、リーフレットの中のいろいろ違った性質のもの、たとえばクリスチャン経験やそのほかの重要な題目に関しては、エレン・G・ホワイットの死後に発行された書籍の中に出ていませんし、それらに対応する記事もありません。こういった記事が、『セレクトッド・メッセージズ』の中に収録されています。『ノートブック・リーフレット』を分類した最大のものが、この第二部で取り扱われているクリスチャン経験です。

ホワイ特著書管理委員会

第六章 愛に満ちたイエスの守り^{*}

私は書きながら、私たちに対する救い主の愛に満ちた守りに対する深い感謝の念を持ちます。神の言葉を読み、ひざまずいて祈る時、神のやさしさとあわれみを感じて、祈りながら涙が出るのです。天父のやさしさと愛を思う時、私の心は圧倒され、感動します。私は、この世の生活で、イエスの愛をますます飢え渴くように求めます。キリストは私のために十字架についてくださいました。私がキリストとともに十字架につけられても不平を言うことはないのです。……

私たちには将来のことがわかりません。ですから、私たちの手をキリストの手に預け、私たちの心は完全にキリストに信頼して、彼とともに歩むよりほかに安全な道はありません。キリストは、「だれでも私の力によりすがりなさい。そうすれば私と平和を保つことができるようにしてあげよう」と言

—

^{*}これは、一九〇四年二月一八日に書かれた『ノートブック・リーフレット（クリスチャンの経験）』第一の一部。

われたではありませんか。いつも救い主に近くいましょう。イエスのような柔和に満たされて、彼とともに謙遜に歩みましょう。自己はキリストと共に神のうちに隠されつつ……。

外面の飾り

自己を価値あるものとして得意になり、誇りと虚栄心から主のご用に当てるべき時間と注意を衣服や外見に当てる人は、恐るべき損失を招きます。多くの人は美しい着物で外観を飾っていますが、神のみに大きな価値のある心の飾りについては何も知りません。彼らの美しい着物は、罪に汚れ、病み、虚栄と誇りに満ちている心を覆っているのです。彼らは、「あなたがたはキリストと共によみがえらされたのだから、上にあるものを求めなさい。そこではキリストが神の右に座しておられるのである」(コロサイ三ノ一)というみ言葉の意味を知らないのです。

私は日ごとにキリストの霊に満たされることを切望します。キリストの恵みの宝は、私には金銀や高価な装いよりもっと価値があります。今ほど義に対して強い欲求を感じたことはありませんでした。姉妹方が、自分たちが神の子となるためにキリストがどんなに苦しまれたか、その一部でもわかるならば、この世の誇りや自己愛で満足することはできなくなるでしょう。自己を拝することをやめ、神だけに最高の関心を注ぐようになるでしょう。

多くの人が自分を偶像にしていることを示されて、私は心が痛みます。キリストは彼らのためにあ

がないの価を払われました。彼らの力のできる奉仕は、すべてキリストのものです。しかし彼らの心は、自己愛と自己を飾る心でいっぱいになっています。彼らは、「だれでもわたしについてきたいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負うて、わたしに従ってきなさい」(マルコ八ノ三四)というみ言葉を考えたことはありません。自己満足が彼らの目からキリストを隠しています。彼らは、柔和で心を低くして神の前に歩むことを望みません。彼らはイエスを見ていないのです。キリストのみ姿に変えられるように祈りません。彼らは、主の宴会に自分が平常着る衣服で出席した人のようです。その人は、王が要求した準備をしていませんでした。高価な値段で彼のために整えられた衣服を、あなどって着なかったのです。「友よ、どうしてあなたは礼服をつけないで、ここにはいつてきたのですか」(マタイ二二ノ一二)という王の質問に、彼は一言も答えることができませんでした。彼は自責の念にかられつつ、沈黙するほかなかったのです。

クリスチャンと称している人の多くは、ただ名前だけのクリスチャンです。彼らは回心していません。いつも自分を高めようとしています。マリヤのようにイエスの足元に座って、その教を学ぼうとはしないのです。彼らはキリストの再臨の準備ができていません。

大きな驚き

夜の幻の中で、私は、心が虚栄と自負心に満ちている一団の人々と一緒にいました。キリストは彼

らの目から隠されていました。突然、大きなはっきりした声で、次の言葉が聞こえました。「イエスは、地上で彼を愛し、彼に仕えた人々を、み国でいつまでもともにいるために迎えようとして来られる」。その一団のうちの多くの人は、高価な衣服を着、彼を迎えるために出て行きました。彼らは自分の衣服ばかりに目を注いでいました。しかしイエスの栄光を見た時、彼らは外観ばかりで互いに評価していたことに気がつき、また、自分たちにはキリストの義の衣がなく、人々の血が自分たちの衣服についていることを知りました。

キリストが選ばれた人々を連れて行かれた時、彼らは準備ができていなかったもので、そこに残されました。彼らの生活では、自己が第一の場所を占め、救い主が来られた時に、彼をお迎えする準備ができていなかったのです。

私は幻から覚めても、彼らの苦悩に満ちた顔が心に焼きついていて、その印象を消すことができませんでした。私が見た光景そのままに描写できたら、と思います。経験によって「あなたがたはすでに死んだものであって、あなたがたのいのちは、キリストと共に神のうちに隠されているのである」(コロサイ三ノ三)という言葉の意味を学んでいなかった人々の失望は、本当に痛ましいものでした。クリスチャンと称していても、体験によってキリストを知っていない人がたくさんいます。欺かれて、準備ができていない気の毒な人々のことを思うと、心が痛みます。自分に満足し、自分を正しいと思って平和のうちにキリストにお会いする準備をしていない人々を会衆の中に見る時、私は心に重

荷を感じて眠れないほどです。どう言ったら彼らが自分の本当の状態に気づくようにすることができ
るでしょうか。自己が彼らの生活の中心テーマです。私はキリストをはっきり示して、彼らがその目
を自分自身に向けることをやめ、キリストを見ることができたらと思います。……

最後の裁きの日にひどく失望する人々の中に、外面は宗教的でクリスチャン生活をしているように
見えた人々がいるでしょう。しかし彼らのすることのすべてに、自己が織り込まれています。彼らは
自分たちの道徳性を誇り、影響力を誇り、他人より高い地位に立つ能力を誇りとします。彼らはこれ
らのことでキリストの賞賛の言葉をいただくことができると思っています。主よ、「わたしたちはあな
たと一緒に飲み食いしました。また、あなたはわたしたちの大通りで教えてくださいました」(ルカ
一三ノ二六)「わたしたちはあなたの名によって預言したではありませんか。また、あなたの名によっ
て悪霊を追い出し、あなたの名によって多くの力あるわざを行ったではありませんか」(マタイ七ノ二
二)と、彼らは訴えます。

しかしキリストは、「あなたがたを全く知らない。(不法を働く者どもよ)行ってしまえ」「わたし
にむかって『主よ、主よ』と言う者が、みな天国にはいるのではなく、ただ、天にいますわが父の御
旨を行う者だけが、はいるのである」(マタイ七ノ二三、二二)。

議論の余地はありません。その時期は過ぎ去ったのです。彼らは天の交わりに不適当なので、天か
ら追い出されたのです(マタイ七ノ二四、二七参照)。

手紙九一、一九〇四年

贖罪の計画を通して、神はすべての罪の性質をおさえ、どんな強い誘惑にも対抗する方法を備えてくださいました。

『レビユー・アンド・ヘラルド』一八八五年一月二十二日

神の民がキリストに対する愛を心に持ち、すべての教会員が自己否定の精神に満たされ、だれもが徹底した熱心さをあらわすならば、国の内外の伝道資金が足りなくなることはありません。私たちの資金は増加し、多くの有用な働きが開かれ、そこに入るように招かれるでしょう。神の民が、われみのメッセージをこの世に伝えることによって神の目的を遂行していたならば、キリストは今より前に地上に來られ、聖徒たちを神の都に迎え入れてくださったはずです。

『ユニオン・カンファレンス・レコード』（オーストラリア）一八九八年一月十五日

第七章 キリストの支配^{*}

ゲラサ人はキリストが立ち去られるように望みました。カペナウムの人々はイエスを迎え、彼はそこで驚くべき業をなさいました。

キリストは、天にも地にもすべての力を持っておいでになります。彼は偉大な医者であり、肉体や霊的な病の時に助けを求めることができます。風や波、悪鬼に憑かれた人々に対して、ご自分が絶対的な支配力を持っておられることを示されました。彼に死と黄泉の鍵が与えられました。彼が人間の姿をお取りになっている時でも、権威や力は彼に服しました。……

私たちはこの医師であられる神に、なぜもっと大きな信仰を持たないのでしょうか。中風の男を助けられたのと同じように、癒しを求める者には今日もなお働いてくださいます。私たちはもっと大き

—
^{*}『ノートブック・リーフレット（クリスチャン経験）』第二に出ている。

な信仰を持つことが必要です。私は、私たちの間に信仰が欠けているのを見て、驚きます。キリストが私たちの肉体や心の病を癒してくださることを信じて、その臨在の前に来ることが必要です。

私たちは信仰がなさすぎます。この民を神に対する信仰を持つように導くことができたなら、どんなにいいでしょう。信仰を働かすために、高揚した興奮状態になる必要はありません。私たちが他人の言葉を信じるのと全く同じように、神の言葉を信じればよいのです。神が言われたことは、全くその通りなので、心を静めてその約束に頼ればよいのです。神はみ言葉のうちにお語りになりました。そして、約束なさったすべてのことを実行してくださいます。不安になつてはなりません。神に信頼なさい。神の言葉は真実です。天の父は信頼できると思って行動なさい。……

新しい地に真理を宣べ伝えるために人々が任命されます。これらの人々を支えるために、資金が必要で、働きの中で出会う貧しい人々を助けるために、引き出すことのできる資金がなければなりません。貧しい人々に示す慈善は、真理を宣べ伝える働きを助けます。必要を感じている人々を進んで助けると、その人々は感謝し、神も喜んでくださいます。

このような忠実な働き人を、教会は支持すべきです。主は、彼らのための祈りを聞いてくださいます。そして、教会は彼らの働きに実際的な関心を示すべきです。

自分のために生きている人はだれもいません。神の働きにおいては、すべての人が、なすべき仕事を割り当てられています。すべての人が一致すれば、おののの仕事も強められます。教会において

信仰と愛と一致が強くなれば、その影響力の輪も強くなります。この影響をできる限り広げるべきです。そうすれば、十字架の勝利は絶えず前進していくでしょう。

起きよ、光を放て

神は、型にはまった内部的な働きをもっと広いものにして、福音のメッセージが都市の内外に広く伝えられることを求めておられます。十字架の旗のもとにすべての人が奮い立ち、働きが前進し、神よりの熱心さを持って真理が伝えられると、世の人々は真理のメッセージに力が伴うのを見ることができるよう。違った性格を持った人々の間に完全な調和ができ、心が一つになる時、信徒の一致は真理の力の証となるのです。

祈りと捧げものが、熱心な自己犠牲の努力と結びつく時、彼らは世の人と天使たちの目を見張らせる存在となり、人々は新しく悔い改めに導かれます。かつては自分のために高い報酬を求めた手が神の助けの手となります。信徒は一つのこと心に心を注ぎます。それは、神があめられるための真理の砦を造ることです。キリストは神よりの一致と愛の絆で、彼らと一つになられます。それは抵抗することのできない力を持つ絆です。

キリストが十字架におつきになる直前にお祈りになったのは、この一致でした。「父よ、それは、あなたがわたしのうちにおられ、わたしがあなたのうちにいるように、みんなの者が一つとなるため

あります。すなわち、彼らをもわたしたちのうちにおらせるためであり、それによって、あなたがわたしをおつかわしになったことを、世が信じるようになるためであります」(ヨハネ一七ノ二一)と言われました。

神は半ば眠っている人々に、起きて奉仕する力が与えられるように祈り、熱心に働くことを求められます。働き人が必要です。決まりきった規則に従う必要はありません。聖霊を受ければ、働きは成功します。キリストの臨在が力を与えるのです。不和や争いをやめ、愛と一致を求め、みな聖霊の導きのもとに行動しましょう。神の民が自分を全く神に捧げるなら、分裂によって失った力が回復されるでしょう。神が、不和は弱さであり一致は力であることを、私たち一同に悟らせてくださるよう、祈ります。

手紙三二、一九〇三年

信仰を語りなさい

どんなことが起こっても、失望してはなりません。主は私たちを愛しておられ、そのみ言葉を実現してください。病人が神に信頼するように励ましましょう。勇気を出すように勧めましょう。最後まで、希望を語りましょう。死ななくてはならない時でも、主を賛美するようにさせましょう。主は常に生きておられます。主に忠実に従っている人でも命を落とすかもしれませんが、その業は残るのです。そして甦りの朝、喜びを持って目を覚めますのです。

失望しないようにしましょう。疑惑を語らず、信仰を語りましょう。信仰は無限の力を与えます。
この力をつかんで、人間の力に頼らなければ、神の救いを見ることができなのです。

『レビュー・アンド・ヘラルド』一九〇九年十二月三〇日

第八章 喜んで力を尽くし、用いられる^{*}

神を最高に愛し、隣人を自分のように愛する人は、自分がこの世界と天使と人々の見せ物となっていることをいつも忘れません。神のみ旨に従い、その生活に人の心を変える恵みの力をあらわします。それはキリストが与えてくださるのです。そして人生のあらゆる逆境において、キリストを導き手としてその模範に従います。

真実で自己犠牲的な神のすべての働き人は、他人のために喜んで力を尽くし、また用いられます。キリストは、「自分の命を愛する者はそれを失い、この世で自分の命を憎む者は、それを保って永遠の命に至るであろう」（ヨハネ一ニノ二五）と言われました。必要を感じている人を助けるための熱心で思慮深い努力によって、真のクリスチャンは、神と同胞に対する愛を示すのです。その奉仕の働きで

—
^{*}『ノートブック・リーフレット（クリスチャン経験）』第三に出ている。

生命を失うことがあるかもしれませんが、ふたたびそれを見いだすでしょう。

兄弟姉妹方、自分のために、自分を飾るために、多くの時間と費用を使わないでください。このような人は、疲れた心に暖かな光を送っているいろいろな慰めることができたはずの機会を失います。私たちはみな、ほかの人たちに光と希望を与えることのできる機会を、もつと忠実に活用することを学ぶ必要があります。もし自分のことばかり考えているなら、どうしてこのような機会を捕らえられるでしょうか。自己中心的な人は、他人と自分の祝福となるはずの多くの機会を失うのです。どんな状況においても、「他の人を助けるために、どうしたらいいか」と考えることは、キリストの僕の義務です。そして、自分の最善を尽くせば、結果は神に任せればよいのです。

私は、天国に行った時、この世ではできるだけのことをしたと覚えることができるような生活をしたと思います。神は、富んでいても貧しくても、すべての人が持つことのできる喜びを備えてくださいました。それは、清い心や無私の行為を育む喜び、同情ある言葉を語り、親切な行為をする喜びです。このような奉仕をする人々から、キリストの光は輝き出て、多くの陰のある暗い生活をしている人々を明るくするのです。

真理をわかりやすく語ることができないと、神をあがめることはできません。愛をもって真理を語り、私たちの声にもやさしさと同情がなければなりません。

終末時代の危険が迫っています。自己満足の生活をしている人が、神をあがめることはできません。

神は彼らを通して働きになることができないのです。それは、彼らが真理を知らない人々の前に、神を正しくあらわしていないからです。資金を賢明に使いましょう。暗黒の世に警告の使命を伝えるという主のご計画を妨げてはなりません。節約を学び、自分の費用はできるだけ切り詰めましょう。み事業の各方面は、助けを求めています。神は、あなたが心に誇りを抱いているのを見ておられるかもしれません。あなたが、自分の誇りを満足させるために使い、み旨にそって用いなかったために、神はあなたに与えられた祝福を取り去らねばならないとお考えになるかもしれません。……

必要な時の助け

働きが始まってあまり時がたっていない所で働いている人々は、設備を改善する必要に迫られることがしばしばあります。設備がないために働きが妨げられるように見えますが、心配する必要はありません。すべてを祈りのうちに主のもとに持っていくきましょう。新しい伝道地の働きを進めていく時、資金の限界にすることがしばしばあります。時にはこれ以上前進できないと思われることもあります。しかし、絶え間なく天のみ座に祈りを捧げ、常に自己に死ぬ時に、神は祈りを聞き、求めに答えて、働きが前進するために資金を送ってくださいます。

すべての心遣いを救い主のみもとに置きましょう。「求めなさい、そうすれば、与えられるであろう」(ヨハネ一六ノ二四)。働き、祈り、心から信じなさい。何をするにも、資金があなたの手に入るまで

待たないで、信仰をもって踏み出しなさい。神は、真理の旗を多くの場所に立てなければならない、と言われました。神に助けを求める時、信じることを学びなさい。自己犠牲を実行してください。この地上でのキリストの全生涯は自己犠牲の生涯でしたが、彼は、私たちが永遠の命を得るために何をなすべきかを示すために来られたのです。

最善を尽くし、忍耐と希望と喜びをもって待ちなさい。神の約束は必ず成就するのですから。失敗が生じるのは、自分たちの資力をみ事業前進のために用いることのできるはずの人たちに、信仰が欠けているからです。持てるものを捧げるのを怠れば怠るほど、信仰は弱まります。こういう人たちは、壁を築いて神の働きを妨げていることになるのです。

愛する共労者の方々、真実で、希望と勇氣を持ってください。信仰を持って一つ一つ努力していきましょう。あなた方が最善を尽くせば、主はその忠実さに報いてくださいます。命の泉から体と心と霊的なエネルギーを引き出してください。男性も女性も清められ、純潔で上品で高貴な性質を受ける約束を与えられているのです。私たちには、目に見えない方に見られてもよい信仰が必要です。あなたの目を神に留めるなら、心は、ご自分の命を与えてくださった神の深い愛で満たされるでしょう。そして、さらに働く力を受けるのです。

キリストは唯一の希望です。この世のために命を与えられたキリストの名によって、神のもとに行きましょう。キリストの犠牲のいさおしに頼りましょう。彼の愛と喜びが、あなたの心にあることを

示してください。そして、キリストの愛によってあなたの喜びが満たされていることを示してください。多く祈ってください。祈りは魂の命です。信仰の祈りは、敵のどんな攻撃にも耐えることができます。武器なのです。

原稿二四、一九〇四年

第九章 自己を吟味する^{*}

「あなたがたは、はたして信仰があるかどうか、自分を反省し、自分を吟味するがよい」(コリント第二・一三ノ五)。気質や性質、考えや言葉、傾向や目的、行為を綿密に反省なさい。聖書によって霊的健康状態を調べなければ、私たちの必要をどうして正しく求めることができるでしょうか。

多くの人がその宗教生活において、曲がった道を歩いています。祈りはいい加減でまとまりがありません。責任ある立場に置かれた人は、自分の力では要求されていることを実行できないということを、覚えなければなりません。毎日彼は、自分がこの世界と天使と人々の見せ物となっていることを忘れてはなりません。

働きの場に送られた人は、高価な設備を備えられるまで待つべきではありません。奉仕する人々は、

—
^{*}『ノートブック・リーフレット(クリスチャン経験)』第一二に出ている。

どこに置かれてもどんな仕事でも、喜んで取り上げなければなりません。すべてのことの模範であるキリストは、その貧しさの中から多くの人々を富ませてくださいました。

心が、神の恵みと滅びつつある同胞に対する愛で満たされている人は、どこに置かれても疲れた人々に時になつた言葉を語る機会を見いだします。クリスチャンは、この世の騒がしさの中でも、廉潔を保ちながら柔和と謙遜をもって主のために働くべきです。

神は人生のすべての取り引きにおいて、神に仕えることを求めになります。神の律法を日常生活の律法として置かないと、仕事は畏となります。主の働きとなんらかの関係を持つている人は、動かない廉潔さを保っていなければなりません。すべての事務の処理においても、ひざまずいて天よりの助けを求める時のように、神のみ旨に従わなければなりません。主をいつも自分の前に置き、み言葉の語ることにについて常に学ばなければなりません。しっかりと原則に立っていない人を墮落させるような環境に置かれても、このような敬虔で廉潔な人はキリストの教えを守っていくのです。

今日、世界はノアの時と同じように、クリスチャン品性を成長させるにいい場所ではありません。ノアの時代は、悪があまりに広がったので、神は、「わたしが創造した人を地のおもてからぬぐい去ろう。人も獣も、這うものも、空の鳥までも。わたしは、これらを造ったことを悔いる」と言われました。しかし、ノアは主の前に恵みを得た。……ノアはその時代の人々の中で正しく、かつ全き人であった。ノアは神とともに歩んだ（創世記六ノ七ノ九）。そうです、あの墮落した時代のただ中であって、

ノアは創造主の喜びであつたのです。

私たちは、地上歴史の最後の時代に住んでいます。この時代は罪と腐敗の時代です。そしてノアのように私たちは、「暗やみから驚くべきみ光に招き入れて下さったかた」(ペテロ第一・二ノ九)を賛美しつつ、神に喜ばれる生活をすべきです。キリストは十字架の直前に、天父に捧げられた祈りの中で、「わたしがお願いするのは、彼らを世から取り去ることではなく、彼らを悪しき者から守って下さることであります」(ヨハネ一七ノ一五)と祈られました。

最高の奉仕

神の受け入れてくださる品性を形成し、克己と自己犠牲によつて最後の試練の準備ができ、神の家族に迎え入れられるようになった時、罪を犯した人間を救うためにご自分を犠牲にされたお方にとつて、いかなる奉仕が最高と考えられるでしょうか。いかなる企てが、無限の愛を持たれる神のみ心にとつて最も大切でしょうか。父なる神にとって、いかなる業が最大の満足と喜びになるのでしょうか。それは、滅んでいく魂を救うことです。キリストは、人を救う福音の力を与えるために命を犠牲にされました。キリストと協力して、このあわれみの大事業を前進させ、全力を尽くしてすべての人を救うために努力する人々は、あがなわれた群れが神のみ座の回りに立つ時、あがない主の喜びに預かるのです。

神は、今日行われているよりはるかに多くの働きを神の僕たちがするようにと、資金と能力をおゆだねになりました。

天のみ使いは言いました。「主の機関の働きは、現時点で成就されていなければならない大いなる真理に比べると、はるかに遅れています。義務についての恐るべき誤解があります。信者がその中で満足して生活している冷ややかな雰囲気は、世界を警告し、魂を救うべき自己犠牲的な運動を後退させています。

暗黒の勢力は激しく働いています。毎年、あらゆる部族、国民、国語から何千もの人々が警告を受けず、準備のないまま永遠に過ぎ去っていきます。私たちの信仰はもとはっきりした、確定的で重要な意味を持たなければならないのです。

主の機関や教会に問うてごらんなさい。神の言葉を信じますか、と。それなら、伝道の面で何をしていますか。自己を捨て、自己を犠牲にして働いていますか。神の言葉は間違いないことを信じていますか。あなた方の行動は、そう信じているようには見えないのです。警告を受けることなく永遠に過ぎ去っていく無数の人々に、あなた方は神の裁きの座で、どんな顔をして会うことができるでしょうか。

第二の恵みの時があるでしょうか。いいえ、その考えは間違いで、今すぐ捨てた方がいいのです。現在の恵みの時以外に恵みの時はありません。墮落した人類の救いは、現在の生活で得なければなり

ません。そうでないと、永久に失われてしまうのです。」

私たちの責任

ラオデキヤのメッセージは、現在の教会に当てはまります。このメッセージを信じますか。心で感じますか。それとも、自分たちは富んでいて、物も豊かに必要なものはない、といつも言っているでしょうか。全世界のすべての国民に伝えるために、永遠の真理がこの民に伝えられたのは、無駄であったのでしょうか。神は一つの民を選び、永遠にかかわる重大な真理の貯蔵庫となさいました。彼らに全世界を照らす光が与えられたのです。神は間違いをなさったのでしょうか。私たちは本当に神に選ばれた器なのでしょうか。私たちは、全世界に黙示録一四章のメッセージを持って行き、滅亡の淵に立っている人々に救いのメッセージを宣べ伝えるべき者なのでしょうか。そのように行動しているでしょうか。

明瞭な決定的な声でみ使いは言いました。「あなた方は何をしているのですか。それがわかっているのですか。警告の重要性を知り、それがあなた方にとってもこの世にとっても、どんな意味を持っているかが本当にわかったら、そしてこの世のために命を与えてくださった方の霊に満たされるなら、罪人を救うため熱心に自己犠牲的に働いて、神に協力するはずなのです。」

『彼を知っている』と言いながら、その戒めを守らない者は、偽り者であって、真理はその人のうち

にない」(ヨハネ第一・二ノ四)。大いなる覚醒が教会に起こらなければなりません。私たちがこの状態を本当によく知れば、メッセーシの精神はいかに早く教会から教会へと伝えられていくことでしょう。そして信者の所有物は、神のみ業を支えるために喜んで捧げられるでしょう。神は私たちに、目を覚まして祈りなさい、と言われます。主の会計に行くべき資金を消費してしまう偶像となっている写真^{*}を、あなたの方の家からなくしてしまいなさい。ランプが燃えている時、必ず光が出ていきます。メッセーシを世に持っていく人々は、聖霊が豊かに注がれるように熱心に祈るべきです。失う時間はありません。遠い人のためにも近い人のためにも、成功ある働きができるように神の力を祈り求めましょう。

与えられるべき警告

私たちは純粋な信仰を持たねばなりません。しかし、まだ私たちは、真理の実際の力をほとんどつかんでいません。神の言葉を半分信じているだけです。人は自分の信仰で行動します。時の兆は全世界に成就しているのに、主の再臨に対する信仰は弱くなっています。明瞭に、明確に、そして確実に、

—

* 写真を撮ることについては、『セレクトッド・メッセーシズ』二巻三一七〜三二〇ページにもっと詳しい記述がある。

警告を与えねばなりません。私たちは、私たちのうちに働きかけ、その願いを起こさせ、かつ実現に至らせるのは神であって、それは神のよしとされるところであることを覚え、自分たちの救いの達成のための定められた条件を命をかけて学ぶべきです。

言い伝えや憶測による誤りに従って、一般の潮流に流されてはいけません。私たちは神の共労者と言われています。ですから、立って光を放ちましょう。争っている暇はありません。イエスにある真理の知識を持っている者たちは、心と目的を一つにしなければなりません。すべての不和を取り除き、教会員はその大いなる頭の下で一致して働かなければならないのです。

真理の知識を持っている人は立って、光を放ってください。「大いに呼ばわって声を惜しむな。あなたの声をラツパのようにあげ」(イザヤ五八ノ一)なさい。真理を損なってはなりません。生ける神を心から求めましょう。鼻に息する人に頼ることをやめましょう。心の戸を開けば、聖霊が宿ってください。さいます。「わたしたちには、もろもろの天をと行って行かれた大祭司なる神の子イエスがいますのであるから、わたしたちの告白する信仰をかたく守ろうではないか。この大祭司は、わたしたちの弱さを思いやることのできないようなかたではない。罪は犯されなかったが、すべてのことについて、わたしたちと同じように試練に会われたのである。だから、わたしたちは、あわれみを受け、また、恵みにあずかって時機を得た助けを受けるために、はばかりことなく恵みの御座に近づこうではないか」(ヘブル四ノ一四―一六)。

第一〇章 悪天使より強力な善天使^{*}

サタンは不従順な子らに働き、彼らの心に近づくだけでなく、意識的にも無意識的にも、彼らの影響を通してすべての人々を同じ不従順に引き入れようとしています。悪天使が人間を不従順に陥れようとして、このような力を持っているとすれば、善天使はもつと大きな力をもつて、従順になろうとしている人々に働きます。私たちの心がイエスを信頼して神に服従し、義に至ろうとする時、神のみ使いは私たちの心に働いて義へと導くのです。……

天使は誘惑の野で私たちの主の所に来て、仕えました。天使は、イエスがサタンの攻撃にさらされておいでになる間中、彼のそばにいました。この攻撃は、いかなる人間が経験したより厳しいものでした。人類家族に関するすべてのことが、危機に瀕していました。この戦いにおいて、キリストはご

—
^{*}『ノートブック・リーフレット（クリスチャン経験）』第一五に出ている。

自身の言葉をお使いになりました。彼は、「……と書いてある」(マタイ四ノ四)という聖書の言葉に頼られたのです。この戦いにおいてキリストの人性は、人間が知ることのできないほどの重荷を負いました。命の君と暗黒の君は激しく戦いましたが、サタンは言葉においても、行動においても、少しも優位に立つことができませんでした。これは見せかけではなく、本当の誘惑でした。キリストは、「試練を受けて苦しまれた」(ヘブル二ノ一八)のです。天使たちがその時その場において、旗を掲げ、サタンが自分の領域を越えてキリストの人性を圧倒しないようにしていました。

最後の誘惑において、神より遣わされたと自称するサタンを礼拝さえすれば、全世界とそのすべての栄光を与えよう、とサタンが言った時、キリストははっきりと命令をお出しにならねばなりませんでした。すべてのサタンの努力にまさる権威を行使なさる必要があつたのです。神性が人性を通してひらめき、サタンは決定的に退けられました。キリストは、「サタンよ、退け。『主なるあなたの神を拝し、ただ神にのみ仕えよ』と書いてある」(マタイ四ノ一〇)と言われたのです。

それで十分でした。サタンはそれ以上何もすることはできませんでした。天使は食物をイエスのもとに運びました。この戦いの激しさは、いかなる人も測ることはできません。全人類とキリストご自身の幸福が危機に瀕していたのです。キリストが一つの容認の言葉、一つの譲歩の言葉でも出されたら、サタンはこの世界を自分のものとして要求し、暗黒の君はその支配を始めることができると思つたでしょう。そこに天の使いが、キリストのもとにあらわれました。戦いは終わったのです。キリス

トの人間としての力だけでは倒れんばかりでした。しかし、天使の助けによって、全天は永遠の勝利の歌を歌うことができたのです。

人類は、キリストがサタンと戦われた時に与えられたすべての助けを得ることができるのです。打ち負かされる必要はありません。彼らを愛し、その命を与えてくださった方によって、勝ちえてあまりある経験をする事ができるのです。「あなたがたは、代価を払って買いとられたのだ」(コリント第一・六ノ二〇)。何という高い価でしょうか。神の子が人性を取り、人間が経験するのと同じ圧倒されそうな誘惑と戦われたのです。それは、食欲にふける誘惑、神の導かれない所に僭越にもあえて踏み入るという誘惑、またこの世の君を拝し、心を捕らえる快樂のために永遠の幸福を犠牲にするという誘惑でした。すべての人は誘惑を受けます。しかし言葉は、私たちは耐えられないような試練に会うことはない、と断言します。私たちは悪しき敵に抵抗し、敗北させることができるのです。

天国を勝ち取る

すべての人は天国を勝ち取ることができ、地獄を避けることができます。試みられ、誘惑を受けている人々を助けるために、天使の軍勢が待機しています。無限の神の子イエスは、私たちのために試練に耐えてくださいました。カルバリーの十字架は、すべての人の前に鮮やかに立っています。すべての人が裁かれる時、つまり神をあなどり、不従順によって神の栄光を無視して来たために滅びる人々

が苦しみを与えられる時、だれも言い訳をすることはできません。もともと滅びなければならなかったという人は、一人もいないのです。自分の王としてキリストを選ぶかサタンを選ぶかは、各自の選択によるのです。キリストが受けられたすべての助けは、大いなる試みの時にだれでも受けられます。十字架は、一人も滅びることがないように、十分な助けがすべての人に備えられている約束として立てられています。私たちは、サタンの軍勢を征服することもできれば、この世界における神の業に反対して働いている勢力に加わることもできるのです。……

私たちは、私たちのために弁護してくださる助け主を持っています。聖霊は絶えず私たちの行動を見ています。……私たちもイエスのように、真理の実践によつて真理を示す必要があることを、はっきり認めなくてはなりません。天の軍勢は天からの使命者であり、現実に昇り降りして地と天とを絶えずつないでいるのです。これらの天の使命者たちは、私たちの行動を見ています。彼らは神の摂理に従つて、道徳的、肉体的な危険からすべての人を守り、その弱点を助けようと待っています。このような天使の助けを受けながら、私たちが心を和らげ、抑制するみ霊の感化力に従う時、天には喜びがあり、主ご自身も喜びの歌を歌ってくださいなのです。

人間は、自分に栄光を帰することが多すぎます。人間の悔い改めと品性の清めは、天の使いたちが神のご計画に従つて人間と協力する時にもたらされます。天使の働きの栄光が、人間の弱さに合わせて覆われていなければ、私たちはそれを見ることも、その栄光に耐えることもできません。光の天使

に見られる天の栄光の輝きは、人間を滅ぼしてしまうでしょう。天使は、それぞれの責任として与えられた人の心に働きます。彼らは、イエスの墓のそばにいた女たちにしたように、心に尊い記憶を甦らせてくれるのです。

私たちの性質を新しくするために作られた天の計画に、天使が用いられ、神に対して不従順の子らを従順にします。神の方法で働き、神の計画に従うすべての人に、天の軍勢の保護が与えられます。私たちは、熱心な悔い改めの祈りのうちに天の助け手を私たちのそばに呼ぶことができます。目に見えない、光と力を持った軍勢が、へりくだって柔和な心の低い者とともに働くのです

手紙一一六、一八九九年

天使は協力を求めている

サタンは、人間を用いて人の心を誘惑しますが、神の使いは、誘惑されている人々を助けるために協力できる人を求めています。天使は、キリストに属していることを自覚して、キリストの側に立つて働く人々を求めています。誘惑に陥っている人々はみな、身分の高い人でも低い人でも、特別な助けが必要なのだ、と感じている働き人を探しているのです。また、見過ごされ、無視され、敵によって傷つき、痛めつけられて死に瀕している人々をキリストが見守っておられること、加えて、かたくなで、心を清める愛によって働く信仰を持つことを拒む人々を見てキリストが悲しんでおいでになる

こと、を感じている働き人を探しています。

天使たちは、天使たちと協力して魂を死より救い、多くの罪をおおう人々とともに、また、彼らを通し、彼らによって働きます。これらの人々は、そうすることによって自らをかえりみ、同じ誘惑に陥らないようになるのです。

これらの医者が必要とするのは病人であって、健康な人ではありません。必要のない人のために働いて、あなたの言葉と行為が祝福となるはずの人々をおろそかにするなら、あなたはキリストにならつた品性を形成しているとは言えません。

手紙七〇、一八九四年

第一章 人間の価値^{*}

主は、私たち一人ひとりが決定的に熱心であることをお望みになります。霊的なことで、過ちは許されません。私たちにとって死活問題は、「永遠に救われるためには、どうすればよいか」ということです。「永遠の命、神と同じような限りない命を継ぐためにはどうしたらよいのでしょうか」。これが、だれでも考えなければならぬ問題です。……

この世に住んではいますが、私たちは神の助け手となるべきです。パウロは、「あなたがたは神の畑であり、神の建物である」(コリント第一・三ノ九)と言いました。私たちは神と協力して、神の望みになるすべてのことをしなければなりません。私たちは永遠の神の目的を果たしているでしょうか。

—

* セントヘレナ病院のチャペルで、一九〇四年一月二三日になされた説教の一部。『ノートブック・リーフレット(教会)』第七に出ている。

日毎にキリストの心を持ち、言葉と業に、そのみ旨を行っているでしょうか。

今日、人類はどんな状態にあるでしょうか。今までこんな混乱状態を見たことがあるでしょうか。暴行、殺人、窃盗、そのほかあらゆる犯罪があります。この時代に、私たち一人ひとりにはどんな状態でしょうか。

イザヤ五八章に、「あなたがたの断食するのは、ただ争いと、いさかいのため、また悪のこぶしをもって人を打つためだ」とあり、神はこのような断食はお受けにならないことを学びました。「きょう、あなたがたのなす断食は、その声を上に聞こえさせるものではない」と、神は言われるのです。

「このようなものは、わたしの選ぶ断食であろうか。人がおのれを苦しめる日であろうか。そのこうべを葦のように伏せ、荒布と灰とをその下に敷くことであろうか。あなたは、これを断食となえ、主に受けいられる日と、となえるであろうか。

わたしが選ぶところの断食は、悪のなわをほどこき、くびきのひもを解き、（くびきをつけるのではなく）しえたげられる者を放ち去らせ、すべてのくびきを折るなどの事ではないか。また飢えた者に、あなたのパンを分け与え、さすらえる貧しい者を、あなたの家に入れ、裸の者を見て、これに着せ、自分の骨肉に身を隠さないなどの事ではないか」（イザヤ五八ノ五―七）。

報い

「そうすれば、（彼らがこのような必要を満たすあわれみの業をしたあと）あなたの光が暁のようあらわれ出て、あなたは、すみやかにいやされ、あなたの義はあなたの前に行き、主の栄光はあなたのしんがりとなる」（イザヤ五八ノ八）。

私たちは律法の教えを実行して初めて義が私たちの前に行き、その結果神の栄光があらわれるのです。キリストの義の光が、私たちの前衛であり、主の栄光は私たちのしんがりとなるのです。この確証を主に感謝しましょう。いつでも主なる天の神が受け入れてくださることができるような立場に立ちましょう。神とつながり、その助けの手となることが、私たちの高い特権であることを覚えましょう。

滅んでいく人類を救う神の大いなるご計画において、神は、人間の器をその助け手としてお用いにならねばならぬよう、お定めになりました。神は、人間に接触されるために助け手の手が必要なのです。神は、行動的であればよく機会を捕らえ、同胞のために何をなすべきかを速やかに認める人たちの協力を必要となさっています。

キリストは罪を犯した人のために、命をお与えになりました。キリストは、人類を罪の生活から従順と義の生活へと導くことを望んでおられます。彼は、彼を受け入れる人の救い主とされます。そして、天の与える最高の報い、永遠の命の嗣業を与えてくださいます。……

私たちを救うために無限の価が払われたことを、もつとよく悟ることができたら、と思います。パウロは、「あなたがたは、代価を払って買いとられたのだ」(コリント第一・六ノ二〇)と言いました。確かにそうです。その価は、神のひとり子の命であったのです。このことをもつと考えましょう。私たちはキリストの招待を拒むこともできます。キリストのお与えになる罪の赦しと平和を無視することもできます。しかしそれでも、私たち一人ひとりが神の子の尊い血という価をもって買われたという事実には変わりはありません。だから、イエスを「思いみるべきである」(ヘブル―二ノ三)とされているのです。

あなたには多くの価が払われています。「それだから、自分のからだをもって、神の栄光をあらわさない」(コリント第一・六ノ二〇)。あなたが自分のものと考えているものは、みな神のものなのです。神の所有物を大事にしてください。神はあなたを無限の価を払って買われたのです。あなたの心は神のもです。どんな人でも、自分のものではなく主イエス・キリストのものである体を乱用する権利があるでしょうか。また、どんな形の利己的な耽溺によってでも、体や心の力を徐々に弱めることで本当に満足することはできないのです。

神は、すべての人間に頭脳を与えられました。神はそれを神の栄えのために用いることを望んでおられます。それを用いて、滅んでいく同胞を救うために、神と協力することができのです。私たちは、頭脳の力、すなわち理性的に考える能力をあまりにも働かせていません。私たちは、キリストが

買われた人間の機能を最善に用いることができるようになるために、心と体のすべての力を教育し、訓練しなければなりません。私たちは、これらの力をできるだけ強くするようにすべきです。神は、私たちがさらに能率のよい神の協力者となることを喜んでくださいます。

自分の義務を忠実に果たす人について、「わたしたちは神の同労者である」(コリント第一・三ノ九)とされています。神の助けがなければ、人はほとんど何もできません。しかし天父とみ子は、奉仕の祭壇にすべてを捧げるすべての人を通して、喜んで働いてくださるのです。すべての人は神と協力し、神に受け入れられる働きをすることができのです。主は、私たちすべてが働きにつくことを望んでおられます。神はその能力に応じて仕事を与えてくださるのです。……

個人的体験

私の友人はみな、私が子どもの時に遭ったひどい事故のために一生涯病人で過ごすと思っています。ところが一七歳の時、天よりの訪問者が来て、「あなたが伝えるべきメッセージがあります」と言いました。私は、「これは何かの間違いだ」と思いました。しかしまた、「あなたが伝えるべきメッセージがあります。私が告げることが人々のために書いてください」と言いました。その時まで、私の震える手は一行も書くことができませんでした。しかし、「書きなさい。書きなさい」とふたたび声が聞こえました。それで私はペンと紙を取り、書き始めました。それ以来、私はどれだけ書いたか数える

こともできません。その力は神よりのものです。

その時から、私の書いた本は数多くの言葉で出版され、地球の全面に広がりました。しばらく前に私は、私の本の一つをドイツの女王が受け取ってくださったこと、そしてその本に対する丁寧な感謝の手紙を書かれたということを聞きました。このように導いてくださった主を心から賛美いたします。

私たちは、自分では何のよいこともできません。しかし、私たちが神と正しい関係を保ち、神の助けを受けて私たちの分を果たし、私たちの働きをよりよきものとしようと決心することはできるので、謙遜にたゆみなく、この決心を実行する人の生活に、神の栄光があらわれます。私は、経験によってそれを知っています。私自身には何の力もありません。私の弱い心は、イエス・キリストに頼るほか何もできないということを、私は知っていました。イエスに頼り、祈り、信じる時、神の救いは私の前に行き、主の栄光があらわれました。

あなた方の励ましとなり、慰めとなるために、私が知っていることをお話ししましょう。私たち自身を神との正しい関係に置きましょう。この世のやり方と歩調を合わせても、満足は得られません。あなた方には、なすべきもつとよい働きがあります。品性を作ることです。すべての能力、すべての神経、すべての筋肉、すべての考え、すべての行動を、神の栄えのために用いましょう。そうすれば、いまだかつて見なかったほどの神の救いがあなたの前にあらわれてきます。

私には何の不平もありません。主が私を裏切られたことは一度もありません。私は、夫を二二年前

に亡くしました。それから数年たって、オーストラリアにもつと宣教師を送り、すでに送られていた小数の宣教師と合流させるという決議がなされた時、兄弟たちを助け、この新しいセンターで仕事を確立するために私たちが行きました。そこで多くの開拓の働きがなされました。

学校を建てる助け

私たちは有望な青年男女を主の奉仕のために訓練する学校の必要性を痛感し、早速ニュー・ウェールズの森に入って行き、一五〇〇エーカーの土地を求め、都市から離れた訓練学校を造りました。……三年前、アメリカに帰ってきました。そしてほかの人々が、私たちの代わりにオーストラリアへ送られました。働きは成長し続け、すべての面で繁栄しています。あなた方が、私たちに來た手紙をお読みできたならば、と思います。過去二年間に、オーストラリアの多くの場所で起きた恐るべき干ばつの結果もたらされた飢饉のことを、お聞きになったでしょう。幾百幾千の羊や牛や馬が、倒れました。すべての植民地、特にクイーンズランドでは、被害と経済的損失は甚大でした。

しかし、私たちの学校のために選ばれた土地は、牧草地として十分な降雨があり、豊かな収穫がありました。事実、議会でも、大都市の新聞でも、その場所は「ニュー・サウス・ウェールズの唯一の緑のある場所」と言われました。

何とすばらしいことではありませんか。主が祝福してくださったのです。私たちが受け取った一つ

の報告によれば、昨年七千ポンドの良質の蜂蜜が学校の敷地内で作られたということです。大量の野菜が収穫され、余分のものの売り上げは、学校のかんりの収入になりました。これらのことはみな、私たちの大きな励ましとなりました。私たちは荒地を求め、現在の実り多い状態にしたのです。これは全く主のなさったことで、主を賛美します。

すべての国や社会において、助けとなる奉仕の機会はたくさんあります。私たちが今住んでいるこの山間の平野にも、霊的な方面で助けを要する家族たちがいます。この方々を助けてあげてください。あなたのタレント、能力を用いて助けてあげてください。まず、あなた自身を神に捧げれば、神はあなたと共に働いてくださいます。神は、すべての人に各自の働きを与えてくださるのです。

ホワイト姉妹はお金を儲けているか

時々、私がお金を貯めようとしているという噂を聞きます。ある人は私に手紙を書いてきて、「ホワイト夫人は数百万ドルを貯めているのではないですか」と尋ねました。私は、「いいえ」と言うことができます。この世で私が持っている土地は、みな借金のかたになっています。というのも、それほど多くの伝道事業をしなければならない、と私が考えるからです。このような状況のもとで、私がお金を蓄えることができるでしょうか。いいえ、できるはずがありません。私は本の売り上げから印税をもらいます。しかしそのほとんど全部は、伝道事業に使われます。

遠い外国の私たちの出版所の責任者が、私が資金を必要としていることを聞いて五〇〇ドルの為替を送ってきました。それと一緒に来た手紙に、幾千ドルもの印税を伝道地での新しい本の翻訳や配布、そして新しい伝道事業のために送ってくださったことへの感謝のお返しとして五〇〇ドルを同封いたします、と書いてありました。彼らはこのお金を、私の特別な必要の時に私を助けたいと思って、送ってくれたのです。ヨーロッパにおいて私の本が売れた分の印税は、全部外国伝道を維持するために捧げました。私はこの五〇〇ドルを、私の借金が無くなり次第、送り返すつもりです。

神の栄光のために、私はこのことを申し上げましょう。約四年前に、主はイエスのたとえ話についての本を書き終えることができるようにしてくださいました。そして、この本を教団の教育事業発展のために捧げるようにとの心を起こしてくださいました。

あの時は、私たちの大きな訓練学校や大学がたくさんの負債をかかえていました。しかし、会員がこの本を売り、全収益を負債の支払いに当てることにし、すでに二〇万ドル以上集められました。そのおかげで、このよい働きは今も続いています。この計画の成功は、私に大きな満足を与えました。私は今、同様の方法で他の働きに用いるために、もう一冊の本を完成しようとしています。

しかし私にとって、経済的な利益が最も心を励ましてくれるものではありません。私は、これらの本が配布されることによって多くの人々が真理に導かれているということを考えるのが好きです。このことを考えると、私は本当に嬉しくなります。私には座って嘆くような時間はありません。私はひ

たすら働きを続け、本を書き続けます。朝早く、あなた方がまだ眠っている時、私はたいてい起きて書いています。

苦しみの時にも書くことをやめませんでした。オーストラリアに行って間もなく、私は病気になるしました。家に湿気が多かったので炎症性のリウマチにかかり、一か月間休んでいました。時にひどく苦しみました。一つの姿勢で約二時間しか眠れませんでした。それから別の姿勢になるために動かしてもらわねばならなかったのです。空気の入ったゴム製のマットレスも、大した助けにはなりませんでした。そして、大きな苦しみの時を過ごしたのです。

しかし、私は仕事をやめませんでした。私の右腕は肘から指の先まで、痛みはありませんでした。腕のほかの部分と左腕全体と両肩は自由に動かせませんでした。それで、枠組みを工夫してその助けによって書くことができました。この一か月間、便せんで二五〇〇枚書き、アメリカで出版するために広い太平洋の波を越えて送りました。

主が決して私を失望させられないこと、そして力と恵みを与えてくださることを、私は主に心から感謝しています。私が、息を引き取ろうとしている夫のかたわらに立った時、彼の右手を握って「私がかかりますか、あなた」と尋ねると、彼はうなずきました。私は、「長年にわたってあなたが事務的な責任を持ち、新しい働きを指導してくださいました。今からは私自身が開拓者になることを約束します」と言いました。そして私は、「私の言ったことがおわかりになったら、私の手を少し強く握って

ください」と言いました。彼はそうしましたが、もう語ることはできませんでした。

夫が墓に眠ってしまった時、彼の友人たちは壊れたシャフトを記念碑として建てようと考えました。私は、「そうしないでください。主人は、一人で三人分の仕事をしたのです。壊れた記念碑を主人のお墓の上に置いたりしないでください」と言いました。……

神は、常に私を助けてきてくださいました。きょう、私は神のみ名を人々の前であげます。私はほぼ一〇年間オーストラリアにいました。しかし、もし十分な人と資金があつたら、二倍の働きができたでしょう。でも私は、神のご臨在の支えを感謝します。また、働きの結果、現在私たちがあの伝道地で見ることが出来るすべてのことを神に感謝します。

原稿八、一九〇四年

熱心でたゆみない活動

大都会でキャンプ・ミーティングを開かねばなりません。説教者が注意して語り、聖霊の力によって真理を伝える時、人々の心に触れることができます。心に受け入れられたキリストの愛は、間違つた愛を追い出します。キリストの生涯にあらわれた愛と慈しみが、キリストのために働く人々にあらわれます。キリストの生活の特徴であつた熱心なたゆみない活動が、彼らの生活にあらわされます。クリスチャンの品性は、キリストの品性をあらわすものとならねばなりません。

私たちは、私たち自身のものでないこと、価をもって買われたことを、決して忘れてはなりません。

私たちの力は、神より委託されたもので、神の栄と人々の幸福のために用いられねばなりません。私たちはキリストの十字架の一部です。熱心にたゆみなく、誠実に、失われる魂を求めねばなりません。

原稿六、一九〇二年

第一二章 天使たちの驚き^{*}

人々が、罪人にとって重大な意味を持つ真理を軽く考え、無頓着であること、また、人間を救うために神の子が地上で多くの苦難に耐えてくださったのにサタンと罪に捕らわれていることを、天使たちは不思議に思っています。私たちが、キリストが払われた自己否定と犠牲を考える習慣を養い、罪は増大する性質を持っていることを深く感じて罪を憎むようになりますように。

目を覚まし、イエス・キリストを通して父なる神が、すべての罪を赦す約束を忠実に実行して下さることを感謝しましょう。キリストがカルバリの十字架におつきになったのは、神のあわれみと愛の永遠の保証です。イエスの愛に頼れば、救い主なる神は私たちを愛し、罪を赦してくださいませ。この真理を悟れば、感謝しない人は一人もいないでしょう。

—

^{*} 『ノートブック・リーフレット（方法）』第一二に出ています。

何とすばらしい真理でしょうか。神は、悔い改めて神に来るすべての人を赦そうとして待っていてになるので。そのことを説教しましょう。人々がイエスを見るように、彼を高く掲げましょう。

ユダヤ人は、犠牲の捧げものに、世の救いのために血を流される救い主の姿を見ました。これらすべての捧げものはキリストの型であり、イエス・キリストの血だけがすべての罪を清めることを示すものでした。これによって、血を流すことなしには罪の赦しはないという大いなる真理が、心に植えつけられるのでした。ユダヤ人の制度において、なぜ神はこんなに多くの犠牲を望み、血を流す犠牲の捧げものを定められたのか、と不思議に思う人がいます。

死んでいく犠牲はみな、キリストの型であり、最も厳粛な聖なる儀式によって人間の心にその教訓が植えつけられたのです。そのことは祭司たちによってはっきり説明されました。犠牲は、キリストの血によってのみ罪の赦しを与えられるという重大な真理を教えるために、神ご自身が計画なさったのです。

この壮大な救いの真理は、信者や未信者の前でたびたび教えられています。しかし、これらの真理が大きな意味を持つその本人たちが、これに無関心であるのを見て、天使たちは非常に驚くのです。このすばらしい贖罪の計画の力を、教会が感じている証拠があまりにも見られません。罪を清めるイエス・キリストの血に対する信仰を通してしか、悪性の病のように人間にまわりついている罪の赦しはないという真理が、生きた実際の体験となっている人は何と少ないことでしょうか。

こうしたことが、すべての人の心の中でどれだけ深く考えられているでしょうか。キリストはご自分をあがなうためになら何の苦しみも必要ではありませんでした。罪のない、気高いご品性のお方だからこそ、罪人のための彼の苦しみは深かったのです。

手紙四三、一八九二年

気まぐれな悔い改め

「見よ、わたしは戸の外に立って、たたいている。だれでもわたしの声を聞いて戸をあけるなら、わたしはそこにはいつて彼と食を共にし、彼もまたわたしと食を共にするであろう。勝利を得る者は、わたしと共にわたしの座につかせよう。それはちようど、わたしが勝利を得てわたしの父と共にその御座についたのと同様である」(黙示録三ノ二〇、一一)。

ある人は、なぜこのメッセージがいつも聞かせられるのだろう、と言うかもしれません。それは、あなた方が完全には悔い改めていないからです。あなた方はキリストにある生活をしていません。また、キリストを心の中に住まわせていないのです。心から一つの偶像を追い出すと、サタンはその代わりに他の偶像を持ってきます。キリストに完全な献身をしていなければ、そして、キリストとの交わりを保ち、キリストをあなたの導きとしていなければ、あなたの心には悪の思いが入ってきて、神に仕える代わりに自己に仕えるようになるのです。

時々悔い改めたいと思うかもしれませんが。しかし、あなたが決定的な改革を経験し、学んだ真理

を実行し、生きて働く信仰、力が増し加わる信仰がなければ、あなたの悔い改めは朝の露のようなものになるでしょう。それは魂に永遠の救いを与えるものではありません。感情的に時々起こる悔い改めは、人の心を欺くもので、それこそ悔い改めなければならぬものです。平和を与えられる義の實を生じない感情の激しい動きは、あなたを前より悪い状態にしていまいます。

誘惑者は、毎日あなたのあとから付いて来て、あなたが自己に仕え、自己を喜ばせるように、偽りのもつともらしい言い訳を持ってきます。あなたが昔の生活に帰るように、そして、神に仕えれば希望と慰めと確信を持つことができるのですが、そうさせないように働くのです。

神は心からの奉仕を求めておられます。それはイエスの愛を感じてなされるものです。いい加減で利己的な奉仕は、決して神に喜ばれません。神は心全体を求められます。神だけを愛し、罪より救う神の力を完全に信じ、これに頼ることをお望みになるのです。……

神は、キリストの恵みを十分に受けて神の前に歩もうとしている真実で熱心な魂を尊び、支えてくださいます。主イエスは、へりくだって震えおののきつつ歩む一人の魂でも、そのままに放置なさることはありません。私たちは、神が心に働いてくださることを信じるでしょうか。神に働いていただければ、私たちは清く聖なるものとなり、その豊かな恵みによって神とともに働くことができるようになるということを、信じるでしょうか。清められた鋭い認識力で神の約束の力を正しく認め、それ自分のものとすることができるでしょうか。それは私たちに価値があるからでなく、キリストに価値

があり、また私たちが義であるからではなく、私たちのためのキリストの義を生きた信仰をもって求めることによるのです。

原稿一二五、一九〇一年

第一三章 聖霊を受けることの大切さ

ニューカースル集会の最初の安息日の夜、私は自分が聖霊を受ける必要とその重要なことを話している集会に出席しているように思われました。聖霊の働きに心を開くということ、これが私の働きの重荷でした。ある時、キリストは弟子たちに、「わたしには、あなたがたに言うべきことがまだ多くあるが、あなたがたは今それに堪えられない」と言われました。彼らの理解力が限られていたために、キリストは自由にお語りになることができず、明らかにしたいと思う真理をお語りになることができませんでした。彼らの心が閉ざされている間は、これらの真理を語られても徒勞に終わったでしょう。キリストの教訓を十分に理解するためには、聖霊を受けなければなりませんでした。キリストは、「しかし、助け主、すなわち、父が私の名によってつかわされる聖霊は、あなたがたにすべてのことを教え、またわたしが話しておいたことを、ことごとく思い起こさせるであろう」と言われました。

私の夢の中で、重要な建物の入口に、見張りが立っていました。そして、建物に入ろうとする人に

一人ひとり、「あなたは聖霊を受けましたか」と尋ねていました。彼の手には物差しがあり、その建物に入るのを許された人は、ごくわずかででした。「人間としてあなたの背丈はゼロです。しかし、あなたの持っている知識に従って、イエス・キリストにある人間として十分な背丈に達したなら、小羊の婚宴でキリストとともに座する約束を受けるでしょう。そして永遠にわたって、あなたのために用意された宴会で与えられる祝福について、学び続けるでしょう。

あなたは自我においては背が高く、均整が取れているかもしれませんが、ここに入ることはできません。大人であつても霊的に子どものような気質や習慣、特徴を持っている人は、ここに入ることができません。あなた方が疑いや批評する精神を持ち、気が短く傲慢であるなら、宴会を台無しにするので、入ることは許されないのです。この扉から入る人はみな、天の機織りで織った礼服を身につけています。他人の品性の欠点を拾い上げる習慣のある人は、家族を不幸にし、人々を真理から作り話に走らせる心のゆがみを持っていることをあらわしています。あなたの不信のパン種、確信の欠如、人を非難する力は、あなたがその扉から入ることを許さないのです。完全に信じ合っている人々の信頼を壊すことによって、その幸福を傷つける可能性のある人は、だれもこの扉の中に入ることはできません。あなたは、天の幸福な家族に加わることはできないのです。私はすべての目から涙をぬぐい去りました。あなたが神のご品性をあらわしていなければ、麗しい天の王を見ることはできません。

あなたが自分の意志と自分の知恵を捨て、キリストに学ぶなら、神の国に入ることができます。キ

リストは全的献身を求められます。あなたの生き方を捨て、リストのために心を整えてください。リストのくびきを負ってください。リストに心を捧げて、その導きに従ってください。幼子のようにならなければ、天国に入ることはできません。

リストのうちに住むというのは、リストの性質だけを選ぶことです。そうすれば、あなたの心はリストの関心と同一となります。リストのうちに住み、リストのみ心のままになり、その心のままに行動してください。これが弟子となる条件です。これに従わなければ、あなたは心に休みを得ることができません。心の休みはリストのうちにあります。リストと離れてはどこにもあり得ないのです。

彼のくびきが、あなたの首につけられた時、それはたやすくなります。リストが力を与えてくださるので、最も重い荷物でも負うことができますようになります。そして、仕事をするのが楽しみになります。次の点を注意してください。『わたしは柔和で心のへりくだった者であるから、わたしのくびきを負うて、わたしに学びなさい』（マタイーノ二九）。このように語ったのはだれでしょうか。天の神、栄光の王です。彼はあなたの霊的なことならに関する考えが、利己主義や、曲がった粗雑な同情心のないような状態から、清められることを望まれます。あなたには内的な、より高い経験が必要です。リストのうちに住んで、恵みに成長しなければなりません。あなたが悔い改める時、あなたは他人の妨げとなることなく、かえって兄弟たちを強めるでしょう。』

これらの言葉を聞いて、ある人は悲しそうな様子で去り、嘲る人々と合流しました。他の人々は心から悲しみ、目に涙して、自分たちが傷つけた人々に告白しました。彼らは自分の威厳を保とうとはせず、一步一步「わたしは救われるために、何をすべきでしょうか」（使徒行伝一六ノ三〇）と尋ねました。答えは、「あなたの罪が先立ってさばきにゆき、ぬぐい去られるために、悔い改めて本心に立ちかえりなさい」ということです。霊的な誇りを譴責する言葉が語られました。神は罪を大目に見ることはなさいません。それはみ言葉とも、私たちの信仰の告白とも両立しません。神の働き人である者はすべて主を求めましょう。見いだされる間に主を求め、近くにおられるうちに呼び求めましょう。「悪しき者はその道を捨て、正しからぬ人はその思いを捨てて、主に帰れ。そうすれば、主は彼にわれみを施される。われわれの神に帰れ、主は豊かにゆるしを与えられる」（イザヤ五五ノ七）。

これらの原則を安息日の集会でお話した時、この弱い器を通して主が語られた、とみなが感じたようでした。

『レビユー・アンド・ヘラルド』一八九九年四月一日

主が私たちのために大いなることをしてくださるのを期待すべき時が来ました。私たちの働きは、揺らいだり、弱くなったりすべきではありません。私たちは、恵みと主を知る知識に成長すべきです。働きが終わり、神の民の封印が終わる前に、聖霊の降下が与えられます。天よりのみ使いは、私たちのまっただ中に立ちます。今は私たちがすべての神の戒めに完全に服従して、天にふさわしくなるべ

き
時
で
す。
。

手
紙
三
〇
、
一
九
〇
七
年

第一四章 あらゆる場所^{*}で

キリストはこの世界に遣わされた偉大な医事伝道者でした。彼は真理の種をこの世界にまく働きにおいて、彼と協力するボランティアを求めておられます。神の働き人は、彼らが近づくことのできるすべての場所に真理の旗を立てるべきです。世界は回復を必要としています。世界は悪の中にあり、最も危険な状態にあります。キリストなしで生活している人々への働きを、もっと広げ、拡張する必要があります。神はご自分の民に、神のために一生懸命働くように求めておられます。そうすればキリスト教の活動は、効率よく広がっていくのです。神の国は広がらねばなりません。神の記念碑が、アメリカにも諸外国にも立てられなければなりません。

現代の真理と結合した健康改革の働きは、非常に効果的です。それは福音の右の手であって、しば

—
^{*}『ノートブック・リーフレット（クリスチャンの経験）』第八に出ている。

しば福音が入っていく道を開きます。ただし、堅実な方法で、組織についての神の計画と完全に調和して進める必要があります。教会が組織され、どの教会も医事伝道と関係を持たなければなりません。また医事伝道の働きは、福音の働きと離れてはなりません。これがお互いに離れると、両方とも一方的になって、どちらも不完全なものになります。

この時代に対する働きは、すべての働きの中で最も重要であることを、クリスチャンに印象づけなければなりません。それは主のぶどう園を耕すことです。このぶどう園には、すべての人に働く場所があります。それは、主が割り当ててくださるものです。各自の成功は、かしらである神と個人的にいかなる関係を持っているかによって決まります。

主イエスの恵みと愛、そして地上の教会に対するやさしい関係が、み事業の成長によってあらわされなければなりません。真理と義に対する天の原則は、キリストに従う者の生活の中にますますはつきりとあらわれなければなりません。ペンテコステの聖霊の降下以後の教会に見られたよりさらに大きな無我と無欲の精神が、事務的な取り引きの中にも示されなければなりません。救い主イエス・キリストが天の雲に乗り、力と大いなる栄光をもって再臨なさることを待ち望み、そのために働き祈っている人々には、利己的・世俗的な独占欲が少しでもあってはなりません。

神の民として私たちは、主の来臨に対する備えができていません。私たちがこの地上への心の窓を閉じ、天への窓を開くならば、すべての伝道機関はこの世の中で明るく輝くでしょう。すべての教会

員が、この時代に与えられた、人の心を高め、尊くする大いなる真理を実際に生活するならば、明るく輝く光となるでしょう。神の民は、聖霊の与える能率をもつて働かなければ、神を喜ばせることはできません。互いに純潔で真実であるならば、その言葉や愛情、性質によつて、彼らは自分たちがキリストと一つであることを示すでしょう。彼らは、この世のしるし、不思議となり、働きのすべての方面を合理的に前進させます。働きの各方面に調和を保ち、よく調整された機械のように動いていくのです。その時、キリストの救いの喜びが理解されます。そして、伝道すべき真理の光を与えられているにもかかわらず、互いの交わりにおいて真理の原則をあらわしていなかった人、また神の栄をあらわすような方法で主の業をなしていなかった人々によつて、今日行われているようなことは、全くなりません。……

キリストは死人の中より甦られたのち、「私はよみがえりであり、生命である」と宣言されました。甦られた救い主キリストが、私たちの命なのです。キリストが心の命となれると、その変化が感じられますが、言葉であらわすことはできません。キリストの品性の香りがなければ、知識も感化も力も価値はありません。血液が体の命であるように、キリストが心の命なのです。……

すべての利己的なことから清められる

神の働きに携わっている人は、すべて利己主義から清められなければなりません。すべてのことは、

「あなたのすることはすべて」(コロサイ三ノ一七)「神の栄光のためにすべきである」(コリント第一・一〇ノ三一)という勧めに従うべきです。正義と平和の神の律法は、隣人や兄弟の間の取り引きにおいても、厳格に守られなければなりません。私たちは神ご自身にならって、完全な秩序と義を求むべきです。これらのことが行われて初めて、私たちの働きは審判のテストに堪えるのです。……

キリスト教とは、互いに最も優しい愛情をあらわすことです。クリスチャンの生活は、クリスチャンの義務と特権によって成り立っています。キリストはその知恵のうちに、初期のご自分の民に犠牲と捧げものの制度を与えました。彼ご自身がその土台であり、またそれらは彼の死をあらかじめ示すものでした。すべての犠牲は、世の始めより殺された小羊であるキリストを指し示していました。それはすべての人が、罪の価は死であることを理解するためでした。彼に罪はありませんでした。しかし、私たちの罪のために、彼は死なれたのでした。

儀式による象徴的な制度には一つの目的がありました。それは神の律法を理解し、キリストを信じるすべての者が、「神の子を信じる信仰の一致と彼を知る知識の一致とに到達し、全き人となり、ついに、キリストの満ちみちた徳の高さにまで至るためである」(エペソ四ノ一三)。クリスチャンの働きの中には、神がお与えになったすべての賜物を働かせる十分な余地があります。すべての人が神のご要求を実行し、愛によって働き、魂を清める信仰を一步ごとにあらわしていくべきです。

キリストは、被造物から最高の愛をお受けになるべきです。そしてキリストは、人がその同胞に対

して、神が持つておられるような思いやりを持つことを求められます。救われる魂はすべて、神より出た愛によって救われるのです。真の悔い改めとは、利己主義から、神と人間に対する神より来た愛情を持つように変化することです。今日、セブンスデー・アドベンチストは、罪にけがれた心を利己主義という悪性の病気から清める、完全な改革を起こすべきではないでしょうか。

私はすべての人に真理を語らなければなりません。神の言葉から光を受けた人は、神が彼らの罪を処理してくださるという感動を決して忘れることはありません。神の言葉は、律法を犯すことが罪であると定義しています。

原稿一六、一九〇一年

困難な場所

神の兵士たちはしばしば、理由もわからずに困難な場所に置かれることがあります。しかし、困難があるからといって、くじける必要はありません。暗黒の中で先が見通せないからといって、信仰が弱まっていいでしょうか。そんなことがあってはなりません。彼らは働きをする時、助けにくださる神の力をいつも感じていなくてはなりません。神の導きに従い、神の律法を掲げるように努力すれば、絶対に滅びることはありませんし、道に迷うこともないのです。

日付のない原稿一四五

第一五章 教会が目を覚ます時^{*}

家庭生活、教会生活、宣教の生活に祈りが必要です。熱心な祈りの効力をよく知っている人はあまりいません。教会が忠実に祈れば、多くのことにおける無気力から救われるでしょう。神を熱心に求めれば、豊かに報いられるからです。

教会が聖なる召命感に目覚めれば、もっと多くの熱心で有効な祈りが天に昇り、聖霊が魂の救いに関して神の民の働きと義務を示してください。神は求めるすべての魂に近づいてくださる、という不変の約束があるのです。

神は、「イエス・キリストを、死人の中からよみがえらせ」、それによって「朽ちず汚れず、しばむことのない資産を受け継ぐ者として下さった」（ペテロ第一・一ノ三、四）のですから、教会は生き生

—
^{*}『ノートブック・リーフレット（クリスチャンの経験）』第一六に出ている。

きした希望に甦らなければなりません。今日の世界で何をなすべきかがわかった時、教会員は、神を知らない人、霊的に無知で現代の真理がわからない人のために骨折って働くでしょう。克己、自己犠牲が、私たちのすべての経験に織り込まれるべきです。私たちは、生活に矛盾がないように目を覚まして祈るべきです。目を覚まして祈るということは、祈りが答えられるように神の前に私たちの祈りを生活することです。このことを私たちが理解しているということ、人々に示さなければなりません。

教会員が恵みのみ座からの助けを求め、滅亡の淵に立っている人々を救う大いなる働きに協力しているならば、教会が後退することはありません。積極的な活動をしている教会員は、キリストのくびきを負い、キリストとともにいることを実感できます。

この宇宙は、神がその民と交わり、彼らを通して世の人と交わることができる清められた通路を求めています。神は聖別された、自己を否定する教会を通して働かれます。特に今日、牧師や信徒を惑わそうとしてサタンが巧みな方法で働いている時、神は聖霊を目に見える栄光ある方法であらわしてください。もし牧師が神と協力するならば、神は昔弟子たちとともにおいでになった時のように、著しい方法で彼らとともにいてくださいます。

教会はその責任に目覚めないのでしょうか。神は、己を捨て、自己を犠牲にして献身する人々に、今までにない最大の宣教の霊を与えようと待っていてになるのです。神の民がこの霊を受けた時、

彼らから力が出て行きます。

原稿五九、一八九八年

受け身の徳

主は、受け身の徳を働かせる必要のある状況をお許しになります。この徳は、たとえば什一や諸献金において神ご自身のものをお返ししようとする時に、純潔と効率を増すものです。試練を経験するとはどんなことか、ある程度わかりだと思えます。試練は、あなたが単純な信仰で神に信頼し、神に頼るようになるために、熱心な祈りを捧げる機会、神を求める機会を与えます。私たちの徳が試され、信仰が試みられるのは、苦しみによつてです。イエスの尊さを感じるのは悩みの日においてです。「神が私を殺しても、私は神を待ち望み」（新改訳・ヨブ一三ノ一五）という機会が与えられるのです。危険に直面した時、悲しみ、病、死に出会った時に、信仰を告白する機会が与えられたと考えることはとても大切です。……

私たちにとって、すべては神の条件をどう受け取るかにかかっています。私たちの生き方は、心と同じように、将来の生活と品性に影響を及ぼします。すべての人は、勝利しなければなりません。自分で思うように何でもすることはできません。私たちはキリストがその生涯と教訓を通して教えてください。くださった一つ一つを忠実に守るべきです。キリストは滅ぼすのではなく、触れるすべてのものをよくしてくださいなのです。

手紙一三五、一八九七年

謙遜と信仰

この時代の働きにおいて最も必要なのは、金銭やタレント、学識や雄弁ではなく、謙遜な信仰です。進んで主のために労苦と犠牲を捧げ、非難に耐える働き人によって、信仰と謙遜のうちに語られる真理は、いかなる反対にも勝利します。私たちの働きを成功させようと思うならば、キリストとともに働く者とならねばなりません。自分のために泣かない人々のために泣かれたキリストのように、私たちも泣き、自分のために求めない人のためにキリストが求められたように、私たちも求めてあげなければなりません。

原稿二四、一九〇三年

急速な働き

神の力が人の力に加わる時、働きはわら束につけた火のように広がっていきます。神は、人間にはその源のわからない力を、用いられます。人間が神のご要求に答えていけば、天使たちが働き、私たちは完結の祝福を持つことができたはずでした。

『レビュー・アンド・ヘラルド』一八八五年十二月一日

第三部

リバイバルと改革

序 文

リバイバルと改革についてエレン・G・ホワイトの最も際だった訴えの一つは、「教会の必要」と題して一八八七年三月二二日号の『レビユー・アンド・ヘラルド』に掲載されました。この記事は、A・G・ダニエルス長老が資料を編集した『我らの義、キリスト』の中に多く引用されています。最初の印刷（一九二六年と一九三七年）では全文が補遺に引用されました。後の版（一九四一年版以降）では、物理的な理由でこの文は補遺には含まれず、本文の中にその抜粋が載せられています。多くの人が求めていたその全文が、この心動かす第三部の最初に収録されています。

一つのリバイバルの直後に起こった、新しい魂を求めての義と悪との激しい戦いが、このセクションには如実に描かれています。バトル・クリーク・カレッジの大リバイバルとその後数か月間に起きたできごとという背景の中で、エレン・G・ホワイトはこの重要な問題を取り扱っています。同じような戦いは、教会のどのリバイバルの働きにも常に起こるものです。

このセクションは、エレン・G・ホワイト自身が出席した多くのリバイバル集会での、会衆の応答の中のいろいろな経験を述べて終わっています。この記事は、彼女が救霊に関する教えをその働きにいかに取り入れたかを示す助けとなります。この救霊に関する彼女の勧告は、福音の働きに携わるものにとって特に有益なものです。ホワイト夫人によって書かれたこれらの経験の多くは、彼女の日記に簡潔な日記体で記されています。彼女が一般に訴えるために書いた、絵を見るような生き生きとした文章は、バトル・クリークにおける最初の時代に始まり、ヨーロッパ、オーストラリアを経て、アメリカへ帰るまで続いています。重複する内容も若干ありますが、それぞれの項目にその価値を認めていただける特別な興味が含まれています。

エレン・G・ホワイト著書管理委員会

第一六章 リバイバルへの召し

教会の大きな必要^{*}

真の敬虔が私たちのうちに回復^{リバイバル}されることは、すべての必要の中で最大の、最も急を要するものです。これを求めることが、私たちの第一にしなければならないことです。主の祝福を受けるために熱心な努力が必要です。それは、神が祝福を喜んでお与えにならないからではなく、私たちにそれを受け取る備えができていないからです。天の父は、求める者に聖霊を与えようとして待つておいでにな

—

^{*}『我らの義、キリスト』の初版の補遺に書かれているが、物理的理由から組み直された第二版からは除外されたもの。

編者

ります。それは、地上の両親が子どもによいものを与えようとしているのと同じです。しかし、罪を告白し、自尊心を取り去り、悔い改めと熱心な祈りによって神が祝福を与えてくださるお約束の条件を満たすのは、私たちがしなければならいことです。リバイバルは、祈りの応答としてのみ期待できるものです。神の聖霊のない状態では、み言葉を聞いても心に深く受けとめることができません。しかし、み霊の力が心に触れると、語られた説教は影響を及ぼさないではおきません。聖霊の働きを伴った神の言葉に導かれ、健全な思慮をもって私たちの集会に出席した人々は、尊い経験を与えられ、家に帰る時には、ほかの人に健全な影響を与える準備ができるのです。

古くから伝えられた真理の標準を維持した人々は、祈りの中で神と相撲をとることを知っていました。また、聖霊の降下を受けることを知っていました。しかし、これらの人々は活動の舞台を去りつつあります。だれが彼らのあとを継ぐのでしょうか。次世代の青年たちはどうでしょうか。彼らは神の前に悔い改めているのでしょうか。私たちは天の聖所で行われていることに対して目を覚ましているでしょうか。あるいは、目を覚ます前に、何かの強制的な力が教会に及ぶのを待っているのでしょうか。私たちは全教会がリバイバルを経験するのを望んでいるのでしょうか。そのような時は、決して来ることはないのです。

教会の中には悔い改めていない人たちがいます。熱心で力強い祈りに加わらない人たちがいます。私たちは個人個人でなすべきことをしなければならないのです。祈ることをもっと多くし、語ること

をもっと少なくしましょう。罪は増えています。敬虔のかたちだけで霊と力がない状態で満足しないよう、教えねばなりません。私たち自身の心を熱心に探り、罪を除き、悪の傾向を正すならば、心はうぬばれにふくらむことなく、自己に頼らず、私たちの満足は神にあることを常に意識するようになります。

私たちは外側のことより、内側のことをはるかに恐れるべきです。力と成功を妨げるものは、この世よりも教会の中にあることの方がはるかに多いのです。神の戒めを守り、イエスの証を保つと告白する人々が、矛盾のない生活をし、敬虔な模範と活動的な影響力によってみ事業をほかの人々にまさって前進させ、尊ぶことを、未信者たちが期待するのは当然です。しかし、真理を擁護するという人々が、いかにしばしばその前進の妨げになっていることでしょう。不信に身を任せ、疑惑を語り、暗黒の中にいることは、悪天使を呼び寄せ、サタンの手だてを成功させる道を開いてしまいます。

敵に扉を開く

魂の敵は、人の心の思いを読むことを許されていませんが、鋭い観察によってその言葉をマークし、行動を調べ、自分を彼の力の範囲内に置く人々のそれぞれの状態に合わせて、巧みに誘惑します。もし罪の思いや感情をおさえるように努力し、言葉や行為にあらわさないようにするなら、サタンは敗北します。彼はその場に適当な特別な誘惑を持つてくることができないからです。

しかしクリスチャンと言っている人々が、自分をおさえることができないで、どんなにしばしば魂の敵に心の扉を開いてしまうことでしょう。この世の集団でも恥ずかしいような分離や苦い不和が、教会にしばしば見られます。それは、悪感情やサタンが利用するような言葉をおさえる努力が、あまりにも少ないからです。感情の行き違いが起こるや否や、サタンはそれに目をつけ、蛇のような知恵と熟練によって教会を分裂させ、破壊してしまうのです。不和は大きな損失です。両方の親しい友達がそれぞれの味方となり、分裂は広がります。分かれ、争う家は、立つことができません。互いに非難し合って、それが倍加されていきます。このようにしてまかれた種から収穫を得ようと、サタンとその使いたちは懸命に働くのです。

世の人々はこれを見て嘲笑し、「このクリスチャンたちが憎み合っているのを見てごらん。これが宗教なら、私たちには不必要だ」と言います。そして彼らは、自分たちを見、自分たちの無宗教に満足してしまうのです。このようにして、彼らは回心しないままになり、サタンはその成功を喜ぶのです。

偽り者であるサタンは、試みに対する備えをしておらず、たえざる祈りと生きた信仰によって守られていないすべての魂に、策略を準備しています。牧師として、クリスチャンとして、私たちはつまずきの石を取り除くために働かねばなりません。すべての障害を取り去り、罪を告白し、悔い改め、主が私たちの集まりに來られて、豊かな恵みを与えてくださるようにならなう。この世的なこ

と、肉につけること、そしてサタンに、打ち勝たねばなりません。

神の敵である世と友となることによって、私たちは主の道を備えることはできません。しかし神の助けによつて、私たちは、私たち自身やほかの人に対する誘惑となる世の影響を打ち破ることができるのです。私たちは個人的にも、集団としても、敵の容赦ない決定的な絶え間ない誘惑から自分を守ることはできませんが、イエスの力を受けることによって、誘惑に抵抗することができるようです。

すべての教会員から世の人々の前にいつも光が輝き、この人たちは他の人たちと変わらないではないか」と言われることのないようにすることができるようです。世に迎合せず、悪のすべてのあらわれを捨て、反対者に批判される余地をあたえないようにすることができ、またそうしなければなりません。非難を避けることはできません。それは必ずきます。しかし私たちは、キリストのためではなく私たち自身の罪や愚かな行いによつて非難されないように、十分注意する必要があります。

主が、弱っている教会と悔い改めていない教会員に聖霊を注ぐことがおできになるように、神の民がすべての妨げを取り除くことをサタンは最も恐れています。もし、サタンが自分の思う通りにできるなら、世の終わりまで大小いかなる覚醒ももう決して起こることはないでしょう。しかし、私たちは彼の策略を知っています。サタンの力に抵抗することができるようです。神のみ霊のための道が開かれれば、祝福が来ます。サタンは、天の窓を閉じて雨が地上に降るのを妨げることはできません。それと同じく、神の民に下る祝福の雨を妨げることもできないのです。神の民が服従し、悔い改めた心

で罪を告白し、それを取り除き、信仰をもって神の約束を求めるならば、悪人も悪霊も、神のみ業を妨げることはできませんし、神の民の集まりから神の臨在を取り去ることもできないからです。どんな誘惑であろうと、神に敵対する影響力であろうと、それがあらわれていても、隠れていても、神の民は打ち勝つことができます。それは、「権勢によらず、能力によらず、わたしの霊による」（ゼカリヤ四ノ六）からです。

私たちはあがないの日にいる

私たちは、罪が告白と悔い改めによつて先立って裁きの座に行く、大いなるあがないの日にあります。神は、神に仕える牧師たちの無気力な、精彩のない証をお受け入れになりません。このような証は、現代の真理ではないのです。この時代のメッセージは、神の教会を養う、時にかなった食物でなければなりません。しかしサタンは、このメッセージから力を奪い、人々が主の日に立つ備えができないようにさせています。

一八四四年に私たちの大祭司は天の至聖所に入られ、調査審判の働きを始められました。死んだ義人の裁きが神の前に取り上げられています。その働きが終わると、生きている者に審判が宣告されます。この厳粛な時は、本当にかげがえのない重要な時です。私たち一人ひとりが、天の法廷における決定を待っているのです。私たち一人ひとりが、この世で行ったことに従って裁かれます。地上の至

聖所で大祭司が贖罪の業を行っていた犠牲制度において、人々は罪があがなわれて消し去られるために、それを告白し神の前に身を悩ますことを求められました。キリストが天の聖所において、その民のためにとりなしておられる今日はあがないの日の実体であって、最終的な、変更できない決定が宣告されようとしているのです。今は、昔のあがないの日以上のことが、私たちに要求されているのではないのでしょうか。

この恐るべき厳粛な時に、私たちはどんな状態でしょうか。誇りが教会に満ち、偽善や欺き、衣服への愛、軽薄、享楽、優越を求める心が、教会内にいきわたっているのではないのでしょうか。これらすべての罪が、心を曇らせ、永遠のものを見えなくさせています。聖書を調べて、私たちが世界歴史のどこにいるかを知みましょう。この時代に、私たちのためになされていることをよく理解し、あがないの業が進められている時に私たち罪人の置かれている立場を、よく理解するようにしましょう。もし私たちが、自分たちの魂の救いについて少しでも関心があるなら、私たちは決定的に変わる必要があります。真に悔い改めて主を求め、深い悔悟の念をもって罪を告白し、それが消し去られるようにしなければならぬのです。

私たちはもはやサタンに惑わされたような状態にとどまってはなりません。私たちは恵みの時の終わりに急速に近づいています。神の前に自分がどんな状態であるか、だれもが問うてみなければなりません。いつキリストが私たちの名前を呼ばれるか、そしていつ私たちの裁きが最終的に決定さ

れるか、私たちにはわかりません。どんな決定になるのでしょうか。私たちは義人とともに数えられるのでしょうか。それとも悪人とともに数えられるのでしょうか。

教会は立ち上がって悔い改めねばならない

教会は立ち上がって、神の前にその墮落を悔い改めねばなりません。見張りは目を覚まし、ラッパに正しい音を与えてください。私たちが宣べ伝えるべきは、断固たる警告です。神は僕たちに、「大いに呼ばわって声を惜しむな。あなたの声をラッパのようにあげ、わが民にそのとがを告げ、ヤコブの家にその罪を告げ示せヘイザヤ五八ノ一」と命じておられます。人々の注目を勝ち得ねばなりません。これがなされないと、すべての努力は無効になります。天からみ使いが降りてきて彼らに語っても、その言葉は冷たい死人の耳に語っているように、何の役にも立たないでしょう。

教会は活動を始めねばなりません。教会が道を備えなければ、神のみ霊は決して下りません。心を熱心に探る必要があります。心を一つにしてたゆみなく祈り、信仰をもつて神の約束を求めるべきです。昔のように身に麻布をまとうのではなく、魂の深いへりくだりがなければなりません。自己満足や自己高揚の何の理由も私たちにはありません。神の力強いみ手のもとに、謙遜になるべきです。真に求める者に神はあらわれて、慰め、祝福してください。

私たちの前には働きがあります。私たちはそれをしていくのでしょうか。私たちは速やかに働き、常

に前進しなければなりません。主の大いなる日の備えをしなければなりません。一刻も失うことはできませんし、利己的な目的のために時を費やすことはできません。私たちはこの世界に警告を与えねばならないのです。個々人として私たちは、ほかの人々に光を与えるために何をしていますでしょうか。神はすべての人にそれぞれの働きをお与えになりました。すべての人になすべき分があり、これをおろそかにすれば私たちの魂も危険に陥ります。

兄弟方、あなた方は聖霊を悲しませ、去らせるでしょうか。救い主に臨在していただく準備ができていないために、救い主を閉め出すのでしょうか。自分の安逸をむさぼり、イエスがあなたのために負われた重荷を拒み、真理の知識がないために滅びる魂をそのままにしておくのでしょうか。眠りから覚めましょう。「身を慎み、目をさましていなさい。あなたがたの敵である悪魔が、ほえたけるしのように、食いつくすべきものを求めて歩き回っている」(ペテロ第一・五ノ八)。

『レビュー・アンド・ヘラルド』一八八七年三月二二日

リバイバルには改革が伴う

多くの心に、霊的生命の息吹はほとんどないように見えます。このことを考えると悲しくなります。この世や肉なるもの、そして悪魔に対する積極的な戦いは、継続されていないように感じられるので

す。私たちは、死にかけているようなキリスト教の信仰で、この世の利己的でどん欲な精神を謳歌し、その不信仰にあずかり、虚偽を受け入れるのでしょうか。否、神の恵みによって、真理の原則に固く立ち、初めの確信を終わりまで持ち続けましょう。私たちは、「熱心で、うむことなく、霊に燃え、主に仕え」（ローマ二ノ一）なければなりません。キリストが私たちの主です。キリストを見つめて歩み、彼から知恵を得ましょう。その恵みによって、誠実さを保ち、神の前に柔和と悔い改めをもって立ち、キリストを世にあらわすべきです。

私たちの教会では説教が非常に求められています。教会員は聖霊に頼るより、講壇からの雄弁に頼っています。彼らに与えられた霊の賜物は、求められず用いられないため、だんだん衰え、弱くなってきました。もし牧師が新しい伝道地に行き、教会員があとの責任を負わなければなくなると、彼らの能力は用いることによって増していくはずです。

神は牧師と信徒に、霊的弱さについて次のように厳しく責めておられます。「わたしはあなたのわざを知っている。あなたは冷たくもなく、熱くもない。むしろ、冷たいか熱いかであってほしい。このように、熱くもなく、冷たくもなく、なまぬるいので、あなたを口から吐き出そう。あなたは、自分は富んでいる、豊かになった、なんの不自由もないと言っているが、実は、あなた自身がみじめな者、あわれむべき者、貧しい者、目の見えない者、裸な者であることに気がついていない。そこで、あなたに勧める。富む者となるために、わたしから火で精錬された金を買い、また、あなたの裸の恥をさ

らさないため身に着けるように、白い衣を買いなさい。また、見えるようになるため、目にぬる目薬を買いなさい」（黙示録三ノ一五―一八）。神は靈的リバイバルと靈的改革を求めておられます。これが起こらなければ、なまぬるい人は、主にますます嫌われるようになります、ついに主は彼らを神の子とはお認めにならなくなります。

リバイバルと改革が、聖霊の働きのもとに起こらねばなりません。リバイバルと改革は二つの違ったことがらです。リバイバルは靈的生命が新たにされ、精神と心の力が活性化され、靈的死より復活することです。改革は再組織、立て直しを意味し、考えや意見、習慣や行動に起こる変化です。改革は聖霊のリバイバルと結びつかなければ、よい義の実をむすぶことはできません。リバイバルと改革にはそれぞれ与えられた分野があります。そして、その働きをするために二つのものは、溶け合わねばなりません。

『レビュー・アンド・ヘラルド』一九〇二年二月二五日

単純な器が用いられる

主はいろいろな手段と方法を用いてご自分の計画を実行なさるということが、私に示されました。主が救霊という壮大で聖なる事業にお用いになるのは、最もタレントのある人や重い責任の地位にある人、この世の考えで最も高い教育を受けている人々だけではありません。神は単純な方法をお用いになります。み事業を進める助けとして、たいして有利であると思われないような多くの人々をお用

いになるのです。神は単純な方法によつて、財産や土地を持っている人々を真理を信じる信仰へと導き、そして彼らはみ事業進展の助け手となるのです。

手紙六二、一九〇九年

第一七章 新しい経験を大事にする

リバイバルに続いて起きた戦い

「一八九三年にバトルクリークの本部にあった機関で起きた著しいリバイバルは、神のみ霊の働きの大きな証拠でした。しかしその祝福の多くは、そのあと続いて起こったできごとによって失われました。この経験とそれに関連して与えられた証の中に、今日でも価値のある教訓が見いだされます。

編者」

バトルクリークにおいて起きた聖霊降下のあと、大きな霊的光が与えられる時はまた霊的暗黒の時でもあるということが、大学において明らかになりました。眠っていた力が生き返らせれ目覚めさせ

られたのは、その恵みを他に与えるために決定的な働きがなされるためでした。しかしサタンとその軍勢は、恵みの雨の効果を無効にするため、その場で一人ひとりの心に激しく働きました。その時、光を与えられた多くの魂が、神が与えられたものをただちにほかの人たちに分け与えていたら、さらに多くの光と力が与えられたはずでした。神は、ただ一人のために光をお与えになるのではなく、その光を他に伝えて神の栄光があらわされるために与えられるのです。その影響は広がるのです。

各時代において靈的リバイバルと聖霊降下のあとに、靈的暗黒が続き、腐敗が広がりました。バトルクリークにおいて神がなさった機会と特権と祝福を考えて、教会はその働きを十分に前進させるべきでしたが、そうしませんでした。そのために、教会が前進してさらに多くの光を輝かせ、神がみ言葉の中に指示された光を働かせるようになるまでは、神の祝福は教会に注がれないでしょう。はつきりと輝き出るはずの光が、道德的暗黒の中では暗くなります。神の真理の積極的な力は、敬虔と熱心と他人のために光を得ようとする人間の無我の努力があつてこそ、与えられるものなのです。

原稿四五、一八九三年

み霊の働きと狂信とを混同する危険

この前の会議（一八九三年）の時と、大学においての神のみ霊の働きについて、私宛ての文書を受

けとりました。それには、これらの祝福に従って生活しなかったために心が混乱したこと、天よりの光であったものが一時の興奮とされたことが書かれていました。このように考えられたことについて、私は悲しくなりました。聖霊の働きを狂信の類と言って神のみ霊を悲しませることは、よほど注意しなくてはなりません。明確に、間違いのないように書かれていないと、バトル・クリークだけでなく、多くの場所において神のみ霊の働きをいかに理解していいかわからなくなります。

ある人々が、その結果を見て混乱したのは不思議ではありません。しかし、私の過去四九年間の経験で、これに類することを多く見てきました。そして私は、神が著しい方法で働かれたことを知っています。これは神のみ霊ではない、とだれも言うてはなりません。それは私たちが信じることを許され、そのために祈ることを許されている事柄です。なぜなら、神は聖霊を求める者に、人の親がよい賜物をわが子に与える以上に、喜んで聖霊を与えようとしておいでになるからです。しかし、聖霊は人間が用いるものではなく、聖霊が人間に働き、これをお用いになるのです。神が学校や教会の学生たちを豊かに祝福なさったことを、私は少しも疑いません。しかし、大いなる光と聖霊の降下が与えられた後、たいていの場合大きな暗黒が来ます。なぜでしょうか。それは敵が全力を尽くして惑わし、人間の心に働く神のみ霊の深い感動の効果をなくそうとするからです。

学生たちが試合やフットボールに参加したり、娯楽に夢中になったりすると、悪魔が入ってきて人間に影響を与え、神の聖霊の効果を無効にするよい機会としてしまいます。教師たちがその義務を果

たし、その責任を自覚し、道徳的に神の前に固く立ち、真理を愛し、み霊に清められ、神がお許しになった能力を用いていたならば、霊的な力と神からの啓発を受けて、天を目指して前進する階段を上へ向かって進み続けていたでしょう。しかし実際には、彼らは光を喜ばず、光の中を歩まず、この世の光に従ったのでした。

おしゃべりをしたり遊んだりして、み霊の感化を無効にすることはたやすいことです。光の中を歩むとは、光の方向に前進し続けることです。祝福を受けても、これをおろそかにし、不注意となり、目を覚まして祈らず、また十字架を掲げてキリストのくびきを負うことをせず、世の楽しみや人に勝ろうとする気持ちが彼の力と能力を支配してしまっていれば、万事において神がすべてではなくなります。するとサタンが来て、その魂を求めて、人生のゲームにおける自分の役割を果たすのです。サタンは彼らより熱心に遊ぶことができ、魂を破滅に導くための深く考えた計画を行うことができるのです。……

バトル・クリークにおけるみ霊の働きの結果は、狂信のためではなく、祝福を受けた人々が、暗黒の中から驚くべき光の中に呼び出してくださった方への賛美をあらわさなかったからです。地上が神の栄光に照らされる時、ある人々はそれが何か、またどこから来たのかわかりません。それは彼らを照らしているみ霊を間違つて捉え、誤解しているからです。神は、ご自身の栄光を大切にされます。神は、神を尊ばない人々を尊ばれません。光の中にいる人々は、経験の少ない人々が、光を受けたあ

と、光の中を歩くように教えねばなりません。私は時間があつたらもつと書きたいのですが、今は時間がありません。

手紙五八、一八九三年

祝福を失うやさしい方法

最近、私の心に強く考えさせられることがあり、神のみ霊がそれについて書くように私に迫つておられるのを感じます^{*}。主はあなたに恵みを与え、天の窓を開いて祝福を与えてくださいました。今こそ、増し加えられた光に応じて働き、その尊い光を人々に送ることによって、神の尊い恵みを保つことを教師や学生に教えるべき時です。天の光が与えられたのです。それが与えられた目的は何でしょうか。与えられた光は、義の実際的な行為となつて輝き出るはずです。豊かに祝福された人々が、より深い熱心な信仰を持ち、神の小羊の尊い血によってあがなわれたことを意識し、救いの衣をまとう時、彼らはキリストをあらわしているのです。

ゲームをやり、報酬を求め、ボクシングのグラブを用いるのはサタンの性質を身につけるサタンの教育訓練ではありませんか。私に示されたように、カルバリの人キリストが、彼らを見て悲しんで

—
*バトル・クリーク大学の学長に宛てたもの。

おられるのを見たら、彼らはどう思うでしょうか。事態は確かに悪いかたちとなり、恵みによって与えられた神の力の働きに対抗しています。すべての真のクリスチャンの働きは、キリストをあらわし、光を反射し、道德の標準を高くし、神に献身した言葉と感化によって、不注意で無関心な人々に神や永遠について考えさせることです。この世は、永遠のことを考えないことを好みます。しかし、実際生活においてキリストをあらわしている人が存在する限り、彼らは永遠のことを忘れて過ごすことはできないのです。

すべての信者は、魂とイエス・キリストをつなぐ黄金のくさりで結ばれ、暗黒の中にいる人々に光を伝える通路となっています。もしキリストとのつながりを失えば、サタンはその機会をつかんで、言葉や感情や行動でキリストを辱めるように導きます。こうしてキリストの品性が誤解されるのです。イエス・キリストの宗教は、過度の娯楽にふけると正しく理解することができなくなります。主がバトル・クリークに豊かな恵みを与えられた時、責任の地位にある人の中で、ゲームによる興奮や感情の代わりに、勉強の気分転換になる有用な仕事を与えるような指導をすることができ人はなかったのでしょうか。そうすれば、与えられた賜物を向上させることができたはずです。今やっている種類の気晴らしは、彼らが間もなく出会う試験に対しての準備をするために、理性や感情や態度を向上させるものではありません。宗教といわれている表面だけの敬虔さは、炉の中で試みられるとき、燃え尽きてしまうのです。

主は、教師たちが自分の模範の影響について考えることを求めておられます。彼らはもっと祈るべきです。また、整えられた生活と敬虔な態度から出る確信、生きた、はっきりしたキリストの教えから出る確信は、心の畑を整え、まかれる種がよい実を結ぶ準備となり、その翼に癒しを備えて昇る義の太陽のための準備となるということを、よく考えるべきです。あなたの義を人々の前に輝かせ、人々があなたがたのよいおこないを見て、天にいますあなたがたの父をあがめるようにしなさい」(マタイ五ノ一六)。「あなたがたは、地の塩である。もし塩のききめがなくなったら、何によってその味を取りもどされようか、もはや、なんの役にも立たず、ただ外に捨てられて、人々にふみつけられるだけである」(マタイ五ノ一三)と、キリストは弟子たちに言われました。教会はこの世を照らします。それは信仰の告白によってではなく、真理が生活と品性に及ぼす改変力、清める力のあらわれによつてです。……

来るべき闘争のしるしがあまりにも満ちているこの時代に、青年をただおもしろいことやゲームで教育することはできません。

手紙四六、一八九三年

光が闇となる危険

ありがたいことに、主はあなた方に聖霊を賜ってくださいました。キャンプ・ミーティングや私た

ちのさまざまな伝道機関で、大きな祝福があなた方に与えられました。光と真理と力を持った天のみ使いたちの訪問をあなた方は受けたのです。神がこのようにあなたを祝福してくださったのは、不思議なことではありません。キリストはお選びになった民を、どのようにしてご自分の支配のもとにおいてくださるのでしょうか。それは聖霊の力によるのです。なぜなら聖霊は、聖書を通して人の心に語りかけ、真理を心に刻みつけてくださるからです。十字架におつきになる前に、キリストは弟子たちに助け主を送る約束をお与えになりました。キリストは、「わたしが去って行くことは、あなたがたの益になるのだ。わたしが去って行かなければ、あなたがたのところに助け主はこないであろう。もし行けば、それをあなたがたにつかわそう。それがきたら、罪と義とさばきとについて、世の人の目を開くであろう。……けれども真理の御霊が来る時には、あなたがたをあらゆる真理に導いてくれるであろう。それは自分から語るのではなく、その聞くところを語り、きたるべき事をあなたがたに知らせるであろう。御霊はわたしに栄光を得させるであろう。わたしのものを受けて、それをあなたがたに知らせるからである。父がお持ちになっっているものはみな、わたしのものである。御霊はわたしのものを受けて、それをあなたがたに知らせるのだと、わたしが言ったのは、そのためである」(ヨハネ一六ノ七、八、一三―一五)。

キリストのこのお約束は十分に理解されず、神のみ霊の欠乏から律法の靈的性質やそれが永久に有効であることが理解されていません。キリストを愛すると告白する人も、神と自分との関係を知らず、

はつきり理解していません。彼らはこの世の救いのためにひとり子をお与えになった驚くべき神の恵みを、ぼんやりとしかわかっていないのです。聖なる律法の要求の広さや律法の教えが、實際生活にいかに関接に取り入れられねばならないかを理解していません。祈りや悔い改めがどのくらい必要で、また特権であるかも把握していません。神に受け入れられる献身の性質をあらわしてくださるのは、聖霊の働きです。聖霊の働きを通して魂は理解を与えられ、品性は新たにされ、清められ、向上するのです。

神の霊の深い働きかけによって、神の霊が臨んだ時の働きの性質が、私に明らかにされました。このようなみ霊の臨在を経験した人に起こる危険についても示されました。それは、聖霊を受けたあと、彼らは敵のより強い攻撃を受けるからです。敵は、神の霊の働きを無効にしようとして誘惑します。敵は、聖霊によって示され、証された重大な真理が、天の光を受けた人を清め、聖別しないように働き、キリストが彼らの中で栄光をお受けにならないようにするのです。

大いなる霊的光を与えられる時、もしその光を大切にせずに従うことをしないならば、それはかえって対照的に霊的な暗闇の時となります。神の霊の印象を受けても、聖なる印象を大切にせず、聖なる地に立たないなら、その印象は消えてしまいます。霊的な知識に成長したい人は、神の泉の横に立ち、恵みのうちに開かれている救いの井戸からたびたび飲む必要があります。力を与える源から決して離れてはなりません。神の慈しみと同情のあらわれを見て、感謝と愛に満ちて常に生ける水に

あずかっていなければならないのです。

この経験はすべての魂にとって、どんなに大きな意味を持っていることでしょう。「私は世の光である」「私が命のパンである。わたしに来る者は決して飢えることがなく（これほど満たされることがほかにあるでしょうか）、わたしを信じる者は決してかわくことがない」（ヨハネ八ノ一二、六ノ三五）。この状態になることは、光と愛の源を見いだしたことなのです。そして、いつ、いかにしてこれを補給するかを学び、神の約束を絶えずあなたの心に適用することによって、その約束を用いることができるのです。

「しかし、あなたがたに言ったが、あなたがたはわたしを見たのに信じようとはしない」（ヨハネ六ノ三六）。このことは多くの人々の場合、文字どおり実現しています。なぜなら、主は彼らに、真理について、また主のあわれみと同情と愛について、より深い洞察をお与えになったのに、彼らはこのように心を照らされたあと、不信のうちに主から去っていったからです。彼らは神のみ霊の深い働きかけを見たのですが、サタンの人を欺く誘惑がきた時、このような誘惑はリバイバルが起こったあとにいつも来るものですが、彼らは血を流すほどの抵抗をせず、罪と戦わず、自分たちの得た尊い光を正しく用いれば有利な立場に立てたはずの人も、敵に征服されてしまったのです。彼らは神がお与えになった光を、他の人々の魂に反射させねばならなかったのです。聖霊の聖なるあらわれに調和して働かねばならなかったのです。そうしなかったために、彼らは損失をこうむったのでした。

ゲームに凝って靈的勝利を失う

学生たちの間にふざけや浮かれ騒ぎの精神が行きわたっています。ゲームに熱中して主を心から追い出しているのです。イエスは、あなた方と一緒に運動場にいて、あなた方に言われるでしょう。「もしおまえも、この日に、平和をもたらす道を知ってさえいたら」(ルカ一九ノ四二)と。「あなたがたはわたしを見たのに信じようとはしない」(ヨハネ六ノ三六)。そうです、キリストがご自身をあらわされ、聖霊が心に働いた時、深い印象が残りました。しかしあなた方は、これらの聖なる印象を失うような道を取ったのです。それで勝利を保つことができなかったのです。「父がわたしに与えて下さる者は皆、わたしに来るであろう。そして、わたしに来る者を決して拒みはしない」(ヨハネ六ノ三七)。あなた方はキリストに来たのですが、キリストの中にとどまりませんでした。あなた方は、彼を捨てました。そして、大きな恵みと祝福の実感はずから失われました。娯楽の問題が大きく心を占領したため、神の霊が厳かに臨んだあと、熱心に話し合っただけで障害を取り除かれたはずでした。が、ゲーム熱のために、キリストの言葉に注意するのを怠ってしまいました。「誘惑に陥らないように、目をさまして祈っていないさい」(マルコ一四ノ三八)。イエスがおいでになるはずの場所を、あなたのゲーム熱が横取りしてしまったのです。あなたは聖霊の慰めより、娯楽を選びました。「わたしが天から下ってきたのは、自分のこのころのままを行うためではなく、わたしをつかわされたかたのみこころを行うためである」(ヨハネ六ノ三八)と言われたイエスの模範に従いませんでした。

多くの人の心は、自分の人間的な欲望と傾向に惑わされ、しかも耽ることが習慣になって、聖書の本当の意味がわからなくなっています。多くの人は、キリストに従うと、この世が耽溺している享樂や愚行を避けなければならないので、陰うつで楽しみのない生活をしなければならないと思っています。しかし、生きたクリスチャンは、快活で平和に満ちています。それは見えない神を見ているようにして生活するからです。そして、キリストの本当の姿を求めている人々は、心の中に永遠の命の要素を持っています。彼らは神の性質にあずかり、欲望のためにこの世に存在している腐敗を逃れているからです。イエスは言われました。「わたしをつかわされたかたのみこころは、わたしに与えて下さった者を、わたしがひとりも失わずに、終りの日によみがえらせることである。わたしの父のみこころは、子を見て信じる者が、ことごとく永遠の命を得ることなのである。そして、わたしはその人々を終りの日によみがえらせるであろう」(ヨハネ六ノ三九、四〇)。

神の子は神の同労者

すべての靈的生命はイエス・キリストからきます。「彼を受けいれた者、すなわち、その名を信じた人々には、彼は神の子となる力を与えたのである」(ヨハネ一ノ一二)。しかし、神の子となつた確かな証拠は何でしょうか。それは、私たちが神とともに働く者となることです。あなた自身の魂のためになすべき大切なことがあり、またあなたが人々を不信からイエス・キリストにある信仰に支えられ

た命へと導くためになすべきことがあります。」「よくよくあなたがたに言っておく。信じる者には氣まぐれな信仰でしょうか。いいえ、愛によって働き、魂を清める、いつまでも続く信仰です。永遠の命がある。わたしは命のパンである。……わたしは天から下ってきた生きたパンである。それを食べる者は、いつまでも生きるであろう。わたしが与えるパンは、世の命のために与えるわたしの肉である。……人の子の肉を食べず、また、その血を飲まなければ、あなたがたの内に命はない。わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者には、永遠の命があり、わたしはその人を終りの日によりがえらせるであろう。……人を生かすものは霊であって、肉はなんの役にも立たない。わたしがあなたがたに話した言葉は霊であり、また命である。しかし、あなたがたの中には信じない者がいる。』イエスは、初めから、だれが信じないか、また、だれが彼を裏切るかを知っておられたのである。そしてイエスは言われた、『それだから、父が与えて下さった者でなければ、わたしに来ることはできないと、言ったのである。』（ヨハネ六ノ四七、四八、五一、五三、五四、六三、六五）。

イエスがこれらの言葉を語られた時、彼は権威と確信と力をもって語られました。時々彼は、聖靈の深い感動が感じられるような方法でご自身をあらわされました。しかしその時の祝福を見聞きし、それにあずかった多くの人々が自分の道を進み、間もなくイエスの与えられた光を忘れてしまいました。

永遠の宝がイエス・キリストにゆだねられ、イエスはそれを誰にでもお与えになるのですが、多く

の人が、キリストに対する信仰を通して与えられる尊い恵みをすぐ見失ってしまうのは、悲しいことです。キリストは、彼を信じ、彼を見上げ、彼につながっている人に天の宝を与えてくださいます。彼は神と等しくあることを固守すべきこととは思わず、み心のままに無制限に、自由に、天の宝をお与えになります。この世でもてはやされている偉大な人々を重んじ、大切にするのはなく、彼の選ばれた特別の民に、みもとに来て求めるよう、命じられます。そして彼に、命のパンと命の水をお与えになります。その水は彼らの中で泉のように湧きいで、永遠の命に至るのです。

イエスは、神の豊かな宝を私たちの世界に持ってきてくださいました。そして彼を信じる者はみな、その世継ぎとして養子にしてくださいます。イエスは、彼のみ名のために苦しむ者の報いは大いなるものである、と言われました。「目がまだ見ず、耳がまだ聞かず、人の心に思い浮びもしなかったことを、神は、ご自分を愛する者たちのために備えられ」た（コリント第一・二ノ九）と記されています。

『レビユー・アンド・ヘラルド』一八九四年一月三〇日

祝福は大事にされたか

私たちの霊的な賜物を増し加えるためには、光の中を歩まねばなりません。キリストの再臨が近づいていることを考えて、私たち自身の魂を備えることに専念し、私たちの灯火を整え、明るく燃やし、

人々に花婿の来臨の備えをするように勧め、目を覚まして働かなければなりません。目を覚ますことと働くこととがともになされる必要があります。信仰と行為が結びつけられないと、私たちの品性は均整のとれた堅実な、イエス・キリストにあって完全なものとはなりません。

祈りによる瞑想の生活だけでは、私たちの光は暗くなります。というのは、光が与えられるのはほかの人に分け与えるためからです。そして、多くの人に与えれば与えるほど、私たちの光も明るくなっていきます。私たちが熱意をあらわせることがこの世に一つあるとすれば、それは、キリストがそのために死なれた魂の救いを求めることです。こうした種類の働きは、個人の信仰生活を決しておろそかにしません。「熱心で、うむことなく、霊に燃え、主に仕え」(ローマー二ノ一)と勧められている通りです。

神の栄光に目を注ぐというのは、ただ一つの目的を持ち、あなたの心の中になされた業をあらわすことです。すなわち、あなたの意志を神の意志に従わせ、すべての考えをとりこにして神の栄光を求めることです。世の人々は、大学、病院、出版社、そしてバトル・クリーク教会員たちに起こったりバイバルのあとの影響を注目しています。あなたは日常生活と品性において、どんな証をしているでしょうか。

神は、あなた方すべての人が自分で喜び、楽しみ、栄光を受けるのではなく、すべてにおいて神を尊び、神の恵みの賜物を通して与えられた光と特権に従って神にお返しするよう、全力を尽くすこと

を期待されたのです。神はあなた方が天の聖者たちに対して証をし、この世に対してもキリストの恵みの生きた証人となるよう期待されました。主は、あなた方が、主の豊かな祝福を安っぽい軽いものとして取り扱っているか、それとも敬虔な恐れをもって尊い宝として取り扱っているかを見ようとして、あなたを試しました。すべての人が神の賜物をそのように正しく取り扱ったならば、
うのも、この働きは神よりのものだからです。それぞれの責任に応じて与えられた恵みは、主人のお金を忠実に取り扱った人のタラントのように倍加したことでしょう。

呪いとなった祝福

神はその民の忠誠を試みて、神のゆだねられた尊い祝福をいかに用いるかを見ようとしておられます。この祝福は、天の法廷における私たちの仲保者イエスから来たものです。しかし、サタンは入ることのできるいかなる道から入ってきて、光と祝福を暗黒と呪いに変えようとしています。

いかにして祝福が呪いに変えられるのでしょうか。人間が光を大切にしないようにさせたり、光が品性を改変するのに有効であることを世の人々に示さないようにさせたりすることによってです。聖霊に満たされる時に、人間は自分自身を捧げて神と協力します。彼はキリストのくびきをつけ、自分の重荷を負い、尊い勝利を得るためにキリストの戦列で働きます。彼は、キリストのように光の中を歩みます。そうすれば聖書の言葉が彼に成就するのです。「わたしたちはみな、顔おおいなしに、主の

栄光を鏡に映すように見つ、栄光から栄光へと、主と同じ姿に変えられていく。これは霊なる主の働きによるのである」(コリント第二・三ノ一八)。

今や多くの記録を残して、一年が永遠のあなたに過ぎていきました。天からあなたを照らした光は、あなたが神の戒めを守る民として、世の人々に神への賛美をあらわし、立つて輝くためでした。あなたは生きた証人となるべきでしたが、もし今日の一般教会より大きな努力をしなければ、神のみ名はあがめられません。また大きな光を受けた民としての証拠を示して、その真理を世の人々に明らかにすることはできません。昔のイスラエルのように、食い飲みし、立つて戯れ、神の力のあらわれをその程度にしか評価しないなら、どうして神がその民を信頼し、豊かな愛をお示しになることができるでしょうか。明らかにされている神の主旨にほとんどすべての点で反対し、不注意、軽率であり、利己主義で野心と誇りを持ち、主の前に腐敗した道を歩いていれば、どうして神はふたたび聖霊の降下をお与えになることができるでしょうか。

神はその民に対して、最も豊かな祝福を持っておられます。しかし彼らが、自分たちを暗黒の中からその驚くべき光の中へと導き出してくださった方を賛美し、その尊い賜物をいかに取り扱うべきかを知るまでは、神はそれを彼らにお与えになることができないのです。「こういうわけで、わたしたちは、このような多くの証人に雲のように囲まれているのであるから、いっさいの重荷と、からみつく罪とをかなぐり捨てて、わたしたちの参加すべき競争を、耐え忍んで走りぬこうではないか。信仰の

導き手であり、またその完成者であるイエスを仰ぎ見つつ、走ろうではないか。彼は、自分の前におかれている喜びのゆえに、恥をいともわないで十字架を忍び、神の御座の右に座するに至ったのである」(ヘブル二一ノ一、二)。キリストの前に置かれた喜びの一部は、神の真理が聖霊の力によって彼に従う人々の生活と品性に、ご自身のかたちを刻みつけることでした。

天使たちは、人間と協力して律法を大いなるものとし、尊いものとし、主の律法は完全で、魂を生き返らせます。世の人々が生きた証を見るのは、生き返らされた魂においてです。それでは天の主がお働きになる余地はないのでしょうか。真理を信じるといふ人々の心に、働く場所をお見つけになるのでしょうか。神の清い、無我の慈しみは、人間の応答を得ているのでしょうか。この世は、神の弟子と主張する人々の品性に、キリストの栄光のあらわれを見ているのでしょうか。キリストの同情と愛が慈しみと真理の流れとなり、神を代表する人間から注ぎ出されることによって、キリストが好意を持たれ、尊ばれているのでしょうか。キリストは心に福音を植えつけて、この世の祝福のために天の資源を注ぎ出しておられます。「わたしたちは神の同労者である。あなたがたは神の畑であり、神の建物である」(コリント第一・三ノ九)。

神の豊かな祝福は、心が謙遜で、悔い改めた人に対して何をしたのでしょうか。その祝福は、大切にされたのでしょうか。祝福を受けた人は、暗黒の中から神の驚くべき光へと召し出された方を賛美しているのでしょうか。あれほどすばらしかった働き、もっと高く評価されるべき働きをもう疑っている人

があります。彼らはそれを一種の狂信とみなすのです。

よくよく注意深くあること

バランスのとれた考えを持たないで、無分別に語ったり、行動したりする人がいても不思議ではありません。それは、主がいつどこでも、本当の祝福をお与えになると、神の働きを無効にしようとして偽物が必ずあらわれるからです。ですから、私たちはよくよく注意し、神の前に心を低くして歩み、霊の目薬を持って、神の聖霊の働きと凶暴な放縦と狂信をもたらす霊の働きとを区別することができなければなりません。「あなたがたはその実によつて彼らを見わけるのである」(マタイ七ノ二〇)。本当にキリストを見ている人々は、聖霊の働きによつて彼のみかたちに変えられ、イエス・キリストにあつて成長し、一人前の男女となります。神のみ霊によつて愛と純潔が与えられ、高潔な品性があらわれるでしょう。

しかし、ある人々が天の豊かな祝福を誤用したために、他の人々は、世界の救い主であるイエスが私たちの教会に來られたことを否定し、祝福を与えられたことを認めようとしません。疑惑や不信がそうした疑問を持つのを許してはなりません。そんなことをすれば、あなたは危険な地に踏み込んでいるのです。神は、天の賜物を受けるために心の扉を開いた人々に聖霊をお与えになりました。しかしあとになって、自分たちは欺かれていた、と信じる誘惑に陥つてはなりません。「私は暗黒を感じ疑

いに圧倒され、それにサタンの力を今のようにはつきり見たことはなかったので、私は誤っていたのです」と言ってはなりません。もつと注意深くならなければなりません。一言の疑惑の種もまいてはなりません。神はあなたのために働き、真理の正しい教理を心に触れさせてくださいました。祝福は与えられたのです。それは正しい行為と高潔な品性の実を生じるためでした。

証拠を否定する罪

キリストがコラジンとベツサイダを責められた罪は、その力を認めていたら彼らに真理を確信させただけの証拠を拒否したということでした。司やパリサイ人の罪は、彼らの前で行われた天の業を、信じなかったことでした。それで、彼らを確信に導くはずの証拠が疑われ、大事にしなければならぬ聖なるものが、無価値なものとなされてしまいました。人々は、敵が神の力の証拠を拒否するのを許しているのではないか、と私は心配です。そのために神より出たよいもの、神がお与えになった豊かな祝福が、ある人々によって狂信と見られるようになったのです。

この態度を取り続けるならば、主がふたたびその光を人々の上に輝かせてくださる時、彼らは、「私は一八九三年に同じように感じました。しかし、私の信賴している人たちは、これは狂信だ、と言いました」と言つて、天の光から心をそむけるでしょう。神の豊かな恵みを受けながら、聖霊の働きを狂信と考える立場を取る人は、将来においても神のみ霊の働きを非難し、静かな細い声の懇願を聞く

ことができない状態になってしまっているのではないのでしょうか。イエスの愛が、それに反抗する人に働いても、その心をつかまえることはできません。天の恵みの富が与えられても大切にせず、感謝して認めないで、拒否してしまいます。その恵みを受けた人は、心では義とされることを信じ、しばらくは救いに至る告白をしますが、悲しいことに天使と協力せず、義の行いをするることによってその光を大切にしようとはしなかったのです。

『レビュー・アンド・ヘラルド』一八九四年二月六日

第一八章 公衆伝道における特別な訴え

「エレン・G・ホワイトは、公衆伝道において応答を求めるアピールを有効に用いました。ここに収録されているのは、いろいろ違った状況で用いられたこの方法の実例です。 編者」

初期のバトル・クリークにて

バトル・クリークの教会の集会に出席。約一時間自由に会衆に話しました。内容は、アダムの墮落が悲惨な状態と死をもたらしたこと、キリストが辱めと死によって命と不死をもたらされたこと。人々に神への全的献身 全存在、心と体と精神の清め の必要を勧めました。モーセの死と、カナンの約束の地の光景を語りました。会衆に深い感動がありました。……その晩の集会で、クリスチャンになりたい人は前に出るように勧めると、一三人が出てきました。みな主の証をしました。すばらしいことでした。

日誌、一八六八年一月一三日

ミシガン州ティタバワッサーでの熱心な働き

集会は一日中続けられました。私の夫が午前中に話し、アンドリューズ兄弟が午後には話しました。そのあと、私がかかなり長く話し、この集会を通して興味を持った人にきょうから神に仕えるようにと勧め、決心をする人は前に出るように、と言いました。かなりの人が前に出ました。人々に、サタンの絆から離れて出発するように、と数回勧めました。ある母親は息子さんの所へ行き、泣いて懇願しました。彼はかたくなで、頑固で、従わないように見えました。そこで私は立ち上がってD兄弟に語りかけ、子どもさんたちの道を妨げないでください、と頼みました。彼は体を動かして立ち上がり、きょうから決心して始める、と言いました。この言葉をみな喜んで聞きました。D兄弟は素晴らしい人です。

E姉妹の夫がその時立ち上がって、クリスチャンになりたいと証しました。彼は弁護士で影響力のある人です。彼の娘は求道者席にいました。D兄弟も私たちと一緒に勧めました。D姉妹も自分の子どもたちに訴えました。私たちは勧めて、勝利しました。みな前に進みました。父親が息子たちと前に進み、ほかの父親もそれになりました。それは喜びの日でした。E姉妹は、きょうは生涯で最も幸福な日です、と言いました。

日誌、一八六八年二月一九日

バトル・クリークでのよい応答

私は午後、「ペテロの第二の手紙」から話しました。自由に話すことができました。一時間話したあと、クリスチャンになりたい人は前に出るように招きました。三〇名から四〇名の人が高興をもち、静かに出て、前の席につきました。私は、全的献身を神にすることについて話しました。そして、前に出て来た人のために祈りの時を持ちました。それは非常に貴重な祈りの時でした。バプテスマを受けた人は立ってそのことを示してくださいと言うと、かなりの人が立ち上がりました。

日誌、一八七三年六月九日

躊躇のあとの応答

私は午後（バージニアのスタンレーで）、ヨハネによる福音書一七章三節から話しました。主は私に豊かな聖霊の働きをお与えになりました。家はいつぱいでした。もっと主を熱心に求めたい人、自身を全き犠牲として主に捧げたい人は前に出るように、と言いました。しばらくの間だれも動きませんでした。しかしそのあと、多くの人が前に来て、告白の証をしました。私たちは尊い祈りの時を持ち、みな心を碎かれ、涙を流して罪を告白しました。

日誌、一八九〇年十一月九日

スイスでの働きの初め

安息日と日曜日は尊い時でした。^{*} 主は、日曜日の午後の集会の時、特に私を祝福してくださいました。説教の終わりに、クリスチャンになりたいすべての人と、今まで神と生きたつながりを持っていなかったと感じる人は、前に出て来るようにとの招きをしました。それは祈りをともにして、罪の赦しと誘惑に抵抗する恵みを受けるためでした。

これは多くの人にとって新しい経験でした。しかし彼らは躊躇しませんでした。全会衆が立っていたようでしたが、みなひざまずき、ともに主を求めました。そして、罪を捨てる決心をあらわし、主を熱心に求めました。祈りのあと一一五の証があり、その多くは神の事柄についての純粋な経験を示していました。

『セブンスデー・アドベンチスト外国伝道のヒストリカル・スケッチ』一七三ページ

ノルウエーのクリスチャニア（オスロ）にて

私たちはクリスチャニアで二週間を過ごし、教会のために熱心に働きました。主のみ霊が、非常にわかりやすい証をするように私を動かしました。最後の集会で、彼らが神の子となりたければ品性が

—
^{*} スイスのバーゼルで一八八五年にスイス年会が開かれた。

全く変わらなければならぬ、と言いました。……深い悔い改め、告白、教会からキリストの温かい精神を遮断している罪を捨てて必要を私は説きました。それから主の側にはつきりした立場を取りたい人は前に出るように、と招きました。多くの人が応答し、よい告白と熱心な証がなされました。

『レビュー・アンド・ヘラルド』一八八六年一〇月一九日

立つことによって決心を表明する

より高い標準に達するために、今から熱心な努力をするすべての人に、立つことを求めました（イスのバーゼルにおいて）。みな立ち上がりました。私たちは今、彼らが神のものとなり、天からの光に従い、神の力をいただいて、忠実な真に献身したキリストの十字架の兵士になるために熱心な努力をすることを望みます。

日誌、一八八五年一月二二日

バーゼルで背教者が立ち返った

安息日の午後、交わりのためふたたび集まりました。短く人々に語った時、主の祝福が私にとどまりました。すべての席はいっぱい、余分の席が設けられ、みな深い興味をもって聞いていました。神の僕の祈りを希望する人は前に来るように、と言いました。主から離れていたすべての人、主に帰り、主を熱心に求めたいすべての人は、この機会を生かしてください、と言いました。いくつかの

席がすぐ埋められ、全会衆が動き出しました。私たちは申しました。一番いい方法は、そのいる所で座り、罪を告白して主を求めることです。主は、「もし、わたしたちが自分の罪を告白するならば、神は真実で正しいかたであるから、その罪をゆるし、すべての不義からわたしたちをきよめて下さる」(ヨハネ第一・一ノ九)と約束してくださっているのですから、と。

多くの証が次々に深い感動をもってなされ、心に神の霊が触れたことを示しました。私たちの集会は午後二時から五時まで続けました。それからようやく、いくつかの熱心な祈りによって会を閉じたのでした。

日誌、一八八七年二月二〇日

オーストラリアでの著しい経験

(一八九五年)五月二五日の安息日、ノース・フィツロイのホールでの集会はすばらしいものでした。私はその安息日に教会で話すことになっていました。不幸にも集会の数日前ひどい風邪を引いてしまい、声がすっかり枯れてしまったのです。それで、この約束を取りやめてもらいたい、という気持ちになりました。しかし、これが私にとって唯一の機会であったので、私は、「会衆の前に出て行けば、主は私の熱心な祈りを聞いてくださり、私の声の枯れたのを取り去り、メッセーヂを人々に伝えることができるようにしてくださると信じる」と心の中で言いました。私は天の父の前に、「求めよ、そうすれば、与えられるであらう。捜せ、そうすれば見いだすであらう。門をたたけ、

そうすれば、あけてもらえるであろう。……このように、あなたがたは悪い者であっても、自分の子供には、良い贈り物を知っているとすれば、天の父はなおさら、求めて来る者に聖霊を下さらないことがあるのか」(ヘルカー一ノ九、一三)という約束を持ち出しました。

神のみ言葉は確かです。私は求めました。そして人々に語ることができるようになってくださることを信じました。私は聖書のある部分を選びましたが、語ろうとして立ち上がった時、その聖句は私の心から取り去られ、私はペテロの第二の手紙一章から話すように印象を受けました。主は私に神の恵みの価値について特別に自由に語れるようにしてくださいました。……私は聖霊の助けによつて、明瞭に力強く語ることができました。

私は説教の終わりに、主に自分自身を全く捧げたいと望む人は前に来るようにとの招待をするように、神のみ霊の働きを感じました。また神の僕によつて祈ってもらふ必要を感じる人は、それを示すように、と勧めました。約三〇名の人が前に出ました。その中には、神に近づきたいという望みを初めて明らかにしたF兄弟たちの妻たちもいました。私の心は、この二人の婦人の動きを見て、口に言いあらわすことのできない喜びに満たされました。

私はその時、どうして私が熱心にこの招きをするように動かされたかの理由を知ることができました。あの時助けを与えることができると思われたのは私の息子と私だけだったので、この招きをすることがよいかどうか、初め迷いました。しかし、誰かが私に語りかけるように、次の考えが私の心を

よぎりました。「あなたは主に頼ることができないのですか」。私は、「主よ、お願いいたします」と言いました。私の息子はこの時このような呼びかけをしたことに驚きましたが、彼は緊急の時にも対応することができた人でした。私はあの時ほど、彼が大きな力と深い感情をもって語るのを聞いたことがありませんでした。彼はファルクヘッド兄弟とサリスベリ兄弟を前に呼んで、ひざまずいて祈りました。息子が先に祈り、主は確かに彼の祈りを導いてくださいました。彼は神の臨在のうちにいるように祈りました。ファルクヘッド、サリスベリ兄弟たちも熱心な祈りを捧げ、それから主は私にも祈る声を与えてくださいました。私は、F姉妹たちが初めて真理に従う立場を表明したことを覚えています。聖霊がその集會に臨んでいました。多くの人が、その深い働きかけによって心を動かされました。

集會の終わりに多くの人が講壇の所に来て、私の手を取り、目に涙を浮かべて祈りを求めました。私は心から、「そうしましょう」と言いました。F姉妹たちに私は初めて紹介されました。私は彼女たちの心がたいへんやさしいことがわかりました。……一人の姉妹の母親は、今は真理に立っています。昔はひどく反対し、娘が安息日を守るようになったら家には入れない、と言っていました。というのも、それは家族の恥辱であると思ったからです。F婦人はしばしば、私はセブンスデー・アドベントリストにはならない、と言っていました。彼女は長老教会で成長し、女性が集會でお話しするのは不適当と考えるように教育されていました。特に女性が説教するのは全くたしなみの限界を越える

ことと思っていたのです。彼女は、ダニエルス長老やコーリス長老のお話しは喜んで聞きました。しかし、女性の説教には耳を貸しませんでした。彼女の夫は、ホワイト姉妹の働きで妻が回心するように、と神の導きを祈っていました。私がアピールをして、神に近づく必要を感じる人は前に来るように勧めた時、みな驚いたことにこの姉妹たちは前に進み出たのです。自分の子どもをなくした姉妹は、前には出ないと決心していましたが、主のみ霊が強く彼女の心に迫り、彼女は拒むことができませんでした。私は、天の父の慈しみがこの二人の魂を彼らの夫たちとともに真理に従うようにしてくださったことを、心から感謝しています。

『レビュー・アンド・ヘラルド』 一八九五年七月三〇日

アドベンチストでない訪問客がアシュフィールド教会で神の声に応答

神に自分自身を捧げ、聖なる契約を結び、心を尽くして神に仕えようと思う人は立ってください、と私は言いました。建物はいっぱいでしたが、ほとんど全部の人が立ちました。私たちの信仰を持っていないかなりの人がいましたが、彼らのある人たちも立ちました。私は、彼らのために熱心に主に祈りました。私たちには聖霊が働いていることがわかりました。勝利が与えられたことを感じました。

原稿三〇、一八九六年

バトル・クリーク・カレッジでの特別な呼びかけ

介護者たちに、医師たちに、あるいは看護婦のクラスで、私は祈祷週中五回語りました。私の話は喜ばれたと確信しています。カレッジで二回話しました。先週の木曜日に、プレスコット教授が私に来るように言ったのです。私は行って祈り、学生がいっぱい集まっている大きなチャペルで話しました。私は非常に自由に語ることができ、神の恵みと慈しみ、身を低くして犠牲を払われたイエス・キリスト、私たちのために買われた天の代価、最後の勝利、そしてクリスチャンであることの特権について話しました。

プレスコット教授は立って語ろうとしましたが、彼の心は感動して五分間何も言うことができませんでした。そして会衆の前で涙を流して立っていました。それから少し話しました。「私はクリスチャンであることを嬉しく思います」。約五分話してから、誰でも証をしてよい、と言いました。多くの証がありました。しかし私は、この中にまだ私たちがその心に触れていない人々があるように感じました。私たちは、キリストの再臨の準備ができていないとを感じる人や、自分が神に受け入れられた証拠を持たない人は前に出るように、と言いました。建物全体が動いているように、私には思われました。それから全員にその感動をあらわす機会を与えました。もう一度短い祈りの時を持ったあと、主の祝福は人々の心に達したように思われました。

それから分かれてもう二時間この働きを続け、主のみ霊は著しい方法で集会に臨みました。信仰の

経験が全くない未信者の数人は、宗教生活の純粋な経験をえました。そして、この働きは深く深くなっていました。主は働いておられます。私たちが道を備え、彼が私たちのためにその力をあらわすことがおできになるようになれば、将来も働いてくださるでしょう。

手紙七五、一八八八年

サンフランシスコでの決心の祈り

二月二日金曜日（一九〇〇年）、私は祈禱週を過ごすためにサンフランシスコに行きました。安息日の午後、私は力がなく両方の手で講壇にしがみついて体を支えねばならないほどでしたが、その教会で話しました。私は人々に語ることができる力を与えられるように祈りました。神は祈りを聞き、力を与えてくださいました。私はヨハネの黙示録二章一―五節から非常に自由に語ることができました。

神のみ霊の感動が私に來ました。人々はそのメッセージで強く印象を受けました。語り終わった時、主に自分を捧げたいと思う人は前に出るように、と言いました。多くの人がそれに応じ、彼らのために祈りが捧げられました。前に出た何人かは、最近再臨使命を聞いたばかりで、みな決心の谷間にいました。彼らに与えられたよい印象を主が強めてくださるように、そして彼らが自分自身を全く神に捧げるように祈りました。魂が回心し、新しい歌を歌い、神をほめるのを、どんなに聞きたいと私は思ったことでしょう。

日曜日の午後、多くの会衆に話しました。その中の多くの人々は、私たちと同じ信仰ではありませんでした。私の力は強められ、講壇につかまらないで、人々の前に立つことができました。主の祝福が私たちの上にとどまりました。そして、語るにつれて力が増してきました。安息日と同じように、霊的な助けを求める人は前に出るように勧めましたが、ただちに応答のあつたことを嬉しく思いました。祈りの中に主を求めた時、主は非常に近くに来てくださいました。

『レビュー・アンド・ヘラルド』一九〇一年二月一九日

同様の働きが各教会で起こる

一月一〇日の安息日に、私はサンフランシスコを訪問し、聞く耳と理解する心を持った人々でいっぱいになった教会で話しました。……私が話したあとで、コーリス長老は、イエスに自分を捧げたい人は前に出るように、と招きました。すぐに喜んで人々はこれに応えましたが、約二〇〇名の人がいちたそうです。男女、青年、子どもが前の席に詰めかけました。このような働きがすべての教会でなされることを主はお喜びになります。

建物はいっぱいだったので、多くの人は前に来ることはできませんでした。しかし、生き生きとした顔色、涙をためた目は、「私は主の側につきまます。今から熱心に、今より高い標準に達することを求めまます」という決心をあらわしていました。『レビュー・アンド・ヘラルド』一九〇一年二月一二日

一九〇九年の総会における応答

兄弟姉妹方、主にお会いすることのできるうちに、主を尋ね求めなさい。時間と機会を浪費した人々が、主を求めておけばよかったと思う時が来ようとしています。……神はあなた方が分別を保ち、そして働くことを望んでおられます。神はあなた方が教会に行つて、熱心に彼のために働くことを望んでおられます。教会外の人のために集会をして、この最後の警告使命の真理を学ぶことができるようにしてあげてください。あなた方が喜んで受け入れられる場所があり、そこではあなた方が助けに来たことを感謝されます。主の助けによつて、あなた方が今までなかったほどこの働きに打ち込むように祈ります。あなた方はそのようになさるでしょうか。神に頼り、神を助けとすることを証しなさる方はここで起立してください。（会衆は起立する）

（祈り）イスラエルの主なる神よ、感謝いたします。あなたの民のこの誓いをお受け入れください。彼らにみ霊をお与えください。あなたの栄光が彼らの中に見られますように。彼らが真理の言葉を語るとき、神の救いを見ることが出来ますように。アーメン 『世界総会報告』 一九〇九年五月一八日

第四部

み言葉を宣べ伝えよ

序 文

一九三三年に世界総会の指導者たちが、北アメリカの全体に対して強力な伝道計画を立てた時、もし大きな目的を達成しようとすれば、人々の前に立つ牧師は重要でない事柄を話すのをやめて、第三天使の使命の、広い、人の心を捕らえる面を取り上げなければならないということがわかりました。世界総会の要請で、『み言葉を宣べ伝えよ』という一六ページのパンフレットが出版されました。これはエレン・G・ホワイトの勧告です。この世界に最後の審判のメッセージを宣べ伝えるという厳粛な責任を、改めて牧師たちに命じるこの印刷物は、幾千となく配布され、大きな働きをしました。エレン・G・ホワイトのほかの本に出ていない部分が、ここに永久的な形で収録されています。ただし、ここに印刷された言葉は、この問題についてエレン・ホワイトが書いたものの全部ではありません。これに加えて、『伝道』『福音宣伝者』『牧師への勧告』『クリスチャンの奉仕』にも書かれています。

パンフレットの項目に続いて、二、三の関連した章があります。「極端な見解」というのは一人の牧師への手紙で、この大いなる働きについての教訓を含んでいます。今日まで『ノートブック・リーフレット』にしか出ていなかったものです。「時を定めることについて」の章は、時宜を得たものです。最後は、『特別な証（シリーズB）』第二から取られた勧告です。これは、一九〇三年と一九〇四年に、汎神論の考えが教会への大きな祝福となる新しい光として教団に対して主張された危機の中で書かれました。苦闘しつつある教会に熱心に与えられた真理の教訓の中に、この危機がもたらした主な祝福があると言えるでしょう。これらは主として、『教会への証』八巻と『ミニストリー・オブ・ヒーリング』に出ています。

エレン・G・ホワイト著書管理委員会

第十九章 説教すべきことと、そうでないこと^{*}

キリストをあらわす

すべての伝道の目的は、自己を隠し、キリストをあらわすことです。み言葉と教理に奉仕するすべての人は、キリストを高くかかげることが大いなる真理であることをあらわすべきです。

原稿一〇九、一八九七年

真理のために働く人は、キリストの義を新しい光としてではなく、しばらくの間人々が見失っていた尊い光として示すべきです。キリストを私たち一人ひとりの救い主として受け入れれば、彼はキリ

^{*} 題目の完全なリストはここに出ていない。他の提案などについては『伝道』一八九〇―一九九ページ、二一七―二七八ページを参照。 編者

ストにある神の義を私たちのものとしてくださいます。「わたしたちが神を愛したのではなく、神がわたしたちを愛して下さって、わたしたちの罪のためにあがないの供え物として、御子をおつかわしになった。ここに愛がある」(ヨハネ第一・四ノ一〇)というヨハネが描いた真理を、繰り返し明らかにしなければなりません。

神の愛の中に、尊い真理の最も驚くべき特質が開かれています。キリストの恵みの宝が、教会とこの世の前に開かれています。……これは何という愛でしょうか。私たちがまだ罪人であった時、キリストが私たちのために死なれたというのは、何という驚くべき、測り知ることのできない愛でしょうか。律法の強い要求を理解しながら、それよりはるかに豊かに働くキリストの恵みを理解しないのは、魂にとって非常に大きな損失です。

神の律法は、それがイエスにある真理として述べられる時神の愛をあらわす、というのは本当です。この罪の世界にキリストが与えられたということが、すべての話の中心であるべきだからです。真理が、冷たい命のない方法で伝えられても、人の心を溶かさないのは当然です。牧師や働き人が、神の律法とともにイエスを紹介しなければ、信仰を持っても、神の約束の前にたじろいでしまいます。牧師や働き人たちは、本当にしばしば「ご自身の御子をさえ惜しまないで、わたしたちすべての者のために死に渡されたが、どうして、御子のみならず万物をも賜わらないことがあるのか」(ローマ八ノ三二)という神の約束を、人々に確信させる必要があります。

サタンは、滅んでいく人類を救うためにひとり子をお与えになったという神の愛を、人間が理解しないように働いています。なぜかという、神の慈しみが人々を悔い改めに導くからです。私たちは世の人々の前に、深い尊い神の愛を正しく示すことができるでしょうか。「わたしたちが神の子と呼ばれるためには、どんなに大きな愛を父から賜ったことか、よく考えてみなさい」(ヨハネ第一・三ノ一)と叫ぶほかありません。罪人たちに対して、「見よ、世の罪を取り除く神の小羊」(ヨハネ一ノ二九)と言いましよう。イエスを、父なる神をあらわすお方として示す時、イエス・キリストにあらわされた神のあわれみと、言い尽くすことのできない愛を見ることができないようにサタンが私たちの道に投げかけた影を、追い払うことができるのです。カルバリの十字架をあらわさない。それは、天父の限りない愛と、測り知ることのできない慈しみの、動くことのない保証なのです。

原稿一五四、一八九七年

聖霊

偉大な教師キリストは、限りなく多くの種類の主題を持っておられました。最も多く語られたのは聖霊の賜物についてでした。この賜物によって、彼は何という素晴らしいことを教会のために預言されたことでしょう。それなのに、今一番考えられていない問題は何かでしょうか。どんな約束が一番成就されていないのでしょうか。聖霊について、たまにしか語られません。いつも後回しになってしま

います。

原稿二〇、一八九一

回心の順序を教える

牧師たちは、イエスのように真理をもっと明瞭で単純な方法で示す必要があります。自分自身の中に、救いの大いなる計画がもっと十分に把握される必要があります。そうすれば、聞く人の心を地上のことから、霊的な永遠のことに向けさせることができます。救われるためにいかにすべきかを知りたいと思っている人はたくさんいます。彼らは、回心において必要な段階について、わかりやすいはつきりした説明を求めています。説教の一部は必ず、罪人がキリストに来て、救われる道を明らかにするものでなければなりません。ヨハネのようにキリストを示し、心に触れる単純さでキリストの愛に燃やされて、「世の罪を除く、神の小羊を見よ」と言うべきです。そして、罪人が悔い改めるように、強い熱心なアピールをすべきです。

働きのこの部分をおろそかにしている人は、説教をする前に自分自身が悔い改めなければなりません。キリストの愛に燃え、み言葉の真理に満ちている人は、神の宝庫から新しいものや古いものを取り出すことができます。逸話を語る時間はなく、雄弁に語ろうと緊張もせず、人々がついて来れないような高尚な思想を語ることもないでしょう。しかし単純な言葉を使って、心に触れる熱心さでイエス・キリストにある真理を示すでしょう。『レビユー・アンド・ヘラルド』一八八七年二月二二日

伝統的再臨真理のリバイバル

牧師も信徒も、神聖で重要なすべき仕事があります。み事業と神の民の歴史を学ぶべきです。神がその民を過去においてどう取り扱われたかを忘れてはならないのです。初めて真理が理解された時、それに伴った力と輝きを経験していない人には、価値のないように見えるそれらの真理に命を与え、生き生きと語らねばなりません。最初のような新鮮さと力をもって、これらの真理を世に伝えねばならないのです。

原稿二二、一八九〇年

天使の奉仕

すべての人に善と悪の天使たちが働いています。どちらが勝つかを決めるのは、人間自身です。キリストの働き人は、接するすべての人に、天使の奉仕がよくわかるように話さなければなりません。空想的な考えにふけてはなりません。書かれたみ言葉が唯一の安全な考えを示します。私たちは天使によって守られるために、ダニエルのように祈らねばなりません。

手紙二〇一、一八九九

議論的な説教

議論的な説教が多いですが、人の魂を和らげ、従わせることはほとんどありません。……すべての使命者は、キリストを十分に示すことを使命としなければなりません。価なくして与えられるキリス

トの義が示されないと、説教は潤いがなく、靈的なものを失い、羊や小羊は養われません。パウロは、「わたしの言葉もわたしの宣教も、巧みな知恵の言葉によらないで、靈と力との証明によったのである」(コリント第一・二ノ四)と言いました。福音には栄養と豊かさがあります。イエスはすべてのものの生きた中心です。キリストをすべての説教に入れてください。イエス・キリストの尊さ、あわれみ、栄光をいつも考えてください。心のうちに形作られるキリストは、栄光の望みなのでから。

手紙一五、一八九二年

現代の真理を柔和に

使命者たちよ、氣をつけてください。新しい理論をすぐ受け入れないでください。というのは、新しい説というのはいかなる会衆の前にも決して提示してはならないようなものである場合がしばしばだからです。公然と自己を高める言葉を語ってはなりません。神の言葉が、真理によって清められた口から出てくるようにしてください。牧師はみな、イエスにある真理を語るべきです。確実なことを語り、聖霊の導きに従って神のみ言葉を取り扱わなければなりません。兄弟方、神の前に注意して歩み、働いてください。そして、あなたの模範によつてだれも惑わしに陥らないようにしてください。もし一人の魂でも迷わせるなら、あなたは生まれなかった方がよかったです。

神の僕と公言する人々は、罪や病氣や悲しみが入ることができない生活をするために、勤勉に働く

必要があります。時を得るも得ざるも、常に切迫感を持っていなければなりません。

神は、講壇から力強い、人を向上させる言葉を語る改革者を求めておられます。自分の言葉が熱心に受け入れられない時、心が傷つき、感情を害するのは、聖霊の力によつて神の言葉を語らないで、自分の力で自分の言葉を語る時です。その時彼らは、苦い心や反対の精神を聴衆に起こさせるような言葉を語るように誘惑されます。兄弟方、いつも思慮深くあってください。このような言葉はキリストの大使の口から出るべきではありません。清められた口は改革の言葉を語りますが、それは人を怒らせるものではありません。真理はキリストの柔和と愛のうちに語られねばならないのです。

手紙三四八、一九〇七年

敵の策略

私たちは神よりの光を祈り求めねばなりません、同時に新しい光と呼ばれるものを何でも受け入れることには注意しなければなりません。私たちは、新しい真理を求めるといつて、サタンが私たちの心をキリストやこの時代のための特別な真理から引き離そうとするのに、注意しなければなりません。何かはつきりしない、大して重要でない点に心が導かれたり、または何か十分にあらわされていないことや救いに重要でないことに心が向けさせられたりするのには、サタンの策略であることを私は示されました。これが「現代の真理」の中心となつてしまい、すべての研究や想像が、真理によつて

清められ一致しなければならぬはずの人々の心を混乱させ、問題を前よりもあいまいにしてしまうのです。

手紙七、一八九一年

人間の仮説や憶測

神の民を眠らせるような美しい科学的に見える詭弁を用いてはなりません。この時代に対する厳粛で神聖な真理に、人間が考えた空想的な衣をまとわせてはなりません。こういうことをしている人は、それをやめて自分の魂が偽りの作り話から救われるよう、神に求めましょう。

人々を動かすのは心を喜ばせる偽りの話ではなく、聖霊の生きた力です。空想的な話は命のパンではありません。それは魂を罪より救うものではないのです。

キリストは、人類を救うために天より送られました。彼は神の教えを伝えました。彼が宣べられた真理は、旧約聖書・新約聖書の中にある真理で、私たちも今日生ける神の言葉を宣べ伝えなければならぬのです。

命のパンを求める人は、有限で間違いの多い人間の教えではなく、聖書に行くべきです。キリストが天より持ってこられた命のパンを人々に与えてください。あなたの教えに人間の仮説や空想をまじえないでください。人々は神の子の肉を食べ、血を飲むこと、すなわち神の言葉をその生活の一部とすることがいかに必要であるかを知らねばなりません。

原稿四四、一九〇四年

信仰の基礎的真理

私は長い間、毎日二倍の仕事ができるように望んでいました。信仰に固く立ち、このメッセージの初期の歴史に通じている証人たちの書いたものを再現する力と知恵を主に求めて来ました。一八四四年のあの時が過ぎたあと、彼らは光を受け、その光の中を歩みました。人々が、新しい光を得た、と言って聖書のいろいろな点についてすばらしいと思われるメッセージを持ってきた時、聖霊の働きによってその点についてはつきりした証が与えられ、それによってG長老が伝えているようなメッセージの影響を断ち切りました。^{*}この気の毒な人物は、聖霊が確証した真理に真正面から逆らっていたのです。

何が真理であるかを神の力が証した時、その真理は永久に真理です。神がお与えになった光に反する考えは、受け入れるべきではありません。自分にとっては真理と思われても、実は真理ではない聖書の解釈をする人たちが出てきます。この時代の真理は、神が信仰の基礎としてお与えになりました。神ご自身が、何が真理であるかを教えられたのです。いろいろな人が次々にあらわれて、神が聖霊の証明の下に与えられた光に反する新しい光を持てきます。この真理を確立する時に与えられた経験

*これは聖所問題についての教え。それは長年にわたってセブンスデー・アドベンチストが主張してきたこととは異なり、一八四四年の預言の成就を否認し、調査審判におけるキリストの奉仕を否定するものだった。

を通った人のうち、何人かはまだ生存しています。使徒ヨハネが生涯の終わり近くまでしたように、その経験を生涯の終わりまで繰り返し語るために、神が恵みの内にその命を保ってくださいている人がいます。そして、すでに亡くなった指導者たちは、書いたものの印刷を通して語ります。このようにして彼らの声が聞こえるようにすべきことを、私は指示されました。彼らはこの時代の真理を証しなければならぬのです。

私たちの持っている信仰に反するメッセージを持つてくる人々の言葉を、受け入れるべきではありません。彼らは聖句をたくさん持つてきて、彼らの主張する考えを証明しようとしています。過去五〇年間にこのようなことがたびたび起こりました。確かに聖書は神の言葉ですから、尊重されねばなりません。その適用もよく考えなければなりません。もしその適用が、この五〇年間神が支えてこられた一つの支柱でも土台から動かすものであれば、それは大きな誤りです。このような適用をする人があれば、神の民に伝えられた過去のメッセージに力を与えた聖霊の驚くべき証明を知らないのです。

G長老の証明は信頼できません。もしそれを受け入れれば、私たちを現在まで導いてきた真理に対しての神の民の信仰を破壊するでしょう。

私たちはこの問題について、はっきりしていなければなりません。彼が聖書を使って証明しようとしている点は、健全ではありません。それは、過去の神の民の経験が間違いであったことを証明してはいません。私たちは真理を持つていました。天使によって導かれたのです。聖所問題が提示された

のは、聖霊の導きによったのです。だれでも自分がかかわっていない、私たちの信仰の特徴については、沈黙を守ることが一番いいのです。神は自己に矛盾するような行動をなさる方ではありません。真実でないことを無理に証明しようとすれば、聖句はその適用を誤ることになります。次々にだれかが大きな光というものを持ってきます。そしてそれを主張します。しかし私たちは、今までの標準を守るべきです（ヨハネ第一・一ノ一―一〇引用）。

私は、これらの言葉を語ることが現在適切であることを示されました。というのは、罪を罪とすべき時が来たからです。私たちの働きは、回心していない人々によって妨げられています。彼らは自分の栄光を求めています。彼らは、真理であると主張している新しい考えの創始者と思われたいのです。しかし、このような説が受け入れられれば、過去五〇年間神がその民に与えてこられ、聖霊の証明によって確実なものとされた真理を否定することになるのです。

手紙三二九、一九〇五年

啓示された真理

「あなたは真理の言葉を正しく教え、恥じるところのない鍊達した働き人になって、神に自分をささげるように務めはげみなさい」（テモテ第二・二一ノ一五）。啓示された真理をつかみ、神の民の食物となるようにそれを取り扱ってください。

神の言葉の中に何も言われていないことについてのとりとめもない空想にふけるような人たちに

会うでしょう。神は魂の救いに影響するすべてのことについて、最も明白な言葉でお語りになりました。神は、私たちがすべての白日夢を避けることをお望みになります。そして、「きょうぶどう園に行つて働きなさい」と言われます。夜が来ます。その時には誰も働くことはできません。すべてのとりとめのない空想をやめ、目を覚まし、働き、祈りなさい。啓示された真理を学びなさい。キリストは、内容のないすべての空想を捨てることを望まれます。そして私たちに、収穫を待っている場所を示しておられます。私たちが熱心に働かなければ、永遠にわたって私たちはその責任を感じさせられるでしょう。……

使徒たちの時代には、最も愚かな異端が真理として提示されました。歴史は繰り返されましたが、将来も繰り返されるでしょう。表面は良心的に見えても、実質よりも影をつかむことを好む人たちが必ずいます。彼らは真理の代わりに誤謬を取ります。それは誤謬が新しい衣をつけているからで、何かすばらしい内容があるように彼らは考えてしまします。しかし、その覆いを取ると、つまらないものがあらわれるのです。

『レビュー・アンド・ヘラルド』一九〇一年二月五日

永遠に意味のある問題

キリストが強調なさった問題を強調なさい。彼がなさったように人々に示しなさい。私たちの永遠の幸福に関する問題を強調なさい。神の言葉から心を引き離し、いろいろな感情を引き起こすこ

とができるような新しい変わったことを、魂の敵はとても重要なことのように持ち出してきました。しかし、私たちがはつきり理解できないことは、はつきり理解できて日常生活に取り入れられることの十分の一も重要ではありません。私たちは人々に、キリストが旧約聖書からその教えの中に引用された教訓を教えるべきです。神よりの真理の言葉は、非常にわかりやすいものです。

手紙一六、一九〇三年

信仰に不必要な点

信仰の完成のためには必要でない多くの問題が取り扱われています。そのようなことを学ぶ時間はありません。有限な人間に理解できないことはたくさんあります。真理は人間の理性でわかる範囲だけ、また私たちが説明できるものだけを受け入れるべきではありません。神よりの啓示は、無限の神の言葉として全的に受け入れるべきものです。賢明な探求者はみな、イエスにある真理を見いだすべきですが、まだ単純にされていないことや、人間の心が把握し、論じられない言葉もあるのです。そういった探求は、人間的な推理や説明にならざるを得ないもので、命への香りにならないでしょう。しかし魂の救いに関することで、實際生活に取り入れなければならないすべての真理は、非常に明らかに、断定できるようにされています。

手紙八、一八九五年

第二〇章 教理上の問題に対する態度

ダニエル書八章の「常供のもの」

東西南北すべての兄弟方にお話したいことがあります。現在、盛んに争われている問題を解決するために、私の書いたものがその主な議論として用いられないようにしてください。H、I、J長老、その他の指導の立場にある兄弟方が、「常供のもの」についての自分たちの意見を支持するために私の書いたものに言及するのを、やめていただきたいのです。

これが命にかかわるような重大な問題ではないことを、私は示されました。兄弟方がそれぞれの意見の相違の重要性を拡大して考えていることは誤りです。この問題を決着させるために、私の書いたもののどれであろうと用いられることに私は同意できません。「常供のもの」の真の意味は、信仰のテ

ストとすべきではありません。

教役者である兄弟方が、この問題（「常供のもの」）についての議論において、私の書いたものを利用しないようにお願いします。というのは、私は今議論されている点については何も示されてはいませんし、論争の必要を認めてもないからです。現在の状態では、この問題については沈黙を守るというのが一番いいのです。

私たちの働きの敵は、あまり重要でない問題を用いて、私たちのメッセージの内容であるべき大きな問題から兄弟たちの心を引き離してしまうことができれば喜ぶのです。この問題はテストにする問題ではありませんから、兄弟方がこれをテストのように取り扱って敵に勝利を与えないようにお願いしたいのです。

本当にテストすべき問題

この時代に主がお与えになった働きは、人々に服従と救いについての真の光、すなわち神の戒めとイエス・キリストの証を伝えることです。

長年印刷され、多くの人を真理に導いた重要な本の中にも、それほど重要でないことで、注意深く研究し、訂正しなければならないことがあるかもしれません。これらの問題は、出版物を監督するために正規に任命された人々が考慮するようにしましょう。それ以外の兄弟方や文書伝道者、あるいは

牧師が、これらの問題を大きく取り上げ、救霊のためのよい本の影響を少なくすることのないようにしましょう。もし私たちが、教団の本を信用しないようなことをすれば、信仰から離れて行った人々の手に武器を与え、新しく真理を受け入れる人々の心を混乱させることになるでしょう。不必要に私たちの出版物を変更することは少ないほどよいのです。

夜の幻の中で、指導の立場にある兄弟方にヨハネ第一の手紙を読んだように思います。(第一章が引用されている)。

日毎の回心

兄弟方は、自己が低くされ、聖霊の支配の下に置かれなければならないということを、理解する必要があります。主は、大いなる光を与えられた者は日々悔い改めるように、と求めておられます。これは、編集の責任を持つ人々や年会の総理たちへ伝えねばならないメッセージです。私たちは光のあるうちに光の中を歩み、闇に追いつかれないようにしなければなりません。

聖霊に導かれているすべての人は、この時代に対するメッセージを与えられます。彼らは心から魂の重荷を負い、交わる人々にキリストのメッセージを伝えます。言葉において異邦人のように行動する人々は、天の宮廷に入ることはできません。兄弟方、光を受け、今の時を生かして用いなさい。今は悪い時代なのです。

サタンは、彼の側につく者たちに、忙しく働いています。光を持っていても、光の中に歩むことをしない人々は、混乱してきて、ついに闇がその心を捕らえ、その全行動を支配します。しかし神の知恵とあわれみの霊は、神のみ言葉の中にあらわれていて、服従の道を歩む人々にますます輝きを増していきます。神の正当なすべてのご要求は、聖霊の清めによって満たされます。……

心を低くして神に全く心を捧げる人には、大きな特権と祝福が与えられます。大きな光が与えられます。変えられたいと望むならば、敬虔な者へと変えられていきます。

「わたしたちすべての者は、その満ち満ちているものの中から受けて、めぐみにめぐみを加えられた」（ヨハネ一ノ一六）。「わたしの恵みはあなたに対して十分である。わたしの力は弱いところに完全にあらわれる」（コリント第二・一二ノ九）。救い主は、「わたしは、天においても地においても、いっさいの権威を授けられた。それゆえに、あなたがたは行って、すべての国民を弟子として、父と子と聖霊との名によって、彼らにバプテスマを施し、あなたがたに命じておいたいっさいのことを守るよう」に教えよ。見よ、わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいるのである」（マタイ二八ノ一八〜二〇）と言われます。

奉仕のためにこのような豊かな恵みと力が私たちに与えられているのに、これを顧みず、求めないでよいのでしょうか。私が今教会員に与えるように命じられたことは、私がワシントンにいた時と同じです。主は、一人ひとりが働くことを求めておられます。だれもほかの人の働きをすることはでき

ません。大いなる光が輝いています。しかしそれは十分に理解されず、受け入れられていないのです。もし兄弟方が神に全的に献身すれば、神は受け入れてくださいます。そして心を変化させ、命への香りとしてくださいます。兄弟姉妹方、目を覚まして主イエス・キリストを通して与えられる高い召しに応えるようにしてください。

原稿 一一、一九一〇年

テストとすべき問題ではない

働き人の兄弟方へ

愛する共労者の方々

ダニエル書八章の「常供のもの」の意味について、自分の考えを強調してきたすべての人々に申し上げたいことがあります。これはヘセブンスデー・アドベンチストの 訳者へテストとすべき問題ではありません。しかしテストになる問題として取り扱われたために起こった動揺は、非常に不幸なことでした。混乱が起きました。ある兄弟方の心は、主がこの時に都会で行わなければならないと言われた働きを慎重に考慮することから離れてしまいました。これは私たちの働きの大いなる敵を喜ばせたのです。

この問題からの動揺を増すようなことは、何もしてはならないという光が私に与えられました。私たちの説教に取り入れて、重大なことのように取り扱ってはなりません。私たちの前には大きな働きがあり、しなければならぬ大切なことから一時間でも時間を失ってはならないのです。公衆に対する働きにおいては、私たちがはっきりした光を持ち、一致している真理の大切な線にそって語りましょう。

ヨハネによる福音書一七章に記録されているキリストの最後の祈りに心を留めてください。私たちが語ることのできる多くの主題がそこにはあります。単純で美しい、テストとなる聖なる真理です。それを熱心に強く語ることができます。しかし、「常供のもの」や、兄弟方の間に論争を巻き起こすようなことは、持ち込まないようにしましょう。そうでないと、主が兄弟たちに今心を注いでほしいと思われる働きを遅らせ、妨げることになってしまいます。はっきりした意見の対立をあらわすような問題を刺激しないで、み言葉の中から神の律法の要求についての聖なる真理を語りましょう。働き人たちは、真理を最も好ましく提示するように努めるべきです。できる限り、みんなが同じ事柄を語るようにしましょう。お話を単純にし、容易に理解できる重大な問題を扱うようにしましょう。すべての働き人が、自分を低くする必要を感じるなら、その時主は彼らとともに働きになることができるのです。神のみ使いが私たちと協力し、私たちの働きの対象となっている人々の心に神よりの印象を与えることができるよう、私たちは今もう一度悔い改める必要があります。

つり合いを取ること

私たちはキリストのような一致のきずなで結ばれなければなりません。そうすれば働きが無駄になることはありません。争いが入らないようにしてください。真理の一致させる力をあらわせば、人々の心に強い印象を与えます。一致には力があります。

今は、重要でない相違点を大きくする時ではありません。主との強い生きたつながりを持っていない人が、そのクリスチャン経験の弱さを世にあらわすならば、私たちを注意深く見ている真理の敵は、それを利用して私たちの働きを妨げるでしょう。柔和を養い、心低く柔和なイエスより教訓を学びたいものです。

「常供のもの」の問題は、これまでのような動きを起こすべきではありません。この問題の双方の側の人々が、これを取り扱った方法の結果、論争が起こり、混乱が生じたのです。この問題に関して意見の相違がある現状では、それを大きくしないようにしましょう。すべての論争をやめましょう。このような時は、沈黙が一番いいのです。

この時における神の僕たちの務めは、都会にみ言葉を宣べることです。キリストは、天の宮廷からこの地上へ魂を救うために来られました。その恵みの分配者である私たちは、大都會の人々に救いの真理を知らせなければなりません。

手紙六二、一九一〇年

第二十一章 空想的な教え

妥協しないこと

私は兄弟たちにはっきりしたメッセージを伝えねばなりません。悪と妥協してはなりません。起こってくる危険な影響を大胆に処理してください。敵の力に対抗する結果を恐れてはなりません。

今日、多くの惑わしが真理として教えられています。ある兄弟たちは、私たちが支持できない見解を教えました。空想的な考えや、こじつけの奇妙な聖書解釈が入ってきました。これらの教えのあるものは、今はただの一点一画と見えるかもしれませんが、それが大きくなって経験のない人々を捕らえるわなとなるのです。

私たちにはしなければならぬはっきりした働きがあります。敵が、この時代のためのはっきりした真理の宣布から私たちの心をそらし、注意を空想的な考えに持っていくのを許してはなりません。

私たち一人ひとりが目を覚まして聖霊の働きを見ていなければ、必ずつまずき、サタンの不信の落

とし穴に陥ってしまいます。私は兄弟たちに、忠実な羊飼ひ、保護者として、誘惑の策略にさらされている、経験のない人々を守るよう、お願いします。神がこの時代のために与えられたメッセーじに対する信仰を壊す岩や流砂を、常に見張っていない必要ありません。魂に対する責任を問われる者として、人々の魂を見守ってはいようではありませんか。……

私たちは聖書を毎日探る必要があります。それは主の道を知り、宗教的な誤謬に欺かれないためです。この世は偽りの理論と、心を引きつけ、はつきりした霊的知覚を失わせる傾向のある心霊術的な考えに満ちていて、真理と神聖さから引き離そうとします。特に今日、私たちは、「あなたがたは、だれにも不誠実な言葉でだまされてはいけない」(エペソ五ノ六)という警告に耳を傾けることが必要です。

聖書を誤って解釈しないように注意しなければなりません。神の言葉の明瞭な教えは、その実体が見失われるほど霊的に解釈されてはなりません。空想を満足させるために変わった考えを持ち出して、聖書の意味を歪めてはなりません。天国には何があるかについてのむなしい空想を避けなさい。

原稿三〇、一九〇四年

生きるか死ぬかの問題

命を持ったものは殺してはならない、どんなにうるさく、苦痛を与える昆虫でも殺してはならない、

というある人の教えについて質問の手紙がきました。だれでもこのようなメッセージを人々に伝えるために神がお与えになった、と主張することができでしょうか。主は、どんな人にもこのようなメッセージをお与えになったことはありません。主はだれにでも、人間の平和と休みを乱す昆虫を殺すことは罪である、と言われたことはありません。キリストは、この種のメッセージをお与えになったことはなく、彼の弟子である者は、キリストが命じられたことだけを教えればよいのです。いつも論争したがる人々がいます。それが彼らの宗教のすべてです。彼らは何か新しい変わったことを作りだそうとしています。意味のない小さなことにこだわり、鋭い論争的な才能を働かせるのです。

とりとめのない話が、重要な真理として持ち込まれ、ある人々はそれを実際にテストにしてしまいます。このようにして論争が起こり、心は現代の真理から離れていきます。サタンは、人々がつまらないさ細なことに捕らわれると、それより大事な問題は忘れられてしまうことを知っています。彼は、つまらない重要でないことを考えたがる人々の注意を引くために、多くの材料を持ってきます。パリサイ人たちの心は、全く重要性のない問題に捕らわれていました。彼らは、神の言葉の大切な真理は脇に置いて、救いに関係のない、代々伝えられてきた伝承的な事柄を論じていたのです。そして今日も、大切な時は永遠に過ぎ去っていくのに救いの重要な問題は見過ごしにされ、つまらないことに捕らわれているのです。

兄弟姉妹方、神の言葉の中にある教えをしつかり身につけてください。聖書の豊かな真理を強調しなさい。こうすることによってのみ、あなたはキリストと一つになることができますのです。昆虫を殺すことについて論争する時間はありません。イエスはそのような重荷をお与えにはなりませんでした。「わらと麦とをくらべることができようか」（エレミヤ二二ノ二八）。こうした本筋でない議論は、終末時代の真理に比べるなら、まるで干し草やたきぎや刈り株のようなものです。神の言葉の大いなる真理を離れてこのようなことを語っている人たちは、福音を宣べ伝えているではありません。サタンが、人の心を永遠の幸福に関する真理から引き離そうとして持つてくるむなしい詭弁を、彼らは扱っているのです。彼らは、自分たちの仮説を証明するキリストの言葉を持っていません。

あなたの時間をこのような議論に用いてはなりません。あなたが教えるべき問題や、主張すべき事柄については、疑問があれば偉大な教師イエスの教えを直接に聞き、その教えに従いなさい。……あなたに注意を、「何をしたら永遠の生命を受けられましょうか」（ルカ一〇ノ二五）という問題から離してはなりません。これは生きるか死ぬかの問題で、私たちがそれぞれ解決しなければならぬ永遠にかかわる問題です。私たちが持つている厳粛な真理の重要性をこそ考えてください。安っぽい、重要でない理論に心を向ける人々は、悔い改める必要があります。……

神の言葉の権威に裏づけられない間違った理屈があちこちから出てきて、弱い人にはこれらの理屈が人を賢くする真理のように見えるのです。しかし、それらは空しいものです。ところが多くのクリ

スチャンは、安っぽい食物で満足しきっており、いわば消化不良の宗教を持っています。なぜ人々は、自分の経験を重んじないでつまらない話を寄せ集め、それを注目すべきこととして示すのでしょうか。神の民は、神の要求とは何の関係もない、あいまいで軽薄な考えを取り上げている時間はないのです。

神は、人々がまじめに率直に考えることをお望みになります。彼らは、高く、より高く向上し、さらに広い視野を持つべきです。イエスを見つめ、彼の姿に変えられねばなりません。深い、永遠の天の真理を探求することに時間を用いなければなりません。そうすれば、彼らの宗教経験に軽薄なこととはなくなるでしょう。神の言葉の壮大な真理を学ぶ時、目に見えない神を見ることができるようになります。

人の心を最も高め、高尚にする真理は、すべての真理の源である神と深くつながっていることがわかります。そして神のことを学ぶにつれて、彼らの動機も、思いやりも、確固として動かないものになります。なぜなら、全知の神によって与えられる印象は、内容があつて永続するものだからです。キリストが与えてくださる生きた水は、浅い泉がしばらくの間サラサラ流れ、すぐ枯れてしまうようなものではありません。命の水は湧き出て、永遠の命を与えるのです。

示された神のみ旨に従いましょう。そうすれば、私たちの受ける光がすべての真の光の源である神より来たものであることがわかるでしょう。キリストと協力する人々は安全です。彼らがこの世界を腐敗より救うための働きに全力を注ぐ時、神は豊かに祝福してください。キリストは私たちの模範です。彼を見る時、そのみかたちに変えられ、栄光より栄光へ、そして高潔な品性へと変えられて

いきます。これが私たちの仕事です。神は、私たちが救い主を正しく世にあらわすように助けてくださいます。

『レビユー・アンド・ヘラルド』一九〇一年八月一三日

未来の生活に対する憶測

最近、新天地で結婚や誕生があることを信じている、と言う人たちがいます。しかし聖書を信じるなら、このような教理を受け入れることはできません。新天地で子どもが生まれるという教理は、「預言の確実な言葉」（ペテロ第二・一ノ一九）ではありません。キリストの言葉は、誤解することができないほど明白です。それを見れば、新しい地における結婚や誕生の問題は、疑う余地なく解決されるはずです。死の状態から甦らされる人も、死を見ないで栄化される人も、めとりとつぎはしません。彼らはみ使いのようになり、神の家族となるのです。

キリストのこのはつきりとしたみ言葉に反する考えを持つ人々に、沈黙は雄弁です、と言いたいと思います。神がみ言葉の中にあらわしておいでにならないことについて仮定をしたり、推論したりするのは、憶測にすぎません。私たちの将来について、あれこれ推測する必要はないのです。

牧師の方々には、「御言を宣べ伝えなさい。時が良くても悪くても、それを励みなさい」（テモテ第二・四ノ二）と言いたいと思います。土台にたきぎや干し草や刈り株のような、自分の推測や憶測を持ち込んでなりません。それはだれの益にもならないのです。

キリストは、私たちの救いに必要な真理は全部明らかにしてくださいました。明らかにされた真理は、私たちや子孫のためです。しかし明らかにされていないことについて、想像で教理を作ってはなりません。

主は将来の生活を幸福にするために、あらゆる備えをしてくださいました。しかし具体的な事柄については啓示を与えておられないので、それを推測すべきではないのです。またこの世の生活の状態から、将来の生活の状態を推測すべきではありません。

命にかかわる重要なことは、聖書の中に明らかに示されています。それは、私たちが深く考える価値のあることです。しかし神が沈黙しておられることは、私たちが詮索すべきではありません。ある人々は、あがなわれた人々は白髪にならないという推測をしました。そのほかの馬鹿げた推測も出ましたが、それらは重要なことではありません。はっきりしない問題が出てきた時は、「聖書は何と言っているか」と問うべきです。

何か新しいことを望む人は、新生から生じる新しい命について調べてください。真理に従うことによって魂を清め、永遠の命を継ぐために何をなすべきかを問うた律法学者に、キリストが与えられた教えと調和して行動するようにしましょう。

『心をつくし、精神をつくし、力をつくし、思いをつくして、主なるあなたの神を愛せよ』また、『自分を愛するように、あなたの隣り人を愛せよ。……そのとおり行いなさい。そうすれば、いのちが得

られる^レ（ルカー〇ノ二七、二八）。神のみ言葉の明らかな要求にその生活を従わせる者はみな、永遠の命を継ぐのです。

原稿二八、一九〇四年

難解な問題

この働きの中には、真実であるかもしれませんが、人々に論争をもたらし、人々を備えられた大いなる晩餐に導かないような話を、彼らの前に持ち込むという危険があります。私たちは、心のうちに形造られる神の愛が、人間の性質をおさえ、和らげ、神のご性質と調和するようにしてください。ことを望みます。そうすれば人々の前に、きわめ尽くすことのできないキリストの豊かな富を示すことができるのです。その招待はキリストご自身から与えられたもので、だれでもあずかることができます。人々を、備えられた食卓に導くことは、キリストに従うすべての人の務めです。理解しにくいことを先に持ってこないようにしましょう。キリストは、人々をご馳走に招いておられ、望む人はだれでも行くことができるのです。

手紙八九、一八九八年

一四万四千

神は、心の宝庫にとどめておくべき、心を高め、気高くするスケールの大きな真理をお与えになったのに、教会の中には作り話や仮定的な話を持ち込む人たちが出てくるであろう、とキリストは言わ

れました。人間が必ずしも知る必要のないことについて、好奇心からあの説、この説を取り上げる時、それは神の導きではありません。神の民が、み言葉の中には教えられていないので自分で想像したことを人々に提示するのは、神のご計画ではありません。たとえば、一四万四千はだれかというような、霊的な助けにならない問題で論争するのは神のみ旨ではありません。このことは間もなく、神に選ばれた人にははっきりわかるでしょう。

兄弟姉妹方、神があなた方や子どもたちにお与えになった真理を感謝し、学んでください。霊的な助けにならないことに、あなたの時間を費やさないようにしましょう。「何をしたら永遠の生命が受けられましょうか」(ルカ一〇ノ二五)。これが最も大事な質問で、それにははっきりした答が与えられています。「律法にはなんと書いてあるか。あなたはどうか読むか」(ルカ一〇ノ二六)。

原稿二六、一九〇一年

キリストは一致を求められる

教会員は指導の立場にある人々の間に意見の相違があるのを見ています。そして、論争中の問題に自分も入っていきます。キリストは一致を求めておられます。しかし、間違った方法で一致することをお求めになりません。天の神は、純潔な、心を高め、気高くする真理と、偽りの間違った教理とをはっきり区別されます。彼は罪は罪とし、悔い改めていないことは悔い改めていないこととして、取

り扱われます。神は、罪の行いに水を加えないモルタルをふりかけて、うわべをかざるようことをなさいません。兄弟方が真の霊的な土台の上に一致するよう、私は訴えます。 原稿一〇、一九〇五年

優越を求めて争わないこと

お約束通り聖霊の恵みの雨が降るのに必要なことは、働き人が心にキリストを宿し、自己に死に、優越感を捨てて一致し、清められて互いに愛し合うことです。しかし、自己の優越を示すために他人の働きを割り引きするならば、その名にふさわしい仕事をしていないことの証拠です。神は彼らを祝福なさることはできません。

原稿二四、一八九六年

第二二章 極端な見解の危険^{*}_{*}

一八九〇年五月一九日、カリフォルニア州セント・ヘレナにて

K 兄弟

これより早くあなたに会って話すか、手紙を書きたいと思っていましたが、どちらもできませんでした。しかし私はあなたに深い関心を持っています。そして、あなたがこの働きから離れないように願っています。あなたと十分に話す力が私にはありません。あなたの心は明敏ですし、弁舌さわやかなので、私はひどく疲れ、私の言うことはあなたの心にはつきりと残らないだろうと思います。

私にはあなたの危険がよくわかります。あなたは考えをすぐ言葉にあらわすことができます。あな

* 『ノート・ブック・リーフレット（方法）』第四に出ている。

たは強い言葉で語り、使う言葉によく注意していません。いくつかの点についてのあなたの考えは断定的なので、兄弟たちを恐れさせます。しかしそうする必要はないのです。またあなたは、他の兄弟たちと見解が違うようにふるまって、自分をほかの人とできるだけ違うように見せるべきではありません。

あなたのよい影響力が、非常に減少していることを示されました。それはあなたが、自分でもよくわかっていない、そして全力を尽くしても他人を納得させることができない考えを強調するからです。しかし私は、あなたがそれを強調しなければならないと感じる必要はないことを示されました。あなたの考えのいくつかは正しいのですが、他の考えは不正確で間違っています。

あなたが、キリストが喜んで罪を赦してくださいと、罪人を受け入れてくださること、失われた人を救ってくださいと、希望と勇気を与えてくださることを語れば、あなたは祝福となるでしょう。しかしあなたが、他の人と違ったものを持ちたいと、このような極端な考えにこだわりの、それらを強い言葉で表現すれば、かえって多くの害を及ぼす危険があります。あなたの考えを聞いて、益を得たように思う人たちもいるかもしれませんが、もし誘惑を受けて敗北した時、彼らは信仰のよい戦いを戦う勇気を失うでしょう。

あなたは、自分が重要と思っている考えにあまりこだわらないで、またあなたの強い表現を控えるなら、あなた自身もっと信仰を持つことができるでしょう。あなたの心は、敬虔の奥義を探索し、説

明しようとして時々バランスを失います。その奥義は、あなたが研究し、説明したあとも、やはり前と同じように大いなる奥義であって、説明し尽くすことはできないのです。

回心におけるいろいろな経験

イエスを唯一の希望とし、助け主として見上げるように人々を導きなさい。主が働いてくださる余地を残して、人々の心に語り、その理解が心に残るようになさい。あなたが、新しい心とは何かとか、決して罪を犯さないようになるために、できることやしなければならぬこととかについての、すべての理由や説明を知って人々に伝えることは、ぜひしなければならぬことではありません。それはあなたの仕事ではないのです。

すべての人は一様ではありません。悔い改めも同じではないのです。イエスが心に印象を与え、人は新しい命に生まれ変わります。しばしば人は、強烈な確信もなく、心を裂くような悲しみも、自責に満ちた恐れもなく、キリストに心を引かれてきました。彼らは、十字架に上げられた救い主を見上げて、生きました。魂の必要を感じ、救い主が満たしてくださることがわかり、また彼の要求を知ったのです。また彼が、「私に従ってきなさい」と言われる声を聞いたのです。そして立つて従いました。この悔い改めは純粋で、その信仰生活はいろいろ激しい苦しみを通った人々と同じです。

牧師たちは、「あなたは、この点について私と同じように考えなければ救われぬ」という気持ちで

自分たちの特別な考えに固執することをやめなければなりません。自分を中心とした考えを捨ててください。どの場合でも、しなければならぬ大切なことは、キリストに魂を導くことです。人々は十字架上のイエスを見て生きるのです。彼らを養うのはあなたの考えではありません。神の子の肉と血です。キリストは、「わたしの肉はまことの食物」(ヨハネ六ノ五五)、「わたしがあなたがたに話した言葉は霊であり、また命である」(ヨハネ六ノ六三)と言われるのです。

キリストの働かれる余地を残す

イエスを受け入れた人は、自分自身を偉大な医師の手のもとに置きます。人間は、患者と魂の必要を知っておいになる医師イエスとの間に入ることに、注意深くなければなりません。魂の医師イエスは、その魂の欠点や病を理解し、ご自分の血であがなってこれを癒す方法をご存知です。魂の欠けているところを十分に補ってください。しかし人間はお節介で、いろいろなことをしようとしてやり過ぎ、キリストのお働きになる余地を残しません。

魂が造り変えられる必要があれば、キリストが一番よくその必要を満たしてください。確信は深くなくても、罪人がキリストのみもとに行き、十字架のキリストを見て、正しくない者のために正しい者が死なれた光景を見れば、すべての障壁は打ち破られるでしょう。キリストは、救われるために彼により頼むすべての人を救うことを企てられたのです。彼は正しくされなければなら

ない悪、おさえなければならぬ悪を見られました。彼は失われたものを探し、これを救うために来られたのです。「わたしに来る者を決して拒みはしない」(ヨハネ六ノ三七)。

キリストの慈しみとあわれみによって、罪人はふたたび神の恵みを受けるものとなります。神は、キリストにあつて日毎に人間が神と和解するよう、求めておられます。腕を広げて、彼は罪人だけでなく、放蕩息子も受け入れ、歓迎してくださるのです。死をかけてカルバリーであらわされた愛は、罪人が受け入れられ、平和と愛を与えられる確証です。これらのことを単純な形で教え、罪のために暗くなった心がカルバリーの十字架より来る光を見ることができるようになってください。

サタンは多くの方法で働きます。使命を伝えるべき人々が細かな議論に捕らわれるように、サタンはそれが心全体を満たすほど大事なもののように思わせるのです。彼らは、自分たちはその経験の中ですばらしい進歩をしていると思いますが、実はいくつかの考えを偶像化しているのであつて、その感化は損なわれ、主の側から見れば何の益にもなっていないのです。

牧師はみな、何がキリストの心かを確かめるために熱心な努力をしなければなりません。あることについては、あなたの心がもっとよくバランスが取れないと、あなたの行動はあなたをこの働きから引き離す結果となり、自分では何につまずいたかもわからないようなことになるでしょう。そしてあなたは、言わなかった方がいような考えを持ち出すようになるでしょう。

神の言葉や証の書の一部から、自分の考えに合うように解釈できるバラバラの章句や文章を取り上

げてこれを強調し、神は導いておいでにならないのに自分の立場を築く人々がいます。ここにあなたの危険があります。

あなたは証の中の、恵みの時の終わりや神の民のふるいの時についての文を取り出し、この民から出てもっと清められた聖なる民が起こることについて語ります。こうすることは敵を喜ばせます。私たちは、相違点を作り、不和を生じるようなことを不必要になすべきではありません。自分たちの特別の考えが受け入れられないと、それは牧師たちが理解と信仰を欠き、闇の中を歩いているからだと考えてはならないのです。

あなたの心は、長い間不自然な緊張状態にありました。あなたは多くの尊い真理を持っています。しかしそれらは架空的な考えと混じっています。あなたの極端な考えと、強い言葉が、あなたの最善の努力の効果をなくしてしまうのです。あなたの考えを多くの人が受け入れ、それを語り、またそのように行動したら、セブンスデー・アドベンチストの間でいまだかつて見られなかったような最大の狂信的な興奮が起きるでしょう。サタンはそれを望んでいるのです。

わからないことはそのままに

キリストの教訓の中には、あなたが語ることでできる多くの題目があります。あなたも聴衆も理解できない、説明できないことは、触れない方がいいのです。主イエス・キリストご自身が教えてくだ

さる余地を残しなさい。み霊の感化によって、驚くべき救いの計画を理解できるよう、キリストに心を開いていただきましょう。

神の民に悩みの時が来ます。しかし私たちは、それをいつも人々の前にかかげ、悩みの時が来る前に悩みを与えるようにすべきではありません。神の民の間にふるいの時が来ます。しかしこれは教会に与えるべき現代の真理ではありません。……

牧師たちは、自分が何かすばらしい進歩的な考えを持っていて、これを受け入れない人々はふるわれ、ほかの人々が起こって前進し、勝利に至ると考えてはなりません。神がこの時代のために与えられた使命の原則に逆らっている人々が、あなた自身と同じようなことを語っています。彼らはあなたの極端な見解と教えを、自分が主のメッセージを受け入れるのを怠っている言い訳にしているのです。

人々がキリストより前に出て、人間の手にゆだねられていないことをする時、彼らが富み、かつ豊かで、何の必要も感じないラオデキヤのなまぬるい状態にあるときと同様に、サタンの目的は達せられるのです。この二種類の人々はどちらもつまずきの石となります。

ある熱心な人々は、独創的なことを目指し、全力をあげて努力しています。人々の前に何か目立つような驚くべきことをして、心を引きつけ、人が理解できないようなことをしようとして試みて大きな間違いをしました。彼らは自分自身でも何を語っているのかわかっていないのです。彼らは神の言葉を憶測して、自分にも教会にも全く益にならない考えを述べます。彼らは、しばらくはその想像的な考

えで興奮するかもしれませんが、反動がきて、その考えそのものが妨害となります。信仰は空想と混同され、彼らの見解は心を間違った方向に偏らせてしまうのです。

神の言葉の明白で単純な文章を心の糧としましょう。そこにはつきり書かれていない考えを想像するのは危険なことです。

あなたは生来闘争的です。あなたは兄弟たちと調和していくことにあまり心を留めません。論争を好み、自分の特殊な考えのために戦うことを好みます。しかし、それはクリスチャンの品性を育てませんから、やめるべきです。キリストが父と一つであるように、キリストの弟子も、一つとなることを祈られたキリストの祈りに、全力をあげて応えてください。

日毎にイエスに学ばなければ、私たちのうち一人として安全ではありません。イエスの柔和、イエスの謙遜を学ぶことです。どこに行って働くにも、独裁的で、厳しく、敵意を持つてはなりません。キリストの愛を説教なさい。それは人の心を溶かし、静めるでしょう。一つの心になり、一つの判断を持ち、兄弟たちと調和して近づき、一致を保ってください。

分裂について語らない

すべての人が意見を述べる時、同じでないからといって分裂を考えるのは、神の業ではなくサタンの業です。あなたが同意できる単純な真理を語りなさい。一致を語り、心を狭くせず、独断的になら

ず、心を広げなさい。

キリストは人間の計りで品性をお計りになりません。キリストは、「わたしがこの地から上げられる時には、すべての人をわたしのところに引きよせるであろう」(ヨハネ一二ノ三二)と言われます。この招待に応える人は、すべて罪より離れます。キリストは、彼に来る者を全くお救いになることができるのです。イエスに来る者は、地から天に続く梯子に足をかけたのです。神は梯子の上におられ、その栄光の輝かしい光が梯子の段一つ一つに輝いていることを、声やペンによって教えなさい。神は、上に向かって苦痛を忍びつつ登っている人の手が疲れ、足が震える時、助けを与えようとしてやさしく見守っておられます。そうです。そのことを語りなさい。正しく伝えるなら、その言葉は心を溶かし、忍耐をもって梯子を登る人のうち一人として主なるイエス・キリストの永遠のみ国に入ることができる人はいのです。キリストを信じる人は、滅びることも、キリストの手からもぎ取られることもありません。

人々に、はっきりした希望に満ちた言葉で、私たちが当然受けるべき恥の遺産をいかにして逃れることができるかを告げなさい。しかしキリストのために、彼らを失望させるようなことは言わないでください。そうでないと天国への道が非常に困難なものに見えてくるでしょう。人を緊張させるような考えは、あなた自身にとどめておくことです。

クリスチャン生活は確かに戦いの生活であり、一瞬でも霊的に見張りをゆるめることは危険です。

いつも目をさまし、祈り、労していなければならぬことを忘れてはなりません。しかし私たちを愛し、私たちが滅びないで永遠の命を得るために、ご自身を捧げられたイエスの救いの完全さをこそ、説教のテーマとすべきです。

日毎に神とともに歩み、日々主を知り、イエスの血によって至聖所に入り、私たちの前におかれた望みをしっかりとつかんで歩きましょう。天に行くためには、心を仲保者に結びつけ、神のご性質にあずかるものとならなければなりません。キリストに頼るとき、あなたの命はキリストとともに神の内に隠れ、神のみ霊に導かれて、あなたは純粋な信仰を持つのです。

キリストの贖罪の犠牲の効力を完全に信じる時、私たちは神とともに働くものとなります。キリストのいさおしに頼り、恐れおののきつつ、私たちの救いを成就しなければなりません。なぜなら、私たちのうちに働きかけて、その願いを起こさせ、かつ実現に至らせるのは神だからです。常にキリストとともにいることによって、神に近づくことができます。イエスは、私たちがいつもこのことを第一にするように望まれます。争いの精神を起こしてはなりません。上よりの知恵は、第一に清く、次に平和、寛容、温順であり、あわれみとよい実とに満ちているのです。……

兄弟たちと調和する

自分の想像したすべての考えを第一にしなければならないなど考えてはなりません。イエスは弟

子たちに言われました。「わたしには、あなたがたに言うべきことがまだ多くあるが、あなたがたは今
はそれに堪えられない」(ヨハネ一六ノ一二)。常に過ちに陥りやすい私たちは、他の人が受け入れる
用意のできていないことを押しつけないように、十分注意しなければなりません。いつもイエスを見
つめ、あなたの強い、誇張した表現をおさえるようになさい。あなたは考えや言葉に注意しなければ
なりません、働きを全くやめる必要はありません。兄弟方といつも調和を保ってください。そうす
れば主のぶどう園であなたの働きはたくさんあるでしょう。しかしキリストを高く掲げるべきであつ
て、自分の考えや見解を高く掲げてはなりません。武器をつけ、神の働き人とともに肩を並べて歩み、
敵に対する戦いをしてください。イエスのうちに隠れ、キリストの単純な教えを保ち、神の群れを養
えば、あなたは安定し、強くなり、立場も固まります。そして、ほかの人々を最も聖なる信仰に固く
立たせることができるでしょう。

キリストの恵みや聖霊の働きについて、あなたの理解が他の兄弟たちの理解と異なるなら、その相
違点を全面に出すべきではありません。あなたは一つの点から見ており、あなたと同様神に献身して
いるほかの人はほかの点から見て、自分の心に深い印象を与えたことを語るのです。またほかの人は
さらに違った点から見て、違った面を話します。そして、争う理由もないのに、これらのことについ
て争いに陥るのは、まことに愚かなことです。神が心に働いてくださり、印象を与えてくださいます
ように。

主は常に働き、理解を与えてくださり、知覚を鋭くし、人間が正しい罪の意識を持ち、神の律法がいつまでも変わらない要求を持っていることについて、正しい考えを持つことができるようにしてください。悔い改めない人は、神のことを愛のない厳しい報復をする方だと思っています。神の臨在は、常に人間を制限するものと思っています。また、神のご品性は、「汝……すべからず」という言葉に表現されていて、神に仕えることは暗い、厳しい要求であると思っています。しかし、十字架上のイエスが、人間を愛される神からの賜物であることがわかると、目が開かれて新しい光で見えるようになります。キリストのうちにあらわされた神は、厳しい裁判官ではなく、報復する暴君でもなく、慈しみと愛に富んだ父なのです。

失われた人間を救うために十字架で死なれたイエスを見る時、心にはヨハネの言葉が鳴り響いてきます。「わたしたちが神の子と呼ばれるためには、どんなに大きな愛を父から賜わったことか、よく考えてみなさい。わたしたちは、すでに神の子なのである。世がわたしたちを知らないのは、父を知らなかったからである」(ヨハネ第一・三ノ一)。クリスチャンとそうでない人の最も決定的な違いは、神をいかに考えるかということです。

神のみ事業において、ある働き人たちは罪人をすぐ非難します。罪を犯した人類のためにそのみ子を死にわたされた父なる神の恵みは、後の方に置かれています。教師は、神がいかなるお方であるかを罪人に知らせるために、自分の魂に対するキリストの恵みをよく知ることが必要です。帰ってくる

放蕩息子を怒って責めるのではなく、歓迎して受け入れるための喜びの祝宴を備え、燃えるような愛をもって待っている父親のように、神は罪人を待っていておいでになるのです（ゼパニヤ三ノ一四―一七）。魂をキリストに導くにあたって、私たちみんなが主の方法を学ぶことができたならどんなにいいでしょう。私たちはカルバリの十字架の犠牲から来る光の中で、尊い教訓を学び、教えなければなりません。滅びから逃れて、常に登っていく道は一つです。それは常に暗黒より光へ進み、神のみ座に至る信仰です。この教訓を学んだ人々は、彼らが理解した光を受け入れました。彼らにとって上へ登る道は、暗い、不確実な道ではありません。それは有限な人間の道ではなく、人間が工夫して作った道、すべての旅人から税を取り立てるような道ではありません。

あなたはざんげの苦行や、あなたができる行いによってその道に入ることはできません。それは、神のみが備えてくださることのできる道です。それは非常に完全で、人間ができるどんな業によっても、それ以上完全にすることはできません。その道は、最大の罪人でも、もし彼が悔い改めるなら通ることができません。またそれは非常に狭く、清く、高いので、罪はそこに入ることができません。

神の真のみ姿が見えた時、祝福に満ちた真理は、新しい、よりはっきりした光で輝きます。心を困惑させていたものは、義の太陽の明るい光によってなくなってしまいました。しかし私たちが知らない多くのことがあります。しかし今知らないことも、今後知るであろうという祝福に満ちた保証があるのです。

手紙一五a、一八九〇年

第二三章 時を定めることを警戒せよ

「時と場合はあなた方の知る限りではない^{*}」

「イエスは苦難を受けたのち、自分の生きていることを数々の確かな証拠によって示し、四十日にわたってたびたび彼らに現れて、神の国のことを語られた。そして食事を共にしているとき、彼らに命令じになった、『エルサレムから離れないで、かねてわたしから聞いていた父の約束を待っているがよい。すなわち、ヨハネは水でバプテスマを授けたが、あなたがたは間もなく聖霊によって、バプテスマを授けられるであらう』。さて、弟子たちが一緒に集まったとき、イエスに問うて言った、『主よ、

* 一八九一年九月五日、ミシガン州ランシングにおける説教。

イスラエルのために国を復興なさるのは、この時なのですか」。彼らに言われた、「時期や場合は、父がご自分の権威によって定めておられるのであって、あなたがたの知る限りではない。」（使徒行伝一ノ三―七）。

弟子たちは、神の国のあらわれる正確な時を知りたいと思いましたが、イエスは、時期や場合を彼らは知ることができない、なぜなら父なる神が示しておられないからである、と言われました。神の国がいつ回復されるかを知ることが、彼らが知るべき最も大切なことではなかったのです。彼らは主に従って、祈り、待ち、目を覚まし、そして働くことが務めでした。彼らは、キリストの品性を世に代表する者となるべきでした。弟子たちの時代に、成功するクリスチャン経験にとって不可欠であったことは、今日も不可欠です。「彼らに言われた、『時期や場合は、父がご自分の権威によって定めておられるのであって、あなたがたの知る限りではない。ただ、聖霊があなたがたにくだる時、あなたがたは力を受けて、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、さらに地のはてまで、わたしの証人となるであろう。』」（使徒行伝一ノ七、八）。

現代の機会を生かす

これが私たちもなすべき仕事です。ある特別な、興奮するような時を期待して生活するのではなく、人々の救いのために、しなければならぬことをして、きょうの機会を賢く生かすべきです。主がご

自身の権威の中に置かれ、人々に示しておられない時期と場合について想像することに心の力を使い果たしたりしないで、私たち自身を聖霊の支配に任せ、現在の義務を果たし、人間の意見を交えない命のパンを、真理がないために滅びつつある魂に与えねばなりません。

サタンは常に人々の心を現代の真理から引き離すような理屈や想像で満たそうとしています。そして彼らを、第三天使の使命を世の人に伝えるのにふさわしくないものとするのです。過去においてもそうでした。救い主は、空想にふけり、主があらわしておられないことに心を注ぐ人々をとがめておられます。イエスは、重要な真理を人々に与えるために地上へ来られました。そして彼は、人々が彼の教えを受け、これに従い、現在の義務を果たす必要を常に心に刻みつけることを望まれました。キリストの教えは、その知識が直接、日毎に用いられるような性質のものだったのです。

イエスは、「永遠の命とは、唯一の、まことの神でいますあなたと、また、あなたがかわされたイエス・キリストとを知ることにあります」(ヨハネ一七ノ三)と言われました。すべての行動や言葉には、この一つの目的があったのです。それは、彼らが永遠の命を得ることができるような真理を心に植えつけることでした。イエスが来られたのは、何か重大事件が起こる特別な時を布告して人々を驚かすためではありませんでした。彼が来られたのは、失われた人々を教え、救うためでした。好奇心を起こさせ、それを満足させるためではありませんでした。イエスは、そのような知識はますます好奇心を増し、驚くべきことを求めるようになるだけであることを知っておられたからです。彼の目的

は、人々が霊的な力を増し、彼らが服従と真の清潔の道に前進できるような、そうした知識を与えることでした。彼が教えられたものは、人間の毎日の生活の必要を満たし、また同様の必要を持っている人々に分け与えることができる真理でした。

キリストは、人々に新しいことをお教えになったのではなく、長い間祭司や教師たちの誤った教えによって不鮮明にされたり、間違った場所に置かれたりしていた真理を、正しくわかるようになさったのでした。イエスは神の真理の宝石を、祖父や預言者たちに与えた順序で正しい位置に置き返してくださいだったので。そして、この尊い教訓をお与えになったあとで、彼が言われたすべてのことを思い起こすことができるように、聖霊を与える約束をなさったのでした。

私たちには、単純な福音を複雑にする危険が常にあります。多くの人々には、何か独創的なもので世を驚かせ、霊的陶醉の状態になって、現在の状態とは違った経験に入りたいという強い希望があります。現在の経験を変えることは確かに必要です。それは現代の真理の神聖さが十分に理解されていないからです。必要なのは心の変化です。それは、個人的に神の祝福とみ力を求め、神の恵みによって私たちの品性が改変されるよう、熱心に祈ることによってのみ得られるのです。これが今日必要な変化です。この経験に到達するためには、私たちはたゆまず力を働かせ、心からの熱心をあらわす必要があります。真に心から「救われるために何をなすべきか」と問わねばなりません。天国に行くには、どんな段階を取るべきかを知っていなければならないのです。

時を定めることについての警告

キリストは弟子たちに真理をお与えになりましたが、その広さ、深さ、価値を、彼らはほとんど評価できず、理解することもできませんでした。同じ状態が今日の神の民の間にも見られます。私たちも、今日神が私たちにゆだねておられる真理の偉大さ、美しさを認めることができないのです。もし私たちが霊的知識に成長するなら、私たちが夢想もしなかった方面に真理が伸び広がっていくのを見るでしょう。しかし、父なる神がご自分の権威のうちに置かれた時期と場合を想像する方向には決して導きません。私は、何度も何度も、時を定めることに関して警告を受けました。時を土台にしたメッセー・ジがふたたび神の民に与えられることは決まていないでしょう。私たちは聖霊の降下についても、キリストの再臨についても、確定した時を知ることにはないのです。

私はこの集会へ来る前に、何をオーストラリアに持って行くべきか調べていました。そして私は、「時を定めることに関して与えられた証。注意して保存すること」と、表書きに書いてある封筒を見つけました。私はそれを開きました。これがその書類です。次のように書いてあります。

「主がホワイト姉妹に与えられた幻の写し。一八五一年六月二一日、ニューヨーク州カムデンにて。主は私に示された。メッセー・ジを出さねばならない。それは時に関するものではない。時がふたたびテストになることは決まてない。ある人々が、時を宣べ伝えることから起こる偽りの興奮にかられるのを私は見た。第三天使の使命は時によって強める必要はなく、自分の土台で立つことができ、大い

なる力を持つてその業をなし、義のうちに速やかになされる。

ある人々が、すべてのことをこの秋をめどにしているのを私は見た。すなわち、自分たちで予測して財産の処分もその時を基準にして行っている。これは次の理由で正しくないことを私は見た。彼らは、神のもとに毎日行つて熱心に自分の現在の義務を知るところを求めないで、将来を見、働きのこの秋に終わることがわかっているかのように自分たちで予測している。彼らは毎日、神に自分たちの義務について尋ねることをしない。 E・G・ホワイト

ミルトンにて筆写。一八五一年六月二十九日、AAG¹

先週の月曜日、書いたものを探していた時に、これを見つけたのです。それとも一つ、一八八四年に、時を定め、その理由を証明するため、自分の主張をふれ回っていた人についての文書がありました。彼がしていたことの報告は、ミシガン州ジャクソンでのキャンプ・ミーティングの時、私の所に届きました。私は人々に、この人の話に気を留める必要はない、と言いました。彼が預言したできごととは起こらないからです。時期と場合は、神がご自分の権威のうちに置かれています。どうしてもこの知識を、神は人間にお与えにならなかったのでしょうか。それは、神がお与えになっても、私たちはそれを正しく用いることをしないからです。もしそのことがわかると、来るべき大いなる日に立つ民を備える神の業を、非常に後退させるような状態が起こるからです。私たちは時期に関連した興奮によつて生きるべきではありません。神があらわしておられない時期と場合についての空想に、夢中

になるべきではありません。イエスは弟子たちに、「目を覚ましていなさい」と言われましたが、確定した時については何も言われませんでした。彼に従う者は、指令官の命令を注意して聞く人のような立場を取るべきです。彼らは再臨の時が近づくにつれて、目を覚まし、待ち、祈り、働くべきです。しかしだれも、いつその時が来るかを正確に預言することはできません。なぜなら、「その日、その時を知るものはない」と言われているからです。あなたは、一年、二年、あるいは五年のうちにキリストが来られると言うことはできませんし、また、主の来臨はここ一〇年、あるいは二〇年はないかもしれない、と言って延ばすこともできないのです。

あかりを整えて燃やすこと

花婿が婚宴から帰ってくるのを待つ人々のように、あかりを整え、燃やしておくことが、神の民の務めです。あなたは、備えられた大いなる救いをおろそかにして一瞬でも失うことはできません。恵みの期間は終わりに近づいています。毎日毎日、人間の運命は決まって行きます。この会衆からでも、いつ多くの人々が死の眠りについて墓に入るか、だれも知りません。私たちは今、私たちの命が速やかに過ぎ去りつつあることを考えなければなりません。ですから、私たちの命がキリストとともに神のうちに隠れていなければ、一瞬たりとも安全ではないのです。私たちの義務は、特別な時に特別なことが、私たちのためになされるのを待つことではなく、世界に警告を与える働きに前進すること

す。私たちは地の果てまで、キリストの証人でなければならぬからです。

私たちの周囲には、若い、かたくなな、悔い改めていない人々がいます。彼らのために私たちは何をしているでしょうか。両親方よ、初めに愛の熱心を持って自分の子どもたちの回心を求めていますか。それとも、この世の雑用に追われて、神の共労者となる熱心な努力を怠っているのでしょうか。あなたは聖霊の働きと使命について感謝していますか。聖霊は周囲の魂に近づく助け主であることを悟っていますか。この集会が終わった時、ここから出て行って、あなたになされた熱心な訴えを忘れてしまうでしょうか。警告のメッセージは注意を払われず、あなたが聞いた真理は、水がこわれた器からもれるように、あなたの心からもれていくのでしょうか。

使徒は言います。「こういうわけだから、わたしたちは聞かされていることを、いつそう強く心に留めねばならない。そうでないと、おし流されてしまう。というのは、御使たちをとおして語られた御言が効力を持ち、あらゆる罪過と不従順とに対して正当な報いが加えられたとすれば、わたしたちは、こんなに尊い救をなおざりにしては、どうして報いをのがれることができようか。この救は、初め主によって語られたものであって、聞いた人々からわたしたちにあかしされ、さらに神も、しるしと不思議とさまざまな力あるわざとにより、また、御旨に従い聖霊を各自に賜うことによって、あかしをされたのである」(ヘブル二ノ一―四)。

第三天使のメッセージは、拡大して大いなる叫びとなります。あなたは、現在の義務をおろそかに

していて、将来驚くべきリバイバルが起こる時、何の努力もしないで大いなる祝福を受けることができると考えてはなりません。きょう、あなたは自分自身を神に捧げ、神によって誉れある器としていただき、神のご奉仕にふさわしいものとしていただかねばなりません。自己を空しくし、そねみ、ねたみ、悪い推量、争いや神を辱めるすべてのことを取り去るために、きょう、あなた自身を神に捧げましょう。きょう、あなたの器を清めていただいて、天の露を受ける準備をし、後の雨を受ける備えをしてください。後の雨が来て、神の祝福が、すべての汚れを清めた魂を満たすのです。主のみ前より来る慰めの時にふさわしくなるために、すなわち聖霊のバプテスマにふさわしくなるために、私たちの心をキリストに捧げることが、今日の私たちの務めです。

『レビュー・アンド・ヘラルド』一八九二年三月二二日

時は示されていない

神はこの使命がいつ終わるかとか、恵みの時がいつ終わるかについて、時を示してはられません。あらわされたことは、私たちや子孫のために受け取りますが、全能の神の会議の中であらわされていないものは、知ろうとしないようにしましょう。目を覚まし、働き、待ち、滅びようとしている人々のために労することが、私たちの務めです。キリストのみ足の跡を常に歩み、キリストの方針にそつ

て働き、神の多くの恵みのよい管理者としてその賜物を分配していくべきです。サタンは、毎日イエスについて学んでいない人にはだれにでも、この時代の驚くべき真理の効果がなくなるよう、自分の作った特別なメッセージを与えます。

恵みの時がいつ終わるかについて特別な光が与えられたか、と尋ねる手紙を受け取りました。私は、昼が続いている今が働くべき時で、夜が来るとだれも働けなくなるというメッセージのほかは与えられていません、と答えます。今が、今こそが、目を覚まし、働き、待つ時です。主のみ言葉は、万物の終わりが近づいているという事実を明らかにしています。そして、すべての人にとって、心に真理が深く植えつけられ、それが生活を支配し、品性を清めるものとならねばならないということを、み言葉は決定的に証しています。神のみ霊は、靈感の言葉の真理を取り、それを心に刻み、キリストに従うと告白する者たちが清い喜びを持ち、他の人々に分け与えることができるようにしてくださいます。私たちが働く好機は今です。昼が続いている今なのです。しかしだれに対しても、できれば恵みの時の終わりを確かめるために聖書を調べよ、というような命令はありません。いかなる人にも神はこのようなメッセージをお与えになってはいないのです。神は、ご自分がその秘密の会議で隠されたことを、人間が宣べ伝えることをお求めにはなりません。

『レビュー・アンド・ヘラルド』一八九四年一〇月九日

目を覚まして祈りなさい

聖霊の降下する特別な時について、すなわち大いなるみ使いが天より下り、第三天使と協力してこの世に対する働きを終結させる時については、特別に示されてはいません。私のメッセージは、あかりを整え、燃やして、天からの慰めの時の準備をしておくことが唯一の安全な道だということです。キリストは、目を覚ましていなさい、と言われました。「思いがけない時に人の子が来るからである」。「目を覚まし、祈りなさい」が、あがない主の与えられた命令です。魂と品性に対する定められた働きができるように、毎日毎日聖霊の啓発を求めなさい。つまらないことに、いかに多くの時が浪費されていることでしょう。神のみ前より慰めの時が来て、あなたの罪が消されるように悔い改めなさい。

『レビュー・アンド・ヘラルド』一八九二年三月二十九日

第二四章 アルファとオメガ

「一九〇四年の夏、J・H・ケロッグ博士が汎神論を唱え、また医事伝道の運動について健全でない方針を主張した危機的時点において、エレン・G・ホワイトはたびたび警告を与え、それがまとめられて六〇ページのパンフレットとして著者に代わって出版されました。それが『特別な証（シリーズB）』第二で、「医師や牧師への手紙を含む、教会に対する証。現在の状態に関する警告と勧告の言葉」と題されています。その中の二通の手紙は、「アルファとオメガ」についてです。次の文は、このパンフレットから取られたもので、その全文です。汎神論についての勧告は、さらに『証』の八巻二五五〜三一八ページと、『ミニストリー・オブ・ヒーリング』の四二七〜四三八ページに出ています。汎神論問題の背景については、A・G・ダニエルズの『アバイディング・ギフト・オブ・プロフェシー』三三〇〜三四二ページとL・H・クリスチャンの『み霊の賜物の実』二七七〜二九六ページ参照。編者」

み言葉を教えよ

一九〇四年七月二十四日、ワシントンD・Cにて

指導の立場にある医師たちへ

愛する働き人のみなさん、私は一時に目を覚ましました。私の前を過ぎていったものが、非常に鮮やかであつたので、私は眠ることができません。主の言葉が臨み、私たちの医事伝道者は、彼らを取りまく危険について嚴重に警告されねばならない、と告げられました。

主は、私たちの病院に関係している人々はもつと高い標準に達しなければならない、と言われます。真理から偽りは出てきません。もし私たちが、巧みに工夫された作り話に従っているならば、私たちは神とキリストに逆らい、敵の軍勢と合同しているのです。神は、人間が作ったくびきを負っている人々がそれを壊し、人間の奴隷とならないように求められます。

戦いは続いています。サタンとその使いたちは、あらゆる不義の惑わしを持って働いています。彼らは魂を真理と義より引き離し、破滅を全宇宙に広げるために、たゆまず活動しています。彼らは魂をとりこにしようと種々の欺まんを持ってきて、驚くべき努力をしています。彼らがその努力をやめ

ることはありません。敵は、魂を不信と懷疑に陥れようとして常に働いています。彼は神とキリストを排除しようとしています。しかし、キリストは神のみ旨に従うことによって罪に勝利することを教えるために肉体を取って人間の間に住まわれたのでした。

あらゆる形の悪に攻撃される

あらゆる形の悪が、私たちを攻撃する機会をねらっています。へつらい、わいろ、誘惑、すばらしい気持ちの高揚の約束などが、最もしばしば用いられます。

この悪に対して、「主はかく言われる」という防壁を築くために、神の僕たちは何をしているでしょうか。敵の勢力は真理に勝とうとして、常に働いています。主の群れの忠実な保護者たちは、どこにいますでしょうか。神の物見はどこにありますか。高い塔の上に立って、危険信号を発していますか。それとも危険を見過ごしていますか。医事伝道者はどこにありますか。彼らはキリストのくびきを負い、キリストの協力者となっていますか。それとも人間の作ったくびきを負っているのでしょうか。

サタンと彼の天使たちは、人々が偽りや心を喜ばす作り話によって心が動かされるように、あらゆる努力をして心を支配しようとしています。私たちの医師たちは、危険信号をかかげているでしょうか。私たちの病院で指導的な立場に置かれてきた人々は、危険信号をかかげていますか。それとも、長い間真理を避けてきた人々が、ますます鋭くなった弁舌や考えで混乱を引き起こし、真理の敵の計

画を実行しているのに、多くの物見は眠っているのではないのでしょうか。

コロサイ人に対するパウロの奨励を読んでください。彼は、信者の心が「愛によって結び合わされることを心から望み、「豊かな理解力を十分に与えられ、神の奥義なるキリストを知るに至るためである。キリストのうちには、知恵と知識との宝が、いつさい隠されている」(コロサイ二ノ二、三)と言っています。そして、「わたしがこう言うのは、あなたがたが、だれにも巧みな言葉で迷わされることのないためである。……このように、あなたがたは主キリスト・イエスを受け入れたのだから、彼にあって歩きなさい。また、彼に根ざし、彼にあって建てられ、そして教えられたように、信仰が確立されて、あふれるばかり感謝しなさい。あなたがたは、むなしいだましごとの哲学で、人のとりこにされないように、気をつけなさい。それはキリストに従わず、世のもるもろの靈力に従う人間の言伝えに基づくものにすぎない。キリストにこそ、満ちみちているいつさいの神の徳が、かたちをとって宿っており」(コロサイ二ノ四、六、九)と言っているのです。

私たちの伝道機関の人々は、陰險な虚偽が広がって魂が滅びていくのを黙って見ているのでしょうか。敵の考えがいたる所にまき散らされています。不和、不信、不義の種が、広くまかれています。私たちの医事伝道者たちはこの悪に対して、防壁を築いているのでしょうか。真理を宣べ伝える働きを、敵は阻止していますが、私たちがそれを許しているのではないかと反省すべき時ではないのでしょうか。私たちは、命の流れとしての福音の祝福がこの世に流れ込むための通路であるべきですが、そのこと

をサタンに妨げられていていいのでしょうか。今はすべての人が立ち上がり、機会を捕らえて働くべき時です。時がよくても悪くても、み言葉を語り、励ましと働きを成功させる力とをいただくために、キリストに頼っていきましょう。

危険は常に増大する

私たちが直面する危険は、常に増大します。今は神の全き武具をつけ、サタンが少しでも有利になるのを熱心に防がねばならない時です。力にまざる神の天使たちは、戦いが激しいために私たちの信仰が弱くならないよう、助けを求められるのを待っています。新たな力が今、必要です。油断のない行動が必要です。無頓着と怠惰は、個人の信仰も天国も失わせるでしょう。

この時に、ラオデキヤのメッセージが、眠っている教会の目を覚ますために与えられなければなりません。時が迫っていることを考えて、熱心な、たゆまない努力をしてください。サタンは大いなる力を持って下ってきて、滅びる人々にすべての不義の惑わしをもって働きます。

何年もの間、私たちの医師たちは、彼らのかしらの考えと異なる考えを言ってはならないと思うようにしつけられてきました。そのくびきを壊しておけばよかったのです。彼らが、罪を罪と呼べばよ

* J・H・ケロッグ博士のこと。彼は長年の間バトル・クリーク・サンタリウムの院長であった。

かったのです。そうすれば、み事業の重い責任を持ちながら、神の言葉に反することを譴責して真理を語ることに失敗した人たち、と天の宮廷でみなされることもなかったはずです。

医師たちよ。聖書の空想的な、心靈術的な解釈、私たちの信仰の土台を危うくするような解釈に耳を傾けていながら、主の業をしていたと言うことができますか。心の平和を保つことができましたか。神は、「あなたが目を覚まして救い主を擁護するのでなければ、私はあなたとともにはいない」と言われます。

信仰の柱を危うくする詭弁

あなた方に対する私のメッセージは、真理を曲げる言葉を黙って聞いていないで抗議をしなさい、ということですよ。うぬぼれた詭弁の仮面をはぎましょう。もし、そうした詭弁が受け入れられると、牧師、医師、医事伝道者たちが真理を無視するようになるでしょう。今は、すべての人が自衛のために立ち上がらねばならない時です。神は男と女を、王なるインマヌエルの血に染まった旗の下に立つよう、召しておられます。私は人々に警告を与えるように示されました。それは多くの人々が、信仰の支柱を危うくする理屈や詭弁を受け入れる恐れがあるからです。

時々、私たちの医師たちは疲れて困惑し、話し合いをするのに不適當な状態で何時間も話し合いをします。医事伝道者たちは、夜、長い時間の話し合いをすることを拒否すべきです。このような夜の

話し合いの時、サタンは誘惑して一人ひとりから、聖徒にひとたび伝えられた信仰を奪い取るのです。輝いたすばらしいと思われる考えが、大いなる欺まん者の影響を受けた心にひらめきます。これを聞いて同意する人々は、エバが蛇の言葉にひかれたように心を引かれます。哲学的な空想に心を引かれながら、同時に生ける神の言葉をはっきり心に保つことはできません。

私たちの医師は、間違った取り引きを見、間違った言葉が語られるのを聞き、間違った原則が取り上げられるのを見ても、自分たちが排斥されるのを恐れて譴責の言葉を出さなかったために、自分たちの生活から多くのものを失いました。

心を縛るような影響を受けてきた人々が、長い間屈服してきたくびきを壊し、キリストにある自由人として立つように、私は訴えます。決定的な努力をしなければ、彼らの上にあるサタンの力から逃れることはできないでしょう。

アルファが今見られる

欺かれてはいけません。多くの人々は、惑わす霊と悪霊の教えとに気を取られて、信仰から離れ去るでしょう。私たちはこの危険のアルファを、私たちの前に見えています。オメガは、きわめて驚くべき性質のものとなるでしょう。

私たちは、キリストが裁判と十字架の前に祈られた言葉を研究する必要があります。「これらのこと

を語り終えると、イエスは天を見あげて言われた、『父よ、時がきました。あなたの子があなたの栄光をあらわすように、子の栄光をあらわして下さい。あなたは、子に賜わったすべての者に、永遠の命を授けさせるため、万民を支配する権威を子にお与えになったのですから。永遠の命とは、唯一の、まことの神でいますあなたと、また、あなたがつかわれたイエス・キリストとを知ることでありま
す。わたしは、わたしにさせるためにお授けになったわがをなし遂げて、地上であなたの栄光をあら
わしました。父よ、世が造られる前に、わたしがみそばで持っていた栄光で、今前にわたしを輝か
せて下さい。わたしは、あなたが世から選んでわたしに賜わった人々に、み名をあらわしました。彼
らはあなたのものでありましたが、わたしに下さいました。そして、彼らはあなたの言葉を守りまし
た』 (ヨハネ一七ノ一―六)。

クリスチャンは敬虔をあらわす

神の義は絶対的です。この義が、神のすべての働き、すべての律法を特徴づけています。神の民も
神のようでなければなりません。キリストの生活が、彼に従う者の生活にあらわされなければなりま
せん。キリストの公的、個人的すべての言葉や行為に、実践的な信仰が見られました。この敬虔さが、
彼の弟子となった者たちの生活にも見られねばなりません。

与えられた光に心を留めている人は、キリストの品性の徳を毎日の生活にあらわします。キリスト

は罪を犯されませんでした。彼の中に罪はなかったからです。神は私に、信徒は实际生活において義をあらわさねばならないことをお示しになりました。

み言葉の中で、神は、間もなく起こるはずの厳肅な事件についてお語りになっています。これらのことを読んで、神の言われることを信じますか。または、もっともらしい哲学を聞いて、神に対する信仰を捨てますか。あなた方が心を神の前に低くして、罪を告白しなければ、あなたに臨む刑罰をどんな力によって避けることができるでしょうか。医事伝道事業にたずさわる兄弟方、いかがでしょうか。生ける神は、み言葉の中にその成就として今起こっている事件についてお語りになっていませんか。間もなく人間にとって最後の大きい清算の時が来ます。あなたの生活は、聖所の計りで計られた時、重さが足りなくはないでしょうか。またあなたの信仰は、影響され、制限されて、ついに不信仰になるのではないのでしょうか。人に従うことは神に逆らうことになるのです。「あなたがたは、はたして信仰があるかどうか、自分を反省し、自分を吟味するがよい」(コリント第二・一三ノ五)。

『特別な証(シリーズB)』第二・一二〜一七ページ

注意せよ

一九〇四年八月七日、ワシントンD・Cにて

愛する兄弟

私はあなたと、医事伝道協会に關係しているほかの医師に対してメッセージを与えられました。『生ける宮』^{*}という本の影響から離れてください。それはもっともらしい感じを与えます。その中には全く正しい考えもありますが、誤謬が混ざっています。聖句が前後關係を無視して用いられ、間違った理論を支えるために用いられています。

この本に含まれる誤った考えは、私に大きな悩みをもたらし、この件に関連した体験で、私の人生は費やされてしまったかのようです。

『生ける宮』は改訂されたという人がいるかもしれませんが、主は私に、著者は変わっていないこと、また彼が現在の考えを持ち続けている限り、彼と福音の牧師の間に一致はありえないことを示されま

*五六八ページの本で一九〇三年にJ・H・ケロッグ博士により出版された。汎神論の哲学が書いてある。

した。「まちがってはいけない。神は侮られるようなかたではない」(ガラテヤ六ノ七)と言って、私たちの民を警告する声をあげるよう、私は命じられました。

あなた方は、『教会への証』七巻と八巻を読んだはずです。これらの『証』の中に危険信号が発せられています。それは、間違った考えに影響されていない人々には非常に明白な光だったのですが、ある人々はそれを認めませんでした。先の本の間違った理論を、私たちの医師たちが抱いている間は、彼らと、福音使命をになっている牧師たちが一つになることはできませんし、変化が起こるまで一致すべきではないのです。

医事伝道者がその名にふさわしい行動と模範を示し、福音の牧師と固く一つになる必要を感じる時、調和ある行動が可能になります。しかし私たちは、一八四四年以来試練に耐えてきた永遠の真理の土台から退くことは、固く拒否しなければなりません。

『生ける宮』にあらわされたアルファ

私は、はっきり語るように命じられました。「それに立ち向かいなさい」という言葉が与えられました。「それに断固として立ち向かい、遅れてはならない」というのです。しかしそれは、私たちの働き人を伝道地から集め、教理や相違点を調べることによってではありません。このような調査はしません。『生ける宮』の中には、恐るべき異端のアルファが提示されています。オメガが続いてくるでしょ

う。そして神の警告に注意しない人々がこれを受け入れるでしょう。

重要な責任を負っている医師たちは、明確な霊的識別力を持つていなければなりません。彼らは常に見張りの立場を取っていなければなりません。私たちが今、気づいていない危険が間もなくあらわれ、彼らが欺かれないよう、私は切に願います。彼らが主にあって自由な立場に立つよう、私は強く望んでいます。彼らがイエスにある真理に固く立つ勇氣を持ち、彼らの最初の確信を最後まで持ち続けることを祈ります。

『特別な証（シリーズB）』 第二・四九、五〇ページ

第二十五章 私たちの信仰の土台^{*}

人間の器が、前進して真理を宣べ伝えよという命令に従う時、主は新しい活力をその働きに注いでくださいます。真理は永遠に輝くと言われた神は、この真理を、はっきりした音でラッパを吹く忠実な使命者たちを通して宣べ伝えられます。真理は批判され、軽蔑され、嘲笑されるでしょう。しかし、詳しく吟味し、試される時、いつそう光り輝いていきます。

民として私たちは、テストや試みに耐えてきた永遠の真理の土台の上に固く立つべきです。信仰の確かな柱を堅く支えなければなりません。神が私たちにあらわしてください。真理の原則は、私たちの唯一の正しい土台です。それが今日の私たちを造り上げたのです。時がたつてもその価値は変わりません。敵はこれらの真理をその場所から取り除き、その代わりに偽りの理論を持ってくるよう、常

*この項は、一九〇四年に出版された『特別な証（シリーズB）』第二・五一―五九ページに出ている。

に努力しています。欺まんな計画を少しでも実行できるようなことは、何でも持ち込めます。しかし主は、鋭い知覚力を持った人々を起こし、彼らはこれらの真理を神の計画の中の適切な位置に置くのです。

私は天の使命者から、『生ける宮』という本の中のある考え方は健全でなく、この考え方は、現代の真理の土台となっていて原則に十分立っていない人々の心を迷わせるものであることを示されました。それは神の人格性や存在について、空想にすぎないことを持ち込めます。地上のだれもこの問題について推測する権利はありません。空想的な理論が論じられれば論じられるほど、人間は神のことがわからなくなり、魂を清める真理がわからなくなってしまうのです。

次々に人が来て、『生ける宮』の立場の説明を求めました。「それは説明できません」と、私は答えました。そこに書いてある考えは、神についての真の知識ではありません。その本全体にわたって聖書の言葉が書いてありますが、その聖句は、誤謬が真理に見えるように使われています。間違った考えが、心を満足させるような方法で書いてあるので、注意しないと多くの人が誤りに陥ります。

私たちはこの本にあるような神秘主義を必要としません。こんな詭弁を信じる人々は、敵と語ることができるような状態になり、神から離れていきます。この本の著者は、間違った道を進んでいることが私に示されました。彼はこの時代の特別な真理を見失っています。彼は自分がどこに向かっているのかわかりません。真理の道は、誤謬の道とごく近いので、聖霊の働きを受けていないために真理

と誤謬の違いを鋭く見きわめることができない人には、一つのように見えるのです。

迫ってくる危険の幻

『生ける宮』が出版されたころ、夜の幻の中で、危険が近づいているため、私たちの信仰の基礎について神がお示しになったことを書くことによって備えをしなければならぬことが示されました。『生ける宮』が一部、送られてきました。しかしそれは読まないまま、私の書庫の中に置かれていました。主よりの光によって、私は、その本に書いてある考えのあるものは、神が支持されないことを知りました。それは敵が終わりの日に備えたわなであることがわかりました。このことは明らかなので、私がそれについて言う必要はないと考えました。

この本の教えについて、兄弟たちの間に論争が起りましたが、その中で、これを広く配布すべきであると思っている人々は、「これはホワイト姉妹が教えてきた考えを含んでいる」と言いました。これを聞いて私は驚きました。私の心は痛みました。この言葉は正しくなかったからです。

ついに私の息子は、「お母さん、この本の一部でも読んで、それが神より与えられた光と調和しているかどうかを確かめた方がいいのではないでしょうか」と言いました。彼は私の横に腰をかけ、私たちは序文と第一章の大部分、及びその他の章のいくつかの文章を読んでもみました。読んでいくうちに、私の初期の働きにおいて警告するように命じられたのと同じ考えが述べられていることに気がつ

きました。私が初めてメイン州を出たのは、バーモント州とマサチューセッツ州に行つて、このような考えに反対の証をするためでした。『生ける宮』はこれらの理論のアルファを含んでいます。そして私はオメガが間もなく続いて起こることを知っていたので、教会の人々のために心配しました。私は兄弟姉妹方に、神の臨在や個性についての論争に入らないよう、警告しなければならぬことを知っていました。『生ける宮』の中にあるこの点についての考えは間違っています。その教理を証明するために用いられている聖句は、その適用を誤っているのです。

『生ける宮』の教えが、私の書いたものによつて支持されるという主張は否定せざるを得ません。この本の中には、私の書いたものと調和する表現や考えがあるかもしれませんが。また私の書いたものの中に、彼らの考えの関連で引用され、『生ける宮』の著者の考えに従つて解釈されれば、この本の教えと調和しているように見える言葉も多くあるかもしれませんが。従つて、『生ける宮』の考えは私の書いたものと調和しているように見えるかもしれませんが。しかし神は、この考えが広がることを禁じておられます。

この時代に、ある人々が主張している詭弁がどんな結果を招くか見きわめている人はほとんどいません。しかし神はカーテンを上げて、その結果がどうなるかを示されました。彼らの論理的な結論から来る神の個性についての心霊術的な理論が、全教会を押し流します。キリストが天から来られてヨハネを通して人々に与えられた光が、全く評価されていません。彼らは、私たちの眼前にある光景は

特別に注意するほど重要なものではないと教えます。彼らは天に源を持つ真理を全く効果のないものとし、神の民の過去の経験を忘れさせ、その代わりに偽りの科学を教えます。

夜の幻の中で、ある人々は、これらの考えが今日人々の注意を引くべき大いなる真理であると思っていることを、私は示されました。一つの土台が示されました。それはしっかりとした木材 神の言葉の真理 で支えられていました。ところが医事伝道の重い責任を持つ人がいるような人を指導して、この土台を支えている木材をゆるめていました。その時、私は次の声を聞きました。「シオンの城壁の上に立っているべき物見はどこにいるのか。物見は眠っているのか。この土台は働き人である主によって建てられ、いかなる嵐にも耐えるものだ。彼らはこの男が神の民の歴史を否定する教理を述べるのを許すのか。決断して行動する時が来ている。」

魂の敵は、セブンスデー・アドベンチストの間に大改革が起こればならないという仮説を持ち込もうとしています。そしてこの改革は、私たちの信仰の柱としての教理を取り除き、再組織することにあるということです。こんな改革が起きたら、どんな結果になるでしょうか。神がその知恵によって残りの教会に与えられた真理の原則は、捨てられるでしょう。私たちの信仰も変わるでしょう。過去五〇年間働きを支えてきた基礎的原則は誤りであったとされ、新しい組織が作られるでしょう。新しい種類の本が書かれ、知的な哲学の理論が紹介されるでしょう。新しい組織の創設者たちは、都会に行って、すばらしい働きをするでしょう。安息日は重んじられず、それをお造りになった神はあがめ

られません。この新しい運動の進む道を妨げるものはないでしょう。指導者たちは、悪より美德がよいと教えますが、神は除外されています。彼らは人間の力に頼りますが、神がなければそれは価値のないものです。彼らの土台は、砂の上に建てられ、嵐がその建物を吹き飛ばすでしょう。

だれがこのような運動を始める権威をもっているでしょうか。私たちには聖書があります。聖霊の驚くべき働きによって証明された経験があります。妥協を許さない真理があります。この真理と調和しないものは、すべて拒否すべきではないでしょうか。

主のみ霊が私に書くよう迫られたものを送り出すことに、私は躊躇し、遅くなりました。私はこの考えの間違った影響を明らかにするように、迫られることを望みませんでした。しかし、入ってきた誤謬は、神の摂理のもとに**立ち向かわねばなりません**。

冰山だ！ 「それにぶつかれ」

魅惑的理論を広めることで私たちの信仰の基礎を危うくする敵の働きについての証を送り出す直前に、私は霧の中で冰山に出会った船の事故について読みました。その時、私は幾晩も眠れず、私の心は重かったのです。ある晩一つの光景がはっきり示されました。一隻の船が、濃い霧の水面に浮かんでいました。突然見張りが叫びました。「冰山だ、すぐ前だ！」そこには船より高くそびえるように、巨大な冰山が見えました。威厳のある声が叫びました。「それにぶつかれ！」一瞬の躊躇も許されま

せんでした。時を移さず、行動すべき時でした。機関士は全速力を出し、操舵手は船を氷山に向けて真正面から進めました。大きな音をたてて船は氷山に衝突しました。ひどいショックがきて、氷山は粉々に壊れ、破片が雷のような音をたててデッキに落ちてきました。乗客は衝突の力で激しくよろけました。しかしだれも命に別状はありませんでした。船は傷みましたが、修復可能でした。船は氷山に衝突してはね返り、生き物のように船首から船尾まで揺れていました。それから航海を続けていったのです。

私にはこの光景の意味がわかりました。私は命令を受けました。私たちの船長である神からの声で、「ぶつかれ」という言葉を聞いたのです。私は自分の義務がわかりました。一刻の猶予もできませんでした。決定的な行動の時がきていました。私は、「ぶつかれ！」という命令に、直ちに従わねばなりませんでした。

その夜私は一時に起き、できるだけ早く書きました。それから数日間、朝早くから夜遅くまで働き、私たちの間に入ってこようとしている誤謬について、私に与えられた教えを教会のために準備しました。

私は徹底的な改革を望んでいます。私たちが初期に戦って得た原則、聖霊の力によってもたらされた原則が維持されることを望んでいます。

私たちの信仰の固い土台

教会の多くの人は、私たちの信仰の基礎がいに固く置かれてきたかをよく理解していません。

私の夫、ジョセフ・ベーツ長老、ファーザー・ピアス^{*}、ハイラム・エドソン長老、そのほかの鋭敏で高潔で真実な人々が、一八四四年の時が過ぎた後、隠れた宝を探すように真理を探し求めました。私は彼らと出会い、研究し、熱心に祈ったのです。しばしば夜遅くまでともにいて聖書を学び、光を求めて祈り、ある時は徹夜をしたこともありました。これらの兄弟たちはたびたび集まっては聖書を学び、その意味を探り、それを力強く教える準備をしたのです。その研究の間に、「もうこれ以上はわからない」というところに来た時、主のみ霊が私に与えられ、私は幻の中に入り、学んでいた聖句について明瞭な説明が与えられ、またいかにして有効に教え、働くことができるかも教えられました。このようにしてキリストとその働き、および彼の祭司職に関して理解する光が与えられました。その時から私たちが神の都に入る時までの真理の流れが明らかとなり、私は主が私に与えてくださった教えを人々に伝えたのでした。

* 開拓者たちの中での年長の兄弟方の名前が追憶され、述べられている。「ファーザー・ピアス」というのはステファン・ピアスのことで、初代の牧会や行政の働きをした。「ファーザー・アンドリユース」はエドワード・アンドリユースのことで、J・N・アンドリユースの父親である。

この研究の期間中、私は兄弟たちの考え方がわかりませんでした。私の心は閉ざされたように思われ、学んでいる聖書の意味を理解することができませんでした。これは私の生涯の最も大きい悲しみの一つでした。私のこの状態は、私たちの信仰の主要なすべての点が、神の言葉と調和して明らかになるまで続きました。兄弟たちは、私が幻の中にいない時はこれらのことがわからないことを知っていたので、与えられた啓示は天よりの光として受け入れたのでした。

二、三年間、私の心は閉ざされて、聖書を理解することができませんでした。私たちが労している時、夫と私はファーザー・アンドリュース^{*}を訪ねました。彼はひどい炎症性のリウマチにかかっていました。私たちは彼のために祈りました。私は手を彼の頭に置いて、「ファーザー・アンドリュース、主イエスはあなたをいやしてください」と言いました。彼はただちにいやされました。彼は起き上がり、「こんなことは初めてです。神のみ使いがこの部屋にいます」と言いました。主の栄光があらわれました。光が家全体を照らしているようでした。そして一人の天使の手が私の頭に置かれていました。あの時以来、神のみ言葉が理解できるようになりました。

私たちの歴史のこの時期に、ひそかに強力な方法で私たちの信仰の土台を壊そうとして人々を導いているのは、どんな影響力でしょうか。私たちの信仰の土台は、この働きの初めに、祈りのうちにみ

* 前ページ参照

言葉の研究と啓示によって置かれたものです。この土台の上に、私たちは過去五〇年間築いてきました。私たちの信仰の柱のあるものを除こうとする働きが始まるのを見て、私が何か言うべきことがあっても驚くことはないでしょう。

私は、「ぶつかれ」という命令に従わなければなりません。神がお与えになった警告の使命を伝えなければなりません。そして結果は主にゆだねます。私は今、この問題を、すべての方面にわたって明らかにしなければなりません。神の民がそこなわれてはならないからです。

私たちは神の戒めを守る民です。過去五〇年間、あらゆる種類の異端が、私たちの所にもたらされ、み言葉の教えについて心をくもらせました。特に天の聖所におけるキリストの奉仕と、ヨハネ黙示録一四章の天使によって与えられた終末時代に対する天の使命に関して、私たちの心をくもらせてきました。一つ一つ、祈りつつ研究されることによって探し出され、奇跡を行われる主の力によって証明された真理の代わりに、あらゆる種類のメッセーじがセブンスデー・アドベンチストに対して熱心に説かれてきました。しかし、私たちを今日の私たちにした道しるべは、保たれるべきであり、神がみ言葉と聖霊の証を通して示されたように、保たれるに違いありません。神は私たちに、信仰を固くし、議論の余地のない権威を土台とした根本的な原則に堅く立つよう、求めておられるのです。

訳者の言葉

今日、全世界にわたって進展しているSDAの幅広い活動は、預言の霊の助けを抜きにして考えることはできません。

日本でも働きの初めから、預言の霊の翻訳に多くの関心と努力が払われ、今日までにかなりの邦訳が出版されたことは、働きの進展のために大きな力となりました。

今回の出版は、三巻よりなる『セレクトッド・メッセージ』の第一巻の前半です。『セレクトッド・メッセージ』は、エレン・G・ホワイトの著作のうち、その時までには本になっていなかったパンフレットやトラクト、定期刊行物に掲載された記事などから、永久的価値のある多くの資料を集めたもので、この時代に個人や教会が直面する問題に対して適切な指導を与えます。翻訳にあたり、今回詳しく再読して心が燃やされました。いろいろな問題に対する対処の仕方を学ぶとともに、大きな伝道の幻を与えられました。また、再臨運動初期における聖霊に導かれた聖書研究によつて、私たちが今よって立つ信仰の土台がいかに強固なものとされたかが、新たに印象づけられました。

この書籍が広く読まれ、残りの教会の働きを活発にし、激動の中にもなお伝道の機会が与えられて
いる日本の働きの助力となることを祈ります。

翻訳にあたって貴重な助言を与えられた清野喜夫氏、出版についていろいろ細心のお世話をいた
いた福音社の岡藤米蔵社長、および山本不二樹氏に感謝致します。

一九九二年春

山形俊夫

セレクトッド
メッセージ

↑

転載・複製を禁ず

1992 年 9 月 1 日 初版発行

定価 4,000 円

(本体 3,844 円)
(消費税 116 円)

著 者 エレン・G・ホワイト
発 行 者 岡 藤 米 蔵
発 行 所 郵便番号 241

横浜市旭区上川井町 1966 番地 福 音 社
電話 (045)921-1414 振替口座 横浜 7-599 番

(落丁、乱丁がありましたら、お取り替えいたします)

印刷・真興社 製本・関山製本社 PRINTED IN JAPAN

ISBN4-89222-040-X